

# 令和3年度 事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
法人本部

自 令和3年4月1日  
至 令和4年3月31日

## 目 次

(管理経営に関する事項)

- 1.理事会・評議員会の開催状況
- 2.施設整備等状況
- 3.職員の入退職状況
- 4.職員の処遇状況
- 5.職員の研修状況
- 6.職員の福利厚生

(事業運営に関する事項)

『事業報告書』資料編にて詳細報告

(経理に関する事項)

『決算報告書』にて詳細報告

(管理運営に関する事項)

1. 理事会・評議員会の開催状況

- (1) 令和3年6月6日(日)～理事会(※書面評決)
  - 令和3年6月21日(日)～定時評議員会(※書面評決)
  - ・令和2年度 社会福祉法人慶寿会の事業報告に関する件(理事・評議)
  - ・令和2年度 本部会計及び施設会計の決算の承認に関する件(理事・評議)
  - ・令和3年度 職員給与規程に関する件(理事)
  - ・理事(候補)選任に基づく理事会の同意に関する件(理事)
  - ・監事(候補)選任に基づく理事会の同意に関する件(理事)
  - ・評議員選任・解任委員会の招集に関する件(理事)
- (2) 令和3年6月21日(日)～理事会(※書面評決)
  - ・理事選任に基づく理事会の同意に関する件
  - ・監事選任に基づく理事会の同意に関する件
  - ・評議員の理事会同意に関する件
  - ・理事長の互選に関する件
- (3) 令和3年11月28日(日)～理事会・臨時評議員会(※対面開催)
  - ・令和3年度中間期決算に関する件(理事・評議)
  - ・令和3年度予算の補正に関する件(理事・評議)
- (3) 令和4年3月27日(日)～理事会・臨時評議員会(※書面評決)
  - ・令和4年度事業計画(案)に関する件(理事・評議)
  - ・令和4年度本部会計及び施設会計収支予算(案)に関する件(理事・評議)

## 2. 施設整備状況

### ○カトレアホーム

- 1階 入浴場前天井エアコン入替更新
- 1階 栄養課 外扉ドアノブ取り替え
- 1階 ボイラー室 配管穴補修
- 1階 厨房 食器洗浄機・冷凍冷蔵庫更新
- 1階 食堂給湯器修繕・蛇口交換
- 1階 カトレア 5居室エアコン修繕（部品・熱交換器取り替え）
- 1階 ウォーターサーバー取り替え（無償）
- 1階 ボイラー室ポンプ故障修繕
- 1階 栄養課天井漏電調査（2階シンクより水漏れ）
- 1階 玄関廊下天井取付エアコン湿度センサー修繕
- 1階 利用者洗面台水漏れ修繕
- 1階 廊下手すり丸棒取り替え
- 1階 大型洗濯機修繕（フロートスイッチ他交換）
- 1階 入浴場 特浴機ストレッチャー板外れ
- 1階 入浴場 チェアインバスキャスター4個交換
- 1階 厨房 マジミックス（フードプロセッサー）修繕
- 1階 中庭池用ポンプ交換
- 2階 シンビ側職員用トイレ ウォシュレット修繕
- 2階 シンビ1 入口蛇腹カーテンねじれ外れ修繕
- 2階 廊下系統空調機修繕
- 廊下 誘導灯更新2カ所
- 火災感知器交換
- 排水ストレーナー修繕
- グリストラップポンプ部品交換、清掃
- 防火扉取り替え、塗装工事
- 厨房内側溝改修工事、グレーチング取り替え

### ○松林ケアセンター

- 厨房立水栓部品取替え
- トイレ手洗い器水栓修繕（2カ所）
- 換気専用換気扇（ロスナイ）交換工事
- 自転車修理（4号車・訪問用）パンク修理
- 電気設備工事（落雷によるPAS損傷）
- 厨房・浴室 蛇口修繕
- 冷凍庫本体入替

○平和町介護サービスセンター

- エアコン分解洗浄
- ブレーカー交換（2カ所）
- エアコン修繕

○デイサービスふる里

- 中庭通用口扉補修（塗装型枠板・ペンキ等）

○浜須賀地区地域包括支援センターあさひ

- 自転車修繕
- 電話工事（調査復旧作業）

○松林地区地域包括支援センターくるみ

- 自転車タイヤバルブ、チューブ交換、ブレーキ修繕
- 電話設備老朽化による設備入替工事

3. 職員の入退職状況

令和2年度 就退職者 令和2年4月1日～令和3年3月31日		
カトリアホーム		
	正職員	非常勤
退職者	5	5
就職者	5	6
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		1
異動 入	1	
松林ケアセンター		
	正職員	非常勤
退職者		4
就職者	1	6
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		1
平和町介護サービス		
	正職員	非常勤
退職者		1
就職者		
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
デイサービスふる里		
	正職員	非常勤
退職者		3
就職者		
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
包括あさひ		
	正職員	非常勤
退職者		
就職者	1	
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
包括くるみ		
	正職員	非常勤
退職者	1	
就職者	2	1
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		1
異動 入		

令和3年度 就退職者 令和3年4月1日～令和4年3月31日		
カトリアホーム		
	正職員	非常勤
退職者	3	7
就職者	2	9
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
松林ケアセンター		
	正職員	非常勤
退職者	2	12
就職者	1	17
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
平和町介護サービス		
	正職員	非常勤
退職者	1	4
就職者	1	1
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
デイサービスふる里		
	正職員	非常勤
退職者		
就職者		1
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
包括あさひ		
	正職員	非常勤
退職者	2	
就職者	1	
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		
包括くるみ		
	正職員	非常勤
退職者	1	
就職者	1	
パート勤務から正職員		
産・育休復帰		
産・育休継続		
休職（傷病）		
異動 出		
異動 入		

#### 4. 職員の処遇状況

☆賞与の支給 令和2年度は年間3.25か月を支給（夏・冬）

☆資格取得の状況

正規職員の国家資格（介護福祉士・社会福祉士）、介護支援専門員の合格者に対しては、基本給の1号俸アップを実施。非正規職員については、手当相当の時給アップを行う。職務遂行に必要な国家資格（安全衛生管理者）取得については「職務手当」を支給。

- ・介護福祉士2名（松林ケアセンター、デイサービスふる里各1名）
- ・社会福祉士、介護支援専門員の新規合格者は0名
- ・安全衛生管理者（2種）（カトレアホーム1名）

☆永年勤続表彰（10・15・20・25・30年勤続）17名に記念品贈呈 令和3年8月5日実施

※20年1名＝あさひ1名、15年8名＝カトレア1名、松林6名、くるみ1名

10年8名＝カトレア4名、松林2名、平和町2名

☆介護職員処遇改善加算 介護職員に支給（26,411,643円）

特定介護処遇改善加算 全職員対象に支給（7,640,277円）

#### 5. 職員の研修状況

当法人の事業計画の目的を達成するために個々の職員が自己の資質を向上させることは欠くことのできない条件である。そのため外部研修への参加も可能な限り機会が与えられるように十分な配慮をし、その成果が得られた。尚、施設（事業所）内研修は年間の研修計画を施設（事業所）毎に立て技術レベルの向上、研鑽に努めている。

【令和3年度主な成果】

☆カトレアホーム

※「かながわ高齢者福祉研究大会」（※WEB開催）『優秀賞』受賞（細川清人、新倉恵以）

『「まず行動する為の情報収集と共有方法～安心して利用者を守るためには～」』

※株式会社オーラルケア広報誌記事掲載「口腔ケア」（令和3年7月号）

☆松林ケアセンター

※日本介護支援専門員協会南関東ブロック研修及び神奈川県介護支援専門員協会研究大会  
開催主体、演題発表

※呼吸ケア誤嚥ケア学会内「嚥下食アワード」最優秀賞受賞（連覇）

※シルバー産業新聞掲載（令和4年1月～3月号特集）

※月間ケアマネジメント（2021年7月号）

☆デイサービスふる里

『かながわ認証』新規取得

#### 6. 職員の福利厚生

☆「ことぶき会」（懇親会）※「新型コロナウイルス感染症」により中止

（ことぶき会費（600円/月）は控除月に応じて全額返金）

☆ストレスチェック制度（令和4年1月実施）55名

☆新型コロナワクチン接種、インフルエンザ予防接種斡旋

☆千葉（富津）研修センター「Curaの家～志駒荘～」（※利用実績なし）

## (事業運営に関する事項)

### ➤ 社会福祉法人慶寿会（法人全体）

#### ☆40年経過から次の50年へ

法人設立（1979年5月）から43年が経過。設立当時と社会情勢も大きく変化する中、設立の理念（“人は人のためにあることを自覚し、利用者の方、職員、地域の方と助け合い、睦み合い、学び合い、楽しみ合って健やかに生きる”）を忠実に体现し、事業運営を継続してきた。一昨年度後半に行った『理念継承プロジェクト』を起点に、法人を長く見てきた職員を中心に、新たに加わった職員への周知啓蒙活動を精力的に行っている。予定していた法人全体での研修会（勉強会）はコロナ禍にあって実施できていないものの、それに代わる手段を講じてしっかり継承していくことを引き続き行っていく。

#### ☆「人事考課制度」を法人の人材育成の基盤に

「人事考課制度」が初めて本格的に運用された初年度が令和3年度であった。個人毎に設定した「重点課題目標」を含めた法人職員としてあるべき姿であるために、①自己評価②一次考課者による面談③二次考課者による考察、これらを踏まえての④「重点課題目標」設定のためのフィードバック面談の一連の流れに沿って行った。考課する側（管理者層）、される側（一般職員層）双方に課題が残ったが、それを顕在化できたことも収穫であった。重点目標の達成は“自己の成長のためにある”ということを改めて理解していただくように引き続き啓発活動を行っていく。非常勤職員には「人事考課制度」に準じて、雇い入れ面談を丁寧に行い、契約更新と共に、自己実現への橋渡しをした。

#### ☆「新型コロナウイルス」感染症対策

令和3年度も何度か感染の波があり、易感染の高齢者を預かる施設はもちろん、法人の全ての事業において細心の注意を払って対応した。特に令和3年1月頃より流行した（※現在も一時収束の評価に至っていない）「オミクロン株」はその感染力が別格であり、あらゆる感染予防対策を以ってしても、完全に食い止めることが難しかった。それでもカトレアホーム職員では4名（3月末時点）の感染者に止め、いわゆる「クラスター」発生することなく、施設利用者や感染の脅威から守ることができた。松林ケアセンターでは、年度末、短期間に5名以上の感染者を出して、数日を自主休業する事態になった。それでもその後の対応が適切であったため、重症者や死者を出すには至らず、収束させた。他事業所でも職員及びその家族等で感染者（及びそれに伴う濃厚接触による自宅待機等）発生で業務に一時的な支障は生じたが、経営を揺るがすような事態には至らず、現在まで経過している。この間、日本財団による無料PCR検査等の斡旋利用により、感染をいち早く把握するシステムもあったが、年度末で同事業が終了したこともあり、今後代替を含む、感染予防対策の再検討が急務になっている。

➤ 特別養護老人ホームカトレアホーム

(介護老人福祉施設 定員50床 短期入所生活介護 定員2床)

☆稼働率・本入所97.3%、短期入所119.2%、全体98.1%

令和2年度実績を下回り、全体で98.5%以上の目標にも届かず。退所者が短期間で集中(6月から8月の間に全体の5割を超える7名の退所)し、ショートステイでの空床利用、待機者の確保と速やかなご案内に滞りが生じた。新たな入所者を獲得し、落ち着いた状況に戻りつつあるも、数年ぶりに定員の2割以上の退所者が出た。ショートステイの稼働率(空床利用)も本入所の動向(対応)に引っ張られ、十分な補完(受け皿)とならなかった。利用者動向を見据えたより計画的な運用が課題。

平均要介護度4.22

☆医療依存度の高まりにより、緊急時救急搬送等のニーズが急激に高まる傾向。昨年度一度もなかった救急車要請(搬送)が急増。その後の入院や退所に繋がったケースもあり、特養の「生活の場」としての機能と医療ニーズの受け皿としての課題が浮き彫りになった。コロナ禍の影響で救急搬送受け入れのハードルも高くなっているため、早期の対応を心掛ける。

感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス)罹患者0名は達成。

「新型コロナウイルス」への感染予防対策(ワクチンの希望者への3回接種済み)は一定の効果も挙げている。(※今後も最重要課題と認識)

☆職員の充足状況:

介護職員(常勤)は比較的安定。介護職員処遇改善手当等の賃金底上げの効果もあり、定着が進む。介護技術においても熟練が進んでいる。一方、看護職員の定着は大きな課題。介護施設における看護職員の役割を理解していても、医療依存度の高まりや資格独占域(医療職でなければ行えない業)の広がりにより「生活の場」を意識し辛く、看護職の負担増に繋がっている。連携においても互いの専門性の“すれ違い”が生じることあり、管理者層の悩みの種となっている。配置基準を遵守しながら、効率的な人員確保を目指す。外国人労働者の活用も視野に入れ検討するも、コロナ禍により停滞している。

☆入所待機における現状として「十分な待機者」を得ているとは言い難い状況。全ての申込者による名寄せ調査において、男女各50名程度の待機者がいると報告されているが、重複申し込みや受け入れ困難事例も含まれており、実際の検討対象者は50%あるいは30%程度と見積もるのが現実的。「選ばれる施設」になるよう、入所問い合わせ等には丁寧な対応に心掛ける。

☆積極的に取り組んできた研修受講についてもその方針は変わらない。「WEB研修」や「ハイブリッド研修」(現地及びWEB併用)などが充実し、移動時間の短縮で効率的に学べる仕組みも増えてきている。必要度の高いものについては、徹底した感染症対策を講じて参加した。

☆施設内におけるICT化の推進が今後の運営の大きな鍵になる。人集約的な仕事であることは否めないが、その中で機械や技術がより優れた効果を発揮する場面も多くある。少ない人的資源を以下に効率的に必要な箇所に投入する、それを補完するものとして、ICT技術の導入。イニシャルコスト(初期導入費用)は生じるが、先行投資と考え、少しずつこの方向に舵を切っていく必要性、岐路に立っていると認識している。

☆施設の経年劣化、必要な修繕は大小問わず必要。修繕資金の確保、劣化させない使用を模索。

➤ 松林ケアセンター（居宅介護支援事業、通所介護、訪問介護、茅ヶ崎市委託事業）

☆令和3年度秋に令和4年度からの6年間の「指定管理」更新について募集があり、応募した。

指定管理委員による事前提出資料の審査及び法人全体を含む運営母体のプレゼンテーション（質疑応答）により、令和4年1月に引き続き「指定管理」受託が決定した。

☆居宅介護支援事業→昨年に引き続きコロナ禍における“働き方”について、多様な手法（テレワーク、分散勤務、オンライン会議）を用いて活動した。新たな介護支援専門員（ケアマネジャー）の増員を受け「特定事業所」として加算取得した。日本介護支援専門員協会（南関東ブロック）及び神奈川県介護支援専門員協会の研修大会の運営に関与し、演題発表をする等、外向きの発信を積極的に行った。

☆通所事業→コロナ感染と常に隣合わせの業態ながら、予防対策を講じて事業継続してきた。懸命な対応にも関わらず「第6波」（オミクロン株）の出現により、3月末に感染者5名以上の集団発生（クラスター）が生じ、4営業日を休業する事態になった。それでもその後は、風評被害に依る客離れなどなく、利用者は戻りつつある。中重度利用者、認知症利用者の積極的受け入れ（加算取得）、各種大会での受賞実績がある「食支援」分野での強みを活かして、更なる利用者増を図る。年度中途（8月）での管理者退職により、新たな組織構築が必須。

☆訪問介護事業→長く懸案事項であったサービス提供責任者の確保ができ、主任配置による管理運営体制が充実したことにより、サービス提供量の増大に繋がっている。反面、訪問介護員（ヘルパー）の絶対数確保と高齢化により、希望するサービスとのミスマッチが生じている。訪問介護員の増員はこの事業共通の課題であり、採用方法や指導体制を法人本部もしっかりとバックアップしながら、あるべき体制の構築に努めてきた。その結果、各指標における実績は、昨年度のそれを大きく上回るものを残すことができた。

☆茅ヶ崎市委託事業→市の財政ひっ迫状況もあり、それぞれの事業において例年並みもしくは規模縮小傾向が生じている。（※コロナ禍による影響も含まれている）「LSA」（松林住宅管理事業）では、居住者の高齢化、要介護化が進み、安否確認等に影響が出ている。「転倒予防教室」は市も必須の事業との位置づけも、コロナ禍の影響を直接受けるものであり、令和3年度はほとんど“開催”ができなかった。そのような環境下でも「松林ファンクラブ」（認知症カフェ）の開催等、自主事業において社会資源開発の一端を担っている事業も育ってきている。

☆ボランティア活動→後継者問題が大きな課題である中でのコロナ禍は、活動の存続に大きな影響を及ぼしている。活動自粛を求める期間が長くなり、活動そのものを止めざるを得ない団体が多数ある。センターとしては、定期的な近況伺い等を通じて再開時に備えているが、この状況が長期化すればするほど、再開へのハードルが高くなるのでは？と危惧している。

☆（引き続きの指定管理を受けたものの）事業展開をして行く上での大小問わずの修繕問題が今後の課題となる。入浴設備の老朽化が最大の課題（※現在「成建福祉財団」に助成金申請中。）「ゴミ」の有料化は、市内全域を対象に令和3年4月から実施されたが、市所有の建物ということで、有料化の対象とならなかった。しかし、減量化への協力は必要である。

昨年度に引き続き「茅ヶ崎市エコ大賞」を（2年連続）受賞。敷地内の緑地保全など環境に配慮した取り組みが評価された。

➤ 平和町介護サービスセンター（居宅介護支援事業、訪問介護）

☆居宅介護支援は、ケアマネジャー1名の入退職（入れ替わり）があり、利用者担当等が滞ることがあったが年度内に解決方向に進み、新たな担当依頼もあり安定した運営ができた。

従前より近隣地域からの引き合い、期待も大きく「より安心してマネジメントを受けられる事業所」としての評価はより定着した。慢心することなく期待に応えていくと同時に、更なる事業拡張も視野に機会ロスを減らす。

☆訪問介護では、2名のサービス提供責任者のマネジメントにより地域で求められるニーズを内外居宅支援事業所からの要請を受けて対応してきた。松林同様、訪問介護員（ヘルパー）の担い手不足と高齢化の課題はあるものの、以前からの懸案であった「生活（介助）支援」から「身体（介助）支援」へのシフトは進んでいる（在宅での“看取り”を希望されている利用者に応じて、帯で身体介護に入る（但し、期間は短期で終える）等のケースが目立つようになった。）全体の稼働時間数はここ数年、減少傾向だが、重度者への対応やヘルパーの効率的運用で、全体的な事業収支は例年通りに安定した結果を残せている。サービス提供責任者の事務負担は相変わらずあり、直接のサービス提供時間が平均約80時間/月を大きく下回っている。事務作業の効率化（※ICT機器の導入を検討）が課題。

☆事務所の規模拡大（サテライト化）を視野に入れるも、現事務所の認知度の高さなどから、代替手段の検討が進んでいない状況。

➤ デイサービスふる里（地域密着型通所介護）

☆令和3年9月で5年間の賃貸借契約期限を迎えたが、本部手動にて賃借人と継続契約の交渉を行い、（賃貸借料等）同条件での5年間の更新で同意を得た。

☆小規模ながら“堅調”以上の成果を出している。（稼働率100%達成含む高い稼働率）な事業運営ができています。数字が苦しい時もコンセプトを見失わず「居心地良く楽しめるデイサービス」にするための工夫と職員個々の特性を前面に押し出したサービスメニューを愚直に続けていることが堅調の一要因と分析している。

☆挑戦し続けた「かながわ認証」を3回目の申請にて受賞。一番の懸案事項（障壁）だった「職員に対する研修機会の提供」について、コロナ禍でオンラインによるものが定着し、移動時間や現場の欠員を生じさせることなく参加させる（学ばせる）ことができたことが大きな要因。もとより、職員の研鑽には高い意識を持っていたこともあり、形を変えた研修の斡旋に職員の抵抗感はなく、むしろ絶好の学びの機会となった。

☆地域密着型通所介護にとって“地域”とのつながり（認知）は生命線である。近隣の学校や幼稚園との交流で若い世代にも広く認知されたことで、知名度も格段に上がった。今まで以上に事業内容が理解され、地域の一員としての地位が確立されたものと評価している。コロナ禍で、このような関係性を継続することがとても難しい環境にあるが、要所で管理者が地域に出向き関係性の維持に努力している。こうした活動が変わらぬ評価に繋がっていると言える。

☆松林ケアセンター同様、事業形態としてはコロナ感染リスクの高いサービスであるが、徹底した感染予防対策と利用者家族への協力等で、現在までに（事業運営に影響を与える内容での）感染者を出していない。

➤ 浜須賀地区地域包括支援センターあさひ・松林地区地域包括支援センターくるみ  
(包括的支援事業、介護予防ケアマネジメント、福祉相談室)

☆3職種による「包括的支援事業」(地域ケア会議の開催、国市による事業評価、認知症サポーター養成講座、家族介護教室、地域における包括的、継続的ケアマネジメント、権利擁護事業等)の業務負担が年々増している中での「コロナ禍」で活動2年目に入り、少しずつ再開(結果)を求められるようになった。中でも「地域ケア会議」の開催と「認知症施策の推進」は令和4年度からの最重要施策として位置付けられていることから、令和3年度はそれに向けての足掛かりとして活動した。

☆「介護予防ケアマネジメント」(要支援者へのサービス計画書作成支援)は包括の本体業務からは若干外れるものの、付帯事業としての役割を年々増している状況。介護予防支援が必要な高齢者数の増加がベースにあり、直営と居宅介護支援事業所への委託にて対応しているが、居宅介護支援事業所の担当可能件数の減少等あり、全体件数に対する直営割合(直営:委託)を高めて対応している。「あさひ」は7:3、「くるみ」はプランナーの増員に対する損益分岐分析の結果から、従来割合(直営:委託)8:2から4:6程度に変化した。(直営実施の割合増→介護保険収入増。この介護予防ケアマネジメントの担当件数が、「包括的支援事業」の実施に大きく影響を与える為、適切な配分で居宅支援事業所に委託しているが、地域に存在する居宅支援事業所の数などの分布により思う様に委託に出せないという状況もある。)

プランナーの増員で急な委託解除→直営担当での業務負担リスクの分散が進んだ。

☆「あさひ」では欠員だった「福祉相談支援員」が8月に補充。保健師が3月末で退職となったが、すぐに補充が叶い、適正人員で年度スタートしている。

「くるみ」は「(経験ある)看護師」の職員交代があり、後任への引継ぎが順調に終了した。

☆茅ヶ崎市独自の政策として設置されてきた「福祉相談室」が令和4年3月末でその役割を終えた。「福祉相談室」は「包括支援センター」に統合され、高齢分野以外の初期相談窓口機能を残して市が設置する「中核機関」に引き継がれる。今後は市の「中核機関」の役割、重要性が更に増すことが予想されるが、統合(移行)直後には混乱があることが予見される。

「福祉相談支援員」(担当者いずれも社会福祉士)は法人の貴重な人材として地域包括支援センターで継続雇用となった。それまでとの職務内容の違いから、包括職員になることを見越して研鑽してきた経緯があり、比較的スムーズに移行できたと考えている。

逆に包括職員はよろずの初期相談に対応するべく分野横断的な知識を積む必要がある。これも令和3年度中に計画に従い、人材育成の一環として活動してきた。新年度に入り、その成果を試される状況になっている。

(詳細『事業報告書』資料編参照)

### (経理に関する事項)

令和3年度社会福祉法人慶寿会の決算報告については、例年通り、主に「資金収支計算書」に沿って報告します。(※主に「お金」の流れを見ていただきたく、「事業活動計算書」は、「減価償却費」や「賞与引当金」等、実際には「お金」の移動を伴わない科目を含むため、経営実態をより正しく反映できる「資金収支計算書」を以って説明します。)添付の決算書(抜粋)は、①法人全体→②社会福祉事業区分(カトレアホーム、松林ケアセンター、平和町介護サービスセンター(デイサービスふる里は、平和町拠点の「通所介護」に含まれていますので、この資料からデイサービスふる里単体での数値は把握できません。決算書本体には事業区分別の内訳表もありますが資料が膨大になるため割愛します。デイサービスふる里単体での結果は以下「事業所毎」の項を確認下さい。)→③公益事業区分(あさひ、くるみ)の順に進みます。その後、事業活動計算書、貸借対照表が上記の順でそれぞれ続きます。法人単位の財務諸表については、予算と決算の差異を表示しています。「資金収支計算書」上の収支差額は「当期資金収支差額合計」((10)及び(11)の欄)に記載の数字を参照して下さい。この数字がプラスであれば黒字、マイナスであれば赤字ということになります。財務三表の後ろに「財産目録」と「5年間推移」を付しています。赤字で記載の部分がこの数字に大きな影響を与えたと思われる要因ですが、その詳細については、以下「事業所毎」の項をご確認下さい。

#### 【事業所毎】

##### ▶ カトレアホーム

介護保険事業収入では、稼働率は98.1%、収入は1,343千増。食費の値上げによる(食費・居住費負担限度額適応対象者以外の食費を1,600円/日から1,800円/日に、特定介護入所者介護サービス費等(介護保険から給付される食費・居住費の基準額増))影響が大きい。支出では人件費が7,734千増、事業費535千増、事務費664千増(事業活動支出計8,912千増)。人件費の増加は、3,404千が退職給付支出(10年超の永年勤続者の退職2名)、3,676千が賞与支出(支給月数は例年通り)、令和3年10月に改訂された「最低賃金」の上昇(1,012円から1,040円へ38円上昇)による非常勤職員への賃上げが影響した。事業費支出では1,189千増となった水道光熱費の影響が大きい。事務費では修繕費において607千増。給湯設備、空調設備、厨房内の側溝工事等、基本設備に関する修繕に費用を要した。結果、事業活動資金収支差額は、昨年度比△3,694千となっており、人件費、水道光熱費の見直し(支出抑制)を検討する必要がある。

##### ▶ 松林ケアセンター

介護保険事業収入では、通所介護/△1,372千、居宅介護支援/3,171千、訪問介護/4,934千、事業所全体では6,964千となっている。通所で7月に管理者の退職があり、人員体制が不安定な状況があった。(令和4年4月からは常勤職員(管理者候補)の採用ができた)訪問介護での懸案事項であったサービス提供責任者の確保は年度内に達成(常勤2名、非常勤1名)となり、今年度は更なる増収が見込まれている。

事業活動支出について、通所介護/579千増、居宅介護支援/345千増、訪問介護/3,638千増となっており、特に通所介護においては、収入減ながら事業費、事務費増であり、経費節減に努める必要がある。居宅介護支援については概ね堅調、訪問介護では収入増ではあるが、人件費等経費増であるため、バランスを保っていく必要あり。

結果、事業活動資金収支差額は、通所介護／△1,952千増、居宅介護支援／2,825千増、訪問介護／1,296千増、事業所全体（昨年度比）では2,058千円増となった。

▶ 平和町介護サービスセンター

介護保険事業収入では、居宅介護支援／△831千、訪問介護／1,422千増。年度途中で介護支援専門員の退職（1名）により、一時的に担当件数の減少があったため。訪問介護は、件数は減少したが、提供したサービスが身体介護（重介護）にシフトしたため報酬ベースでは増加に繋がった。事業活動支出では、居宅介護支援／1,376増、訪問介護／△614千、居宅介護支援の支出増は、前述の職員退職に伴う退職給付支出であり、単発的な支出であるため特に問題はないと考える。

結果、事業活動資金収支差額は、居宅介護支援／△2,208千、訪問介護／2,036千、事業所全体で昨年度比、△172千と微減となった。

▶ デイサービスふる里

介護保険事業収入では、3,701千増。稼働率が高水準を保ち（100%稼働も達成）大幅な収入増。次年度は新たな加算の算定見込みもあり、更なる増収も見込まれる。

事業活動支出では（人件費として1,028千増、事業費は△124千）全体では996千増ではあるが、それを大きく上回る収入増があるため、非常に堅調であると考えられる。事業活動資金収支は昨年度比、2,704千増。

▶ 浜須賀地区地域包括支援センターあさひ

介護保険事業収入では、△321千、委託内容が示す人員配置を満たせない時期があり、当初の委託金額より人件費相当分を返金したことによる。現在は人員配置基準を満たし、介護予防ケアマネジメント（直営担当）の件数増が見込まれる為、増収に転じると思われる。事業活動支出では、△1,400千、上記の状況がこちらにも影響している。それでも事業活動資金収支差額は昨年比822千増。

▶ 松林地区地域包括支援センターくるみ

介護保険事業収入では、1,996千増。介護予防ケアマネジメント（直営担当）を計画的に増やす。（直営：委託の割合を従来の「2:8」から「4:6」程度まで引き上げている。）事業活動支出は、△3,112千、令和2年度は職員の入れ替わりがあったが、令和3年度はその影響がなかった。結果、事業活動資金収支差額は、昨年度比4,269千の大幅増となった。松林地区は高齢者人口が多く（6,000人超）で委託料に加算が付加されている。

（総括）

これらの数値を踏まえ、令和3年度の法人全体の収支は、528千円の黒字計上となった。引き続き「コロナ禍」の中での事業運営は難しい舵取りを余儀なくされています。感染は、完全な収束に至っていないが国も社会機能との両立を図る方針に徐々に切り替えていくような動きがあり、易感染、重度化しやすい高齢者を対象にした事業運営は、支援者（介護職員等）の確保も含めて、難しい状況が続くと分析しています。本部機能の安定化により、全事業所の健全運営に向けてのバックアップ体制をより強固なものにしていきます。本部母体であるカトレアホームの収支改善（人件費、拠点間繰入金）の調整、大規模修繕の計画的実施が重要との認識です。

（詳細『決算報告書』を参照）

## 第2議案第2号（理事・評議）

令和3年度 本部会計および施設会計の決算報告に関する件

（提案理由）

本案は、定款第32条1項の規定により承認を得たいので提案する。

（概略説明）

法人全体及び各事業所における令和2年度の決算は、社会福祉法人慶寿会法人本部事業報告の（経理に関する事項）の項を参照して下さい。また主だった財務諸表（資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表等）は、決算書（抜粋）を参照して下さい。決算の承認にあたっては、令和4年5月13日（金）10：00～法人監事2名（妻鹿監事、太田監事）、鈴木顧問税理士、本部事務局職員（青柳施設長、土江事務長）で監事監査を実施しております。監事監査報告につきましては、添付の「監事監査報告書」をご確認下さい。

令和4年6月5日  
社会福祉法人慶寿会  
理事長 小笹慶資

令和3年度 社会福祉法人慶寿会 決算書目次

決算書表紙

資金収支計算書 一号一様式

資金収支内訳表（事業区分） 一号三様式

事業活動計算書 二号一様式

事業活動内訳表（事業区分） 二号三様式

貸借対照表内訳表 三号一様式

貸借対照表内訳表 三号三様式

財産目録 別紙4

社会福祉法人慶寿会 財務資料 5年推移

# 決 算 書

令和3年度

自 令和3年 4月 1日

至 令和4年 3月31日

社会福祉法人 慶寿会

**法人単位資金収支計算書**  
(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第一号第一様式  
(第十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	532,446,780	534,861,993	△2,415,213	
	経常経費寄附金収入		130,000	△130,000	
	受取利息配当金収入	2,600	825	1,775	
	その他の収入	13,410,000	2,130,487	11,279,513	
	事業活動収入計(1)	545,859,380	537,123,305	8,736,075	
	支出				
人件費支出	408,140,000	416,266,303	△8,126,303		
事業費支出	50,724,000	52,864,928	△2,140,928		
事務費支出	59,957,800	58,823,342	1,134,458		
支払利息支出	360,000	260,038	99,962		
その他の支出	185,000	202,770	△17,770		
事業活動支出計(2)	519,366,800	528,417,381	△9,050,581		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	26,492,580	8,705,924	17,786,656		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	2,640,000	2,640,000		
	固定資産取得支出	2,994,654	2,834,654	160,000	
ファイナンス・リース債務の返済支出	2,425,668	2,480,544	△54,876		
施設整備等支出計(5)	8,060,322	7,955,198	105,124		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△8,060,322	△7,955,198	△105,124		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入		4,763,220	△4,763,220	
	その他の活動収入計(7)	0	4,763,220	△4,763,220	
	支出				
	積立資産支出	4,091,000	4,025,000	66,000	
その他の活動による支出		959,976	△959,976		
その他の活動支出計(8)	4,091,000	4,984,976	△893,976		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△4,091,000	△221,756	△3,869,244		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	14,341,258	528,970	13,812,288		
前期末支払資金残高(12)	158,446,706	158,446,706	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	172,787,964	158,975,676	13,812,288		

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 社会福祉事業区分 資金収支内訳表

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第一号第三様式  
(第十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		カトリアホーム	松林ケアセンター	平和町介護 サービスセンター	合計	内部取引消去	事業区分合計
事業活動による収支	収入						
	介護保険事業収入	239,923,962	137,001,480	81,138,148	458,063,590		458,063,590
	経常経費寄附金収入	130,000			130,000		130,000
	受取利息配当金収入	587		142	729		729
	その他の収入	14,894,577	168,928	4,590	15,068,095	△11,259,000	3,809,095
	事業活動収入計(1)	254,949,126	137,170,408	81,142,880	473,262,414	△11,259,000	462,003,414
支出	人件費支出	199,542,360	106,112,978	61,417,248	367,072,586		367,072,586
	事業費支出	38,978,930	12,276,442	1,609,556	52,864,928		52,864,928
	事務費支出	19,713,282	11,276,510	7,566,578	38,556,370		38,556,370
	支払利息支出	260,038			260,038		260,038
	その他の支出	202,770			202,770		202,770
	事業活動支出計(2)	258,697,380	129,665,930	70,593,382	458,956,692	0	458,956,692
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△3,748,254	7,504,478	10,549,498	14,305,722	△11,259,000	3,046,722
施設整備等による収支	収入						
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	0	0	0
	支出						
	設備資金借入金元金償還支出	2,640,000			2,640,000		2,640,000
	固定資産取得支出	1,639,030	495,000	216,624	2,350,654		2,350,654
ファイナンス・リース債務の返済支出	682,992	658,368		1,341,360		1,341,360	
施設整備等支出計(5)	4,962,022	1,153,368	216,624	6,332,014	0	6,332,014	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△4,962,022	△1,153,368	△216,624	△6,332,014	0	△6,332,014
その他の活動による収支	収入						
	積立資産取崩収入	4,038,120	50,100	675,000	4,763,220		4,763,220
	その他の活動収入計(7)	4,038,120	50,100	675,000	4,763,220	0	4,763,220
	支出						
	積立資産支出	2,177,000	675,000	503,000	3,355,000		3,355,000
	拠点区分間繰入金支出		5,010,000	6,249,000	11,259,000	△11,259,000	
その他の活動による支出	959,976			959,976		959,976	
その他の活動支出計(8)	3,136,976	5,685,000	6,752,000	15,573,976	△11,259,000	4,314,976	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		901,144	△5,634,900	△6,077,000	△10,810,756	11,259,000	448,244
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		△7,809,132	716,210	4,255,874	△2,837,048	0	△2,837,048
前期末支払資金残高(11)		46,837,335	54,979,512	51,172,568	152,989,415	0	152,989,415
当期末支払資金残高(10)+(11)		39,028,203	55,695,722	55,428,442	150,152,367	0	150,152,367

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 公益事業区分 資金収支内訳表

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第一号第三様式  
(第十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		地域包括支援 センターあさひ	地域包括支援 センターくるみ	合計	内部取引消去	事業区分合計	
事業活動による収支	収入						
	介護保険事業収入	33,893,309	42,905,094	76,798,403		76,798,403	
	受取利息配当金収入	53	43	96		96	
	その他の収入		49,392	49,392		49,392	
	事業活動収入計(1)	33,893,362	42,954,529	76,847,891	0	76,847,891	
支出	人件費支出	23,211,596	25,982,121	49,193,717		49,193,717	
	事務費支出	7,978,257	12,288,715	20,266,972		20,266,972	
	事業活動支出計(2)	31,189,853	38,270,836	69,460,689	0	69,460,689	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		2,703,509	4,683,693	7,387,202	0	7,387,202	
施設整備等による収支	収入						
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出		484,000	484,000		484,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出		1,139,184	1,139,184		1,139,184
	施設整備等支出計(5)	0	1,623,184	1,623,184	0	1,623,184	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	△1,623,184	△1,623,184	0	△1,623,184	
その他の活動による収支	収入						
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	0	0	
	支出	積立資産支出	322,000	348,000	670,000		670,000
		事業区分間繰入金支出	720,000	1,008,000	1,728,000		1,728,000
	その他の活動支出計(8)	1,042,000	1,356,000	2,398,000	0	2,398,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△1,042,000	△1,356,000	△2,398,000	0	△2,398,000	
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		1,661,509	1,704,509	3,366,018	0	3,366,018	
前期末支払資金残高(11)		5,118,467	338,824	5,457,291	0	5,457,291	
当期末支払資金残高(10)+(11)		6,779,976	2,043,333	8,823,309	0	8,823,309	

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 法人単位事業活動計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第二号第一様式  
(第二十三条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A) - (B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	534,861,993	520,910,390	13,951,603
		経常経費寄附金収益	130,000	1,458,680	△1,328,680
		その他の収益	1,325,708	477,597	848,111
		サービス活動収益計(1)	536,317,701	522,846,667	13,471,034
	費用	人件費	415,188,083	408,545,007	6,643,076
		事業費	52,864,928	52,242,965	621,963
		事務費	58,823,342	58,907,821	△84,479
		減価償却費	16,419,874	19,753,290	△3,333,416
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△3,481,851	△6,526,309	3,044,458
		その他の費用	2,750		2,750
サービス活動費用計(2)		539,817,126	532,922,774	6,894,352	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		△3,499,425	△10,076,107	6,576,682	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	825	1,955	△1,130
		その他のサービス活動外収益	804,779	857,506	△52,727
		サービス活動外収益計(4)	805,604	859,461	△53,857
	費用	支払利息	260,038	297,675	△37,637
		その他のサービス活動外費用	200,020	187,610	12,410
		サービス活動外費用計(5)	460,058	485,285	△25,227
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		345,546	374,176	△28,630	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		△3,153,879	△9,701,931	6,548,052	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益		2,350,440	△2,350,440
		特別収益計(8)	0	2,350,440	△2,350,440
	費用	国庫補助金等特別積立金積立額		2,350,440	△2,350,440
		特別費用計(9)	0	2,350,440	△2,350,440
特別増減差額(10)=(8)-(9)		0	0	0	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		△3,153,879	△9,701,931	6,548,052	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		127,407,708	137,109,639	△9,701,931
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		124,253,829	127,407,708	△3,153,879
	基本金取崩額(14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)		0	0	0
	その他の積立金積立額(16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		124,253,829	127,407,708	△3,153,879

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 社会福祉事業区分 事業活動内訳表

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第二号第三様式  
(第二十三条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		カトレアホーム	松林ケアセンター	平和町介護 サービスセンター	合計	内部取引消去	事業区分合計	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	239,923,962	137,001,480	81,138,148		458,063,590	
		経常経費寄附金収益	130,000				130,000	
		その他の収益	14,089,798	168,928	4,590		14,263,316	
		サービス活動収益計(1)	254,143,760	137,170,408	81,142,738		472,456,906	
	費用	人件費	197,681,240	106,457,878	61,365,248			365,504,366
		事業費	38,978,930	12,276,442	1,609,556			52,864,928
		事務費	19,713,282	11,276,510	7,566,578			38,556,370
		減価償却費	11,588,157	1,806,457	1,548,811			14,943,425
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△3,066,625	△202,438	△212,788			△3,481,851
		その他の費用	2,750					2,750
サービス活動費用計(2)	264,897,734	131,614,849	71,877,405		0	468,389,988		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△10,753,974	5,555,559	9,265,333		△11,259,000	△7,192,082		
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	587		142		729	
		その他のサービス活動外収益	804,779				804,779	
		サービス活動外収益計(4)	805,366	0	142		0	805,508
	費用	支払利息	260,038					260,038
		その他のサービス活動外費用	200,020					200,020
		サービス活動外費用計(5)	460,058	0	0		0	460,058
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	345,308	0	142		0	345,450		
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△10,408,666	5,555,559	9,265,475		△11,259,000	△6,846,632		
特別増減の部	収益	特別収益計(8)	0	0	0	0	0	
		特別費用計(9)	0	5,010,000	6,249,000		△11,259,000	0
	費用	拠点区分間繰入金費用		5,010,000	6,249,000		△11,259,000	0
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	△5,010,000	△6,249,000		11,259,000	0
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△10,408,666	545,559	3,016,475		△6,846,632	0	△6,846,632	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	24,596,663	54,998,195	46,472,025		0	126,066,883	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	14,187,997	55,543,754	49,488,500		0	119,220,251	
	基本金取崩額(14)	0	0	0		0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0		0	0	
	その他の積立金積立額(16)	0	0	0		0	0	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	14,187,997	55,543,754	49,488,500		0	119,220,251	

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 公益事業区分 事業活動内訳表

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第二号第三様式  
(第二十三条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目		地域包括支援 センターあさひ	地域包括支援 センターくるみ	合計	内部取引消去	事業区分合計
サービス活動増減の部	収益					
	介護保険事業収益	33,893,309	42,905,094	76,798,403		76,798,403
	その他の収益		49,392	49,392		49,392
	サービス活動収益計(1)	33,893,309	42,954,486	76,847,795	0	76,847,795
	費用					
人件費	23,533,596	26,150,121	49,683,717		49,683,717	
事務費	7,978,257	12,288,715	20,266,972		20,266,972	
減価償却費	203,789	1,272,660	1,476,449		1,476,449	
サービス活動費用計(2)	31,715,642	39,711,496	71,427,138	0	71,427,138	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	2,177,667	3,242,990	5,420,657	0	5,420,657	
サービス活動外増減の部	収益					
	受取利息配当金収益	53	43	96		96
	サービス活動外収益計(4)	53	43	96	0	96
	費用					
サービス活動外費用計(5)	0	0	0	0	0	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	53	43	96	0	96	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	2,177,720	3,243,033	5,420,753	0	5,420,753	
特別増減の部	収益					
	特別収益計(8)	0	0	0	0	0
	費用					
事業区分間繰入金費用	720,000	1,008,000	1,728,000		1,728,000	
特別費用計(9)	720,000	1,008,000	1,728,000	0	1,728,000	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△720,000	△1,008,000	△1,728,000	0	△1,728,000	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	1,457,720	2,235,033	3,692,753	0	3,692,753	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	4,949,689	△3,608,864	1,340,825	0	1,340,825
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	6,407,409	△1,373,831	5,033,578	0	5,033,578
	基本金取崩額(14)	0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	0	0
	その他の積立金積立額(16)	0	0	0	0	0
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	6,407,409	△1,373,831	5,033,578	0	5,033,578	

※本様式は、勘定科目の大区分のみを記載するが、必要のないものは省略することができる。ただし追加・修正はできないものとする。

# 法人単位貸借対照表

令和4年3月31日現在

第三号第一様式  
(第二十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	165,735,628	165,688,220	47,408	流動負債	24,810,486	25,632,058	△821,572
現金預金	91,410,519	85,463,939	5,946,580	事業未払金	3,435,519	3,502,852	△67,333
事業未収金	73,024,949	79,472,038	△6,447,089	その他の未払金	3,316,233	3,686,486	△370,253
未収金		9,440	△9,440	1年以内返済予定貸付金借入金	2,640,000	2,640,000	
立替金	808,268	586,483	221,785	1年以内返済予定リース債務	2,480,534	2,480,544	△10
前払費用	319,992		319,992	職員預り金		2,176	△2,176
仮払金	171,900	156,320	15,580	仮受金	8,200	50,000	△41,800
				賞与引当金	12,930,000	13,270,000	△340,000
固定資産	159,346,696	173,015,690	△13,668,994	固定負債	47,962,008	54,126,292	△6,164,284
基本財産	27,600,696	29,183,632	△1,582,936	設備資金借入金	13,680,000	16,320,000	△2,640,000
土地	25,000,000	25,000,000		リース債務	2,522,458	5,002,992	△2,480,534
建物	1,600,696	3,183,632	△1,582,936	退職給付引当金	31,759,550	32,803,300	△1,043,750
定期預金	1,000,000	1,000,000		負債の部合計	72,772,494	79,758,350	△6,985,856
その他の固定資産	131,746,000	143,832,058	△12,086,058	純資産の部			
土地	20,000,000	20,000,000		基本金	103,567,790	103,567,790	
建物	16,020,787	21,057,007	△5,036,220	基本金	103,567,790	103,567,790	
構築物	432,298	511,461	△79,163	国庫補助金等特別積立金	24,488,211	27,970,062	△3,481,851
車輛運搬具	2,580,660	4,011,436	△1,430,776	国庫補助金等特別積立金	24,488,211	27,970,062	△3,481,851
器具及び備品	9,701,217	11,031,640	△1,330,423	その他の積立金			
建物付属設備	42,954,056	44,565,086	△1,611,030	次期繰越活動増減差額	124,253,829	127,407,708	△3,153,879
有形リース資産	4,384,692	6,206,868	△1,822,176	(うち当期活動増減差額)	△3,153,879	△9,701,931	6,548,052
ソフトウェア	8,532	42,660	△34,128				
無形リース資産	713,232	1,371,600	△658,368				
退職給付引当資産	31,759,550	32,803,300	△1,043,750				
差入保証金	2,231,000	2,231,000					
長期前払費用	959,976		959,976				
資産の部合計	325,082,324	338,703,910	△13,621,586	純資産の部合計	252,309,830	258,945,560	△6,635,730
				負債及び純資産の部合計	325,082,324	338,703,910	△13,621,586

※本様式は、勘定科目の大区分及び中区分を記載するが、必要のない中区分の勘定科目は省略することができる。  
 ※勘定科目の中区分についてはやむを得ない場合、適当な科目を追加できるものとする。

# 社会福祉事業区分 貸借対照表内訳表

令和4年3月31日現在

第三号第三様式  
(第二十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目	カトリアホーム	松林ケアセンター	平和町介護 サービスセンター	合計	内部取引消去	事業区分計
<b>流動資産</b>	76,050,253	57,335,618	56,243,089	189,628,960	△33,000,000	156,628,960
現金預金	39,467,213	24,865,402	22,378,223	86,710,838		86,710,838
事業未収金	35,299,780	20,456,716	12,861,466	68,617,962		68,617,962
立替金	808,268			808,268		808,268
前払費用	319,992			319,992		319,992
拠点区分間貸付金		12,000,000	21,000,000	33,000,000	△33,000,000	
仮払金	155,000	13,500	3,400	171,900		171,900
<b>固定資産</b>	142,896,346	10,376,558	10,134,245	163,407,149	△10,000,000	153,407,149
<b>基本財産</b>	27,600,696			27,600,696		27,600,696
土地	25,000,000			25,000,000		25,000,000
建物	1,600,696			1,600,696		1,600,696
定期預金	1,000,000			1,000,000		1,000,000
<b>その他の固定資産</b>	115,295,650	10,376,558	10,134,245	135,806,453	△10,000,000	125,806,453
土地	20,000,000			20,000,000		20,000,000
建物	11,949,061		3,430,681	15,379,742		15,379,742
構築物	432,298			432,298		432,298
車輛運搬具	674,008	543,931	1,362,717	2,580,656		2,580,656
器具及び備品	6,223,687	2,286,395	439,847	8,949,929		8,949,929
建物付属設備	42,954,056			42,954,056		42,954,056
有形リース資産	1,536,732			1,536,732		1,536,732
ソフトウェア	8,532			8,532		8,532
無形リース資産		713,232		713,232		713,232
事業区分間長期貸付金	4,000,000			4,000,000		4,000,000
拠点区分間長期貸付金	10,000,000			10,000,000	△10,000,000	
退職給付引当資産	16,557,300	6,833,000	3,693,000	27,083,300		27,083,300
差入保証金			1,208,000	1,208,000		1,208,000
長期前払費用	959,976			959,976		959,976
<b>資産の部合計</b>	218,946,599	67,712,176	66,377,334	353,036,109	△43,000,000	310,036,109

# 社会福祉事業区分 貸借対照表内訳表

令和4年3月31日現在

第三号第三様式  
(第二十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目	カトリアホーム	松林ケアセンター	平和町介護 サービスセンター	合計	内部取引消去	事業区分計
<b>流動負債</b>	46,745,042	4,698,254	2,644,647	54,087,943	△33,000,000	21,087,943
事業未払金	2,393,837	635,456	122,867	3,152,160		3,152,160
その他の未払金	1,620,013	1,004,440	691,780	3,316,233		3,316,233
1年以内返済予定設備資金借入金	2,640,000			2,640,000		2,640,000
1年以内返済予定リース債務	682,992	658,358		1,341,350		1,341,350
拠点区分間借入金	33,000,000			33,000,000	△33,000,000	
仮受金	8,200			8,200		8,200
賞与引当金	6,400,000	2,400,000	1,830,000	10,630,000		10,630,000
<b>固定負債</b>	31,091,040	6,887,874	13,693,000	51,671,914	△10,000,000	41,671,914
設備資金借入金	13,680,000			13,680,000		13,680,000
リース債務	853,740	54,874		908,614		908,614
拠点区分間長期借入金			10,000,000	10,000,000	△10,000,000	
退職給付引当金	16,557,300	6,833,000	3,693,000	27,083,300		27,083,300
<b>負債の部合計</b>	<b>77,836,082</b>	<b>11,586,128</b>	<b>16,337,647</b>	<b>105,759,857</b>	<b>△43,000,000</b>	<b>62,759,857</b>
<b>基本金</b>	103,567,790			103,567,790		103,567,790
基本金	103,567,790			103,567,790		103,567,790
<b>国庫補助金等特別積立金</b>	23,354,730	582,294	551,187	24,488,211		24,488,211
国庫補助金等特別積立金	23,354,730	582,294	551,187	24,488,211		24,488,211
<b>その他の積立金</b>						
次期繰越活動増減差額	14,187,997	55,543,754	49,488,500	119,220,251		119,220,251
(うち当期活動増減差額)	△10,408,666	545,559	3,016,475	△6,846,632		△6,846,632
<b>純資産の部合計</b>	<b>141,110,517</b>	<b>56,126,048</b>	<b>50,039,687</b>	<b>247,276,252</b>	<b>0</b>	<b>247,276,252</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>218,946,599</b>	<b>67,712,176</b>	<b>66,377,334</b>	<b>353,036,109</b>	<b>△43,000,000</b>	<b>310,036,109</b>

※本様式は、勘定科目の大区分及び中区分を記載するが、必要のない中区分の勘定科目は省略することができる。  
 ※勘定科目の中区分についてはやむを得ない場合、適当な科目を追加できるものとする。

# 公益事業区分 貸借対照表内訳表

令和4年3月31日現在

第三号第三様式  
(第二十七条第四項関係)

法人名：社会福祉法人 慶寿会

(単位：円)

勘定科目	地域包括支援 センターあさひ	地域包括支援 センターくるみ	合計	内部取引消去	事業区分計
<b>流動資産</b>	<b>6,924,146</b>	<b>3,182,522</b>	<b>10,106,668</b>	<b>△1,000,000</b>	<b>9,106,668</b>
現金預金	4,231,468	468,213	4,699,681		4,699,681
事業未収金	1,692,678	2,714,309	4,406,987		4,406,987
拠点区分間貸付金	1,000,000		1,000,000	△1,000,000	
<b>固定資産</b>	<b>3,102,183</b>	<b>6,837,364</b>	<b>9,939,547</b>		<b>9,939,547</b>
<b>基本財産</b>					
その他の固定資産	3,102,183	6,837,364	9,939,547		9,939,547
建物		641,045	641,045		641,045
車輛運搬具	2	2	4		4
器具及び備品	314,431	436,857	751,288		751,288
有形リース資産		2,847,960	2,847,960		2,847,960
退職給付引当資産	2,274,750	2,401,500	4,676,250		4,676,250
差入保証金	513,000	510,000	1,023,000		1,023,000
<b>資産の部合計</b>	<b>10,026,329</b>	<b>10,019,886</b>	<b>20,046,215</b>	<b>△1,000,000</b>	<b>19,046,215</b>
<b>流動負債</b>	<b>1,344,170</b>	<b>3,378,373</b>	<b>4,722,543</b>	<b>△1,000,000</b>	<b>3,722,543</b>
事業未払金	144,170	139,189	283,359		283,359
1年以内返済予定リース債務		1,139,184	1,139,184		1,139,184
拠点区分間借入金		1,000,000	1,000,000	△1,000,000	
賞与引当金	1,200,000	1,100,000	2,300,000		2,300,000
<b>固定負債</b>	<b>2,274,750</b>	<b>8,015,344</b>	<b>10,290,094</b>		<b>10,290,094</b>
リース債務		1,613,844	1,613,844		1,613,844
事業区分間長期借入金		4,000,000	4,000,000		4,000,000
退職給付引当金	2,274,750	2,401,500	4,676,250		4,676,250
<b>負債の部合計</b>	<b>3,618,920</b>	<b>11,393,717</b>	<b>15,012,637</b>	<b>△1,000,000</b>	<b>14,012,637</b>
<b>基本金</b>					
国庫補助金等特別積立金					
その他の積立金					
次期繰越活動増減差額	6,407,409	△1,373,831	5,033,578		5,033,578
(うち当期活動増減差額)	1,457,720	2,235,033	3,692,753		3,692,753
<b>純資産の部合計</b>	<b>6,407,409</b>	<b>△1,373,831</b>	<b>5,033,578</b>	<b>0</b>	<b>5,033,578</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>10,026,329</b>	<b>10,019,886</b>	<b>20,046,215</b>	<b>△1,000,000</b>	<b>19,046,215</b>

※本様式は、勘定科目の大区分及び中区分を記載するが、必要のない中区分の勘定科目は省略することができる。  
※勘定科目の中区分についてはやむを得ない場合、適当な科目を追加できるものとする。

財 産 目 録  
令和4年3月31日 現在

別紙 4

法 人 名 : 社会福祉法人 慶寿会

(単位 : 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得原価	減価償却累計額	貸借対照表価額
<b>I 資産の部</b>						
<b>1 流動資産</b>						
現金預金						
小口現金		-		-	-	399,181
普通預金(スルガ茅ヶ崎)	スルガ銀行茅ヶ崎支店	-		-	-	32,944,280
普通預金(横浜茅ヶ崎)	横浜銀行茅ヶ崎支店	-		-	-	17,377,265
定期預金(東京三菱茅ヶ崎)	東京三菱UFJ銀行茅ヶ崎支店	-		-	-	10,001,007
郵便振替口座	ゆうちょ銀行	-		-	-	24,945,781
定期預金(大和ネクスト)	大和ネクスト銀行	-		-	-	5,000,000
普通預金(大和ネクスト)	大和ネクスト銀行	-		-	-	527,034
普通預金(横浜大船)	横浜銀行大船支店	-		-	-	215,971
			小計			91,410,519
事業未収金		-		-	-	73,024,949
立替金		-		-	-	808,268
前払費用		-		-	-	319,992
仮払金		-		-	-	171,900
<b>流 動 資 産 合 計</b>						<b>165,735,628</b>
<b>2 固定資産</b>						
<b>(1) 基本財産</b>						
土地	カトレアホーム	-	駐車場として使用している	-	-	25,000,000
建物	カトレアホーム	1978年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	200,776,000	200,775,999	1
	カトレアホーム	1978年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	923,000	922,999	1
	カトレアホーム	1984年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	13,500,000	11,899,307	1,600,693
	カトレアホーム	1989年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	25,274,590	25,274,589	1
			小計			1,600,696
定期預金	スルガ銀行茅ヶ崎支店	-		-	-	1,000,000
<b>基 本 財 産 合 計</b>						<b>27,600,696</b>
<b>(2) その他の固定資産</b>						
土地	カトレアホーム	-	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	-	-	20,000,000
建物	カトレアホーム	1991年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	31,108,478	31,108,477	1
	カトレアホーム	1997年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	13,125,000	13,124,999	1
	カトレアホーム	2007年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	40,988,010	40,277,536	710,474
	カトレアホーム	2008年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	27,356,688	16,778,759	10,577,929
	カトレアホーム	2010年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	2,579,600	2,073,996	505,604

財 産 目 録  
令和4年3月31日 現在

別紙 4

法 人 名 : 社会福祉法人 慶寿会

(単位 : 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得原価	減価償却累計額	貸借対照表価額
構築物	カトレアホーム	2010年度	第1種社会福祉事業である、カトレアホーム施設等に使用している	769,072	614,020	155,052
	平和町介護サービスセンター	2011年度	第2種社会福祉事業である、平和町介護サービスセンターに使用している	10,760,095	7,329,414	3,430,681
	松林地区地域包括支援センターくるみ	2014年度	公益事業である、松林地区地域包括支援センターくるみに使用している	1,288,526	647,481	641,045
			小計			16,020,787
構築物 車輛運搬具				14,620,613	14,188,315	432,298
	社会福祉事業 公益事業	-		29,015,922 3,637,773	26,435,266 3,637,769	2,580,656 4
			小計			2,580,660
器具及び備品				105,191,230	96,241,301	8,949,929
	社会福祉事業 公益事業	-		4,931,157	4,179,869	751,288
			小計			9,701,217
建物付属設備 有形リース資産				54,382,230	11,428,174	42,954,056
	社会福祉事業 公益事業	-		3,414,960 10,432,800	1,878,228 7,584,840	1,536,732 2,847,960
			小計			4,384,692
ソフトウェア 無形リース資産 退職給付引当資産 差入保証金 長期前払費用				3,114,769	3,106,237	8,532
				3,291,840	2,578,608	713,232
				-	-	31,759,550
				-	-	2,231,000
				-	-	959,976
			その他の固定資産合計			131,746,000
			固定資産合計			159,346,696
			資産合計			325,082,324
<b>II 負債の部</b>						
<b>1 流動負債</b>						
事業未払金	カトレアホーム他	-		-	-	3,435,519
その他の未払金	カトレアホーム他	-		-	-	3,316,233
その他の未払い金						3,316,233
			小計			3,316,233
1年以内返済予定設備資金借入金	カトレアホーム	-		-	-	2,640,000
1年以内返済予定リース債務	松林ケアセンター・包括くるみ	-		-	-	2,480,534
仮受金	カトレアホーム	-		-	-	8,200
賞与引当金	カトレアホーム他	-		-	-	12,930,000
			流動負債合計			24,810,486
<b>2 固定負債</b>						
設備資金借入金	カトレアホーム	-		-	-	13,680,000
リース債務	カトレアホーム他	-		-	-	2,522,458
退職給付引当金	カトレアホーム他	-		-	-	31,759,550
			固定負債合計			47,962,008
			負債合計			72,772,494
			差引純資産			252,309,830

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		2017	2018	2019	2020	2021
資金収支計算		介護人材の処遇改善 臨時に+1.14%の介護報酬改定	介護報酬減額改定 +0.54% 褥瘡・排泄加算新設 通所提供時間区分見直し	10月～消費税UP 「介護職員等特定処遇改善加算」新設 低所得者食費居住費負担軽減	「介護職員等特定処遇改善加算」通年収入	コロナ関連助成金 (雇用調整助成金、小学校等休業対応助成金等)介護職員等特定処遇補助金
法人	事業活動収支差額	2,307	△ 7,700	8,230	6,343	8,705
	当期資金収支差額	△ 401	△ 7,888	2,555	△ 3,767	528
カトリア	事業活動収支差額	△ 5,765	△ 8,422	1,254	△ 53	△ 3,748
	当期資金収支差額	△ 1,895	△ 6,095	△ 846	△ 5,190	△ 7,809
		セレクト100万入金	本部収入減	本部収入240千増	SS収入減	介護保険収入増
		屋上・空調工事	看護体制強化	報酬改定・特定加算	人材紹介料	非常勤職員給与増
			土地購入 手数料	ごみ処理費1,400千	非常勤職員給与増	法定福利費増
			公共料金増	40周年支出2,700千	本部機能強化	
	施設収入	218,588	219,126	237,282	240,568	228,944
短期入所収入	11,103	10,400	11,402	9,160	10,979	
松林	事業活動収支差額	8,406	△ 1,394	837	5,446	7,504
	当期資金収支差額	846	△ 6,233	△ 4,057	△ 485	716
		厨房オープン	各サービス減収	通所増・人件費減	通所収入増	居宅、訪問収入増
		車両300万	配食・ふる里中止	訪問減(常勤退職)	訪問人件費増	訪問人件費増
	通所介護収入	87,031	77,937	80,183	84,641	83,155
	居宅介護収入	25,664	20,332	19,463	20,307	23,479
	訪問介護収入	27,834	25,655	20,356	21,244	26,128
平和町 (ふる里含)	事業活動収支差額	7,561	4,992	10,864	8,016	10,549
	当期資金収支差額	5,048	2,851	6,239	2,706	4,255
		訪問常勤退職	ふる里土曜中止	ふる里収入増	訪問、通所収入減	訪問、通所収入増
	居宅介護収入	24,326	24,325	25,016	25,540	24,703
	訪問介護収入	30,915	33,667	32,741	31,874	33,297
	ふる里(通所)収入	21,362	17,576	20,202	19,435	23,137
※ふる里	事業活動収支差額	382	△ 396	3,348	2,154	4,859
	当期資金収支差額	△501	△ 786	3,018	1,559	4,529
		中古車購入	土曜中止	土曜中止 稼働率UP	収入減、人件費増	収入増、安定稼働
あさひ	事業活動収支差額	△ 127	1,325	1,396	1,881	2,703
	当期資金収支差額	△ 2,674	608	115	942	1,661
		人員増	本部支出調整	本部支出24千増	収入増	収入増
		委託費減		消費税30.31年度計上		
くろみ	事業活動収支差額	1,072	2,758	3,237	413	4,683
	当期資金収支差額	△ 1,725	980	1,103	△ 1,740	1,704
		非常勤増	本部支出調整	本部支出24千増	人材紹介料	収入増
		委託費増		消費税30.31年度計上	常勤異動・退職	常勤退職

貸借対照表		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		2017	2018	2019	2020	2021
法人	資産	363,627	363,241	355,740	338,703	325,082
	負債	48,631	77,573	82,917	79,758	72,772
	純資産	314,995	285,668	272,823	258,945	252,309
	現金	107,934	99,629	98,851	85,463	91,410
	未収金	68,112	68,853	69,427	79,472	73,024
	資金繰り	1.58	1.45	1.42	1.08	1.25

# 監査報告書

令和 4年 5月 13日

社会福祉法人慶寿会  
理事長 小笹 慶資 殿

監事 妻鹿嘉兵

監事 太田 英之

私たち監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

## 2. 監査の結果

### 1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### 2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

### 第3議案第3号（理事）

令和4年度 職員給与規程に関する件（2件）

#### （提案理由①）

本案は、社会福祉法人慶寿会「職員給与規程」（第28条2項）の規程に従い、今年度の賞与を6月10日に支給することの承認を得たいので提案する。

賞与計算式：（基本給+管理職手当+資格手当+扶養手当の1/2）×基本支給月数

	賞与		合計支給月数
基準日	6月1日の場合	12月1日の場合	
支給月数	1.6	1.65	3.25

#### （概略説明）

令和3年度は、法人全体で黒字計上となりました。「新型コロナウイルス感染症」の感染リスクと常に隣り合わせの緊張状態の中、積極的な事業継続と共に、エッセンシャルワーカーとして社会的使命を果たすことができています。

このような状況が更に長期化することも予測され、生活基盤の安定（収入確保）、雇用機会の確保等の不安が法人職員内に出てきています。そうした不安を払拭するためにも、例年通りの支給を実現させ、安心してこの法人で仕事を続けることができることを示したいと強く思います。

社会福祉法人 慶寿会「職員給与規程」 新旧対照表

	内 容		理 由
	変更前の条文	変更後の条文	
「職員給与規程」変更の内容及び理由	<p>第1章 総則 (給与の種類) 第2条 給与の種類は次のとおりとする。</p> <p>職員給与体系図 (各記載に□なし)</p> <p>所定外手当 時間外勤務手当 休日勤務手当 夜勤手当 早出手当</p> <p>第2章 基本給及び昇給 (基本給) 第4条 職員の基本給の構成は以下の通りとする。</p> <p>職員給与体系図 (各記載に□なし)</p> <p>第3章 手当</p>	<p>第一章 総則 (給与の種類) 第2条 給与の種類は次のとおりとする。</p> <p>職員給与体系図 (各記載に□あり)</p> <p>所定外手当 時間外勤務手当 休日勤務手当 夜勤手当 早出手当 認定調査手当</p> <p>第2章 基本給及び昇給 (基本給) 第4条 職員の基本給の構成は以下の通りとする。</p> <p>職員給与体系図 (各記載に□あり)</p> <p>第3章 手当 (認定調査手当) 第27条 <u>全国の市町村および特別区の委託業務である要介護認定調査を実施した職員に対し、1回につき1,000円を支給する。</u></p>	<p>体系図のレイアウト(表記)変更及び「所定外手当」の項目追加</p>
	<p>第7章 介護職員等処遇加算による賃金改善 第36条</p>	<p>第7章 介護職員等処遇改善による賃金改善 第37条 <u>7 処遇改善補助金手当は、介護職員処遇改善支援補助金(令和4年10月以降は新たな処遇改善加算)を原資として支給する。支給額は、常勤職員は月額2,000円から8,000円の範囲で、非常勤職員は時給10円から40円の範囲で個別に決定した上で支給する。又支給額については、交付額の変動が予想されることから、適宜見直しを行うことができる。</u></p>	<p>条の新設</p> <p>第28条以下、条数をそれぞれ繰り下げ</p> <p>項の新設</p>
	<p>(施行期日) この規程は、令和2年4月1日から施行する。</p>	<p>(施行期日) この規程は、令和4年4月1日から施行する。</p>	<p>施行期日の更新</p>
	<p>別表第1 職能給表(段階号俸表)</p> <p>1等級1号俸 172,000円～</p>	<p>別表第1 職能給表(段階号俸表)</p> <p>1等級1号俸 176,800円～ (※以降、号俸ピッチ変更なく設定)</p> <p>6等級77号俸 335,240円 (※以降号俸ピッチ変更なく101号俸まで)</p> <p>7等級27号俸 357,320円 (※以降号俸ピッチ変更なく81号俸まで)</p>	<p>最低賃金上昇による改訂</p> <p>定年到達までの標準昇給が可能になるよう新設</p>

(提案理由②)

本案は、社会福祉法人慶寿会「職員給与規程」(第5条2項)の規定の一部について、追記、修正、改訂をすることの承認を得たいので提案する。

(概略説明)

追記、修正、改訂箇所については、新旧対照表の内容に沿って説明する。

1、所定外手当の新設→「認定調査手当」(1,000円/回)

2、処遇改善補助金手当の新設

3、別表第1「職能給表」(段階号俸表)の改訂

①国が定める「最低賃金」(令和4年4月1日現在)が@1,040円/時に上昇。当該職能表における1等級1号俸の額(172,000円)は、常勤職員が勤務すべき1ヶ月の所定労働時間(170時間)に対し得られる賃金(176,800円)を下回っているため、最低賃金に合わせた額に改訂が必要である。1等級1号俸の額を改訂した上で、以下号俸については従来の「号俸ピッチ」(360円)に従い修正する。

②「社会福祉法人慶寿会 等級フレーム」における管理専門職能層(6等級及び7等級)は、モデル年齢以下で就任している実態があり、標準昇給における号俸設定が当初から他の等級に比べ著しく少なくなっていた。定年(60歳)到達までの間、標準昇給が可能になるよう、従来通りの「号俸ピッチ」(720円)で追加設定する。(※6等級77号俸から101号俸、7等級27号俸から81号俸を新設)

令和4年6月5日  
社会福祉法人慶寿会  
理事長 小笹慶資

#### 第4議案第4号（理事）

経理規程の変更（追加）に関する件

（提案理由）

本案は、社会福祉法人慶寿会「経理規程」の一部について、変更（追加）することについて承認を得たいので提案する。

（概略説明）

法人顧問税理士からの情報提供により、今後の動静により同規定「第10章 決算」の項に合併又は譲渡（もしくは譲受け）に関する記載が必要になることに対応するため。具体的な変更内容については「新旧対照表」にて説明する。

令和4年6月5日  
社会福祉法人慶寿会  
理事長 小笹慶資

経理規程の変更

変更前	変更後	理由
<p>第10章 決算</p> <p>(注記事項)</p> <p>第59条 計算書類には、次の注記事項を記載しなければならない。</p> <p>(1)～(14) 省略</p> <p>(15) その他社会福祉法人の資金収支及び純資産の増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項</p> <p>2 計算書類の注記は、法人全体で記載するものと拠点区分別に記載するもの2種類とし、拠点区分の注記については、上記(1) (12) (13)を省略する。</p>	<p>第10章 決算</p> <p>(注記事項)</p> <p>第59条 計算書類には、次の注記事項を記載しなければならない。</p> <p>(1)～(14) 省略</p> <p>(15) 合併又は事業の譲渡若しくは譲受けが行われた場合には、その旨及び概要</p> <p>(16) その他社会福祉法人の資金収支及び純資産の増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項</p> <p>2 計算書類の注記は、法人全体で記載するものと拠点区分別に記載するもの2種類とし、拠点区分の注記については、上記(1) (12) (13) (15)を省略する。</p> <p>附則</p> <p>3 この規程は、令和4年4月1日から改定施行する。</p>	<p>追加</p> <p>追加</p> <p>変更</p> <p>変更</p> <p>追加</p>

# 資料編

## 令和3年度 事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
特別養護老人ホームカトレアホーム

## 目 次

### I. 事業報告

#### 1.入居者状況

- 1) 本入所・ショートステイ動向
- 2) 入退所者動向

#### 2.職員充足状況

#### 3.利用者健康管理状況

#### 4.職員健康管理状況

#### 5.各課事業報告

- 1) 事務課
- 2) 生活相談課
- 3) 介護支援専門員
- 4) 介護課
- 5) 栄養課
- 6) 医務課

### II. 添付資料

- ・令和2年度年間利用状況（稼働率一覧）
- ・死亡者数・死亡原因
- ・利用者の動向（統計）
- ・医療対応一覧（往診・処置）
- ・特養入居待機者状況
- ・ボランティア受入状況・行事実施状況（中高生福祉体験学習含む）
- ・実習生受け入れ実施報告
- ・施設内研修実施報告
- ・サービス担当者会議開催状況・認定調査実施報告・認知症者の日常生活自立度
- ・事故・ヒヤリハット総括

1. 入居者利用状況

(1) 本入所

(3年度) 在住者は延べ17,749人(床)であった。(稼働率97.3% 別紙参照)

(2年度) 在住者は延べ18,098人(床)であった。(稼働率99.2% 別紙参照)

(元年度) 在住者は延べ18,178人(床)であった。(稼働率99.3% 別紙参照)

(2) ショートステイ

(3年度) 利用者は延べ870人(床)であった。(稼働率119.2% 別紙参照)

(2年度) 利用者は延べ721人(床)であった。(稼働率98.6% 別紙参照)

(元年度) 利用者は延べ981人(床)であった。(稼働率134% 別紙参照)

(3) 入退所

[入所]

(3年度) 10名(在宅4名、老健2名、病院0名、他施設4名)

(2年度) 8名(在宅4名、老健1名、病院1名、他施設2名)

(元年度) 5名(在宅2名、老健1名、病院0名、他施設2名)

[退所]

(3年度) 13名(死亡11名、在宅0名、他病院1名、長期入院1名)※外7名、病院1名

(2年度) 7名(死亡7名、在宅0名、他病院0名、長期入院0名)※外7名、病院0名

(元年度) 6名(死亡6名、在宅0名、他病院0名、長期入院0名)※外5名、病院1名

2. 令和3年度内職員の充足状況

4.3.31

職名	旧国基準(参考)	介護保険基準(参考)	在職員数(R4)	在職員数(R3)
施設長	1	1	1	1
事務員	1	—	2 (1)	2 (2)
生活相談員	1	1	1	1
介護支援専門員	—	1	1	1
介護職員	1 1	3 : 1	1 7 (1 5)	1 7 (1 2)
看護師	2	2	1 (2)	2 (2)
管理栄養士	1	1	1	1
調理員	4	—	4 (2)	4 (2)
介助員等	1	—	(介護職員へ)	(介護職員へ)
医師	(1)	必要数	(3)	(3)
宿直員		—	夜勤者兼任	夜勤者兼任
技術員		—	(1)	(1)
清掃員		—	委託に変更	委託に変更
計	2 2 (1)	—	2 8 (2 4)	2 9 (2 1)

\* ( ) 内の数字は非常勤職員数

### 3. 利用者健康管理状況

利用者の日々の健康管理については、管理医（毎木曜日）、嘱託医（内科医）による回診が毎週日曜日、木曜日に行われている。歯科医は毎週2回（火曜日、金曜日）に行われ、主に口腔クリーニングと義歯調整等が実施されている。「食べられる口」の維持継続を図り、誤嚥性肺炎の防止にも大きな効果が出ている。「口腔衛生管理（体制）加算」を算定し、基盤整備に努めている。

精神科による精神保健相談は、隔週火曜日（2回/月）実施している。認知症等、精神的疾患への対応は極めて高い専門性が求められる分野であり、服用薬の調整等を必要に応じて行っている。皮膚科に関しても同じように専門性が高い。訪問往診を実施して予防・早期発見（処置）に繋げることができている。

入居利用者の日々の健康管理については、血糖値測定、尿検査、採血検査（入所時含む）等の基本検査を適宜実施した。「新型コロナウイルス」感染症対策には特に注力した。感染予防策「スタンダードプリコーション」（手洗い等）を基本に、職員には毎朝の検温（及び記録）、「サージカルマスク」「フェイスシールド（アイガード）」の装着を徹底した。（特に食事介助時等、飛沫予防や密の回避）外部からの面会を、家族、業者とも原則禁止し、物品搬入の際にも検温への協力を要請した。（※同様の対応は当面の間継続。）結果、現在までに施設内感染は発生せず、「インフルエンザ」「ノロウイルス」も発生しなかった。

理学療法士を受入れての生活リハビリテーションは、毎年の積み重ねにより、着実に成果が目に見えるものとなっている。廃用症候群の進行防止はもとより、理学療法の視点を介護職員が学ぶことにより、日々の介護に活かすことができている。

食生活については、NCM（nutrition-care-management）の実践に基づき、嗜好調査を定期的に行い、利用者が望む味わいのある豊かな食事を提供することを目的としている。高齢者の栄養状態の維持について、十分に配慮された調理技術、方法を個別に検討している。これと連動し介護面では、食事介助技術の習得、適切な食食用食器の選定等を行っている。

毎月開催される「給食委員会」で各職種が現場の意見を集約、連携を図り検討、対応している。こうした地道な活動が治療・栄養管理（血清アルブミン値に着目）への取り組みとして効果を挙げている。医療と介護の適切なバランスを取る中で、自然な看取りを実践し、今年度死亡退所者12名を施設で看取った。人数は昨年度より多かったが、いずれも穏やかな看取りで対応することができた。

### 4. 職員健康管理状況

令和3年度 職員健康診断

春（令和3年4月～実施）

おざさ医院24名受診 他医療機関23名受診 合計47名受診

冬（令和2年11月～実施 ※夜勤者のみ）

おざさ医院14名受診 他医療機関1名 合計15名

令和2年度 職員インフルエンザ予防注射接種状況

冬（令和2年12月～令和3年1月）

おざさ医院45名実施

## 5. 各課事業報告

### 1) 事務課

#### 1. 法人本部としての機能強化

- ①理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理、収支状況等の経営上の課題や、サービス提供に関わる事業運営上の課題について、起こり得るリスクを含めた具体的な情報を法人内の各事業部門から収集、分析し、その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告、判断を求めた。
- ②本部施設長、副施設長、事務長のトライアングル体制を敷くことにより、事業所へのバックアップ体制の強化を図った。
- ③財務諸表の作成、統計、全事業所給与処理、法人改善会議資料作成
- ④年1回のストレスチェック実施方法の変更（Web方式）効率化と経費削減
- ⑤介護処遇改善補助金計画提出
- ⑥求人媒体の活用（ハローワーク、ショブオプライト、indeed、エンゲージ等）
- ⑦コロナ関係各種助成金申請（小学校休業等対応補助金、雇用調整助成金）
- ⑧法人サイト（ホームページ）のリニューアル

#### 2. 労務管理

- ①電子申請の定着、雇用管理改善・情報管理を徹底し、開示、発信に取り組んだ。  
（電子証明書の更新）
- ②年1回の定期職員面談による改善提案等を可能な範囲で反映し、安全衛生委員と共に取り組み労働災害、ハラスメント（セクハラ、パワハラ等）の防止に努めた。
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境（多様な働き方、長時間労働者への時間管理、業務改善）になるよう心掛けた。
- ④「人事考課制度」の本格導入に伴う各事業所への運用支援を行った。

#### 3. 快適な職場づくり

- ①利用者が快適に安心して過ごしていけるよう、朝の清掃、定期的な全館清掃（ワックス）、感染予防対策としての消毒の徹底、設備の保全、美観への配慮、工夫をした。
- ②備品等は幅広く職員等の意見を聴取し、効率性、経済性を意識して導入を検討、文書管理は可能な限り電子化（ペーパーレス）した。
- ③職員の健康、教養、娯楽等、心身のリフレッシュを目的とした福利厚生（福利協会や社会保険協会からの斡旋）について連絡、周知した。
- ④グループウェア「LINEWORKS」を導入し、事業所内だけでなく法人全体のコミュニケーションツールとして活用した。

## 2) 生活相談課

### 1. 年間稼働率について

令和3年度は年間稼働率98.1%で推移した。(内訳:本入所97.3%、ショート119.2%)。損益分岐稼働率として設定された(本入所・ショートステイ合計)98.5%を下回らないよう入退所運営を進めた。年度当初は、ほぼ満床状態を継続したが、6月以降8名の本入所者が相次いで亡くなられたことは、稼働率に与える影響が大きかった。年度後半は欠員の補充に追われ、年度末が近づいた頃になって稼働率が回復してきたが、年間を通すと目標には到達できなかった。今後は利用者の状態変化をできるだけ早い段階でキャッチ、入院等の欠員を予測して、時期等が集中しないよう生活支援をしていくことで安定経営を図っていく。(※これには高齢者への基本的支援の優先度を考慮した提供と介護職、看護職との連携が必要。)

### 2. 行事・ボランティア等の受け入れについて

新型コロナウイルスの影響を受けて、年度通じて外部ボランティアの受入れ中止。

(ボランティア側も活動自体ができていない団体が多い。)

今後のボランティア再開時期、方法の調整が課題になる。

中高生福祉体験学習・職場体験について(中学生:2回/年、高校生:1回/年)も学校側の判断により活動中止(受け入れなし)となった。

### 3. 相談援助業務について(新規入所に係る事前面接、契約説明等)

空床が生じた際の次期入所者への案内についても、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた業務である。事前面談の設定(各在宅及び施設の判断が難しく)、情報提供の限定、遅延により、案内(入所)までに時間を要することが多々あった。

### 4. 面会について(ご家族への報告、連絡、相談手法)

ご家族の面会についても「原則禁止」の方針を継続。直接の面会は難しいが、ホームページや電話での対話、オンライン面会(「MENKAI GO」(メンカイゴー))等の情報機器は役割の一端を果たしている。(但し、こうしたIT機器を活用できるご家族がまだまだ少数、仕組みがあっても活用されていない)ホームページに施設内の様子、誕生日会、利用者の様子を随時掲載し、ご家族へ直接、利用者の日常の写真を送付(一番好評を得ている)することで安心して頂くよう活動に努めている。それでも長期に亘る場合、真の状況を伝えることが難しく、段階的に制限緩和(感染状況下における面会方法の確立、感染予防への協力)を進めている。ご家族へ交付している利用者個々の「施設サービス計画書」の書式の中でも重要な役割を持つカトレアホーム独自の「絵で見るケアプラン」も普段の生活の様子がわかりやすいと高評価を得ており、コロナ禍にあって、一層家族と御本人、そして施設をつなぐツールとして活用されている。

### 3) 介護支援専門員

#### 1. ケアプランについて

毎年度同様、更新間隔を最長6ヶ月（ただし、急病やそれによる入院等で大きな状態変化やプラン方針変更が生じた場合はこの限りではない）を目途として、利用者の状況に応じたケアプラン作成を、定期・臨時ケースカンファレンス、介護課による『利用者状況報告書』、日々の情報収集等を基に行った。ケアプランをどのように、日々のケアに反映させていくかについては、利用者にとって価値がある事・幸福である事に着目した内容とした他、対応の統一について、文章のみの媒体の配布に加えて、絵やイラストを用いて『絵で見る（理解しやすい）ケアプラン』の作成・掲示を引き続き行った。本入所・短期入所共に、新しく入所された利用者については人物紹介も盛り込み、状態変化が大きくプラン変更をした利用者についてはケア方針を中心に作成した。認知症を有する利用者については、中核症状に焦点を当てたケア方針を盛り込むように努めている。短期入所者に関しては居宅における『居宅サービス計画書』に基づいた「個別援助計画書」を作成するため、居宅介護支援事業者への提出を促した。

#### 2. 要介護認定（区分変更申請）について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、要介護認定は通達に沿って、昨年1月受付分から延長手続き（コロナ特例）で対応してきた。11月受付分から変更があり、茅ヶ崎市に関しては「前回認定調査を行った利用者については1年延長、延長手続きを行った利用者については更新申請をして認定調査を行う」という方針が取られ、それに準じて対応した。他保険者（市町村）も同様の対応を打ち出しているが、方針には若干の違いがあるのでホームページ等で確認して手違いのないように進めて来た。

認定調査（対当施設利用者；委託）については、いずれも適切な「介護の手間」を反映して介護報酬逡減への対策として、また、現場の努力をきちんと反映していくために、引き続ききめ細かく対応した。今年度の平均要介護度は4.22で目標は達成できた。特養の入所要件が要介護3以上になっている事も目標達成の要因の一つであり、調査票における特記事項内容の充実（調査員に「介護の手間」を的確に伝達）に努めた事や主治医意見書作成の際の情報提供を的確に行う事で実際の調査に反映された事が大きな要因になっていると考える。

#### 3. 請求業務（加算管理）について

今年度も国民健康保険連合会（国保連）への請求業務の漏れ、間違い（返戻・過誤）がないように、細心の注意を払って実施した。その結果、請求金額と審査結果金額の相違が、年度を通じて概ね生じない状況を継続する事ができた。令和3年4月から厚生労働省の「LIFE」システムへの介護情報提供とフィードバックを活用する事で「排泄支援加算Ⅱ」・「褥瘡マネジメント加算Ⅱ」・「科学的介護推進体制加算Ⅱ」・「自立支援促進加算」の算定を開始・継続している。「看護体制加算Ⅰ1、Ⅱ1」・「看取り介護加算Ⅱ1～3」・「配置医師緊急時対応加算」については11月まで算定を行い、12月からは「看護体制加算

I1」のみ要件を満たしており算定を継続していたが、令和4年3月からはそれも満たす事ができなくなり、算定を停止している。今年度の各種申請は滞りなく行う事ができた。利用者負担金の回収については、事業未収金を回避するために、KCS（自動代金回収システム）の利用や本人（家族）への回収に関わる諸手続きの支援（相談）を行い、回収の目途を立てて、多額の回収不能金を作らないようにした

#### 4) 介護課

##### 1. 中重度者（要介護度3以上）に対する対応

認知症の理解、高齢期における慢性疾患、それを基礎疾患としたターミナルケアの実践が図られ、利用者の持つ生活能力、身体能力を正しく把握し、個々に適した対応を工夫する事に依って『生活の場』としての機能を果たすことができたと考えます。職員・御利用者の相互が向き合う事が出来、適切な生活支援を提供する事が出来たと考えます。今後、多様な医療的ニーズを有する方への支援が必要と感じており、医療知識（理解）の研鑽、疾患に合わせたケアが求められるものと考えます。

##### 2. 業務標準（『カトレア業務マニュアル』の活用）と職員教育

介護従事者としての心得・価値・判断・評価、または援助の規範（指標）として用いてきた。指導的職員は「教育担当」として、経験等で得た知識・技術を習得している職員が行い、先輩、後輩職員が共に研鑽し、共通的なケアの方向性を持つことが出来る様になって来たと思う。また、研修に関しても情勢下を踏まえ、WEB研修等に適所に参加し研鑽に努めた。

##### 3. 「グループミーティング」の活性化・「かながわ高齢者施設研究発表」への参加

グループ（排泄・入浴・食事）体制にて、全ての職員がグループミーティングに所属し、各テーマからミッションステートメント（重点課題）として理念、目標設定して来た。コロナ禍の状況下にあっては、会議等が十分ではなかったが、三密回避、感染防止策を取りながら職員同士の意思疎通を図りながらグループワークを実施し、業務改善・チームの結束力や他のグループワークとの連動性を図り、サービスの向上に繋がっていた。継続的に参加している「かながわ高齢者施設研究発表大会」では、令和3年度「優秀賞」を受賞する事が出来、日々の試みが評価された事は自信にも繋がり、榮譽に思えました。今後も継続していきたいと思えます。（※令和4年度大会にも参加予定）

##### 4. 感染症対策と「日常生活」の両立に向けて

コロナ禍の情勢でも「生活の場」としてのゆとりを失わず、楽しく、明るく毎日を過ごせるような居住空間の中心に介護職員が存在し（ご利用者一同に参集する行事の実施は難しかったが）一体感や雰囲気作りに努めた。一方で、感染症予防対策には細心の注意を払い、ご利用者の保全に繋がる環境整備を行った。

##### 5. 記録の活用、効率化（ICT化の礎）

高齢者介護支援記録システム《ケアカルテ（旧・ちょうじゅ）》の活用により記録が一元化され、経年蓄積されて来た利用者個人の情報を共有し、サービスに繋がられている。

紙媒体では表現が難しい、利用者の表情・活動場面（笑顔、動作等）カメラシステムを保有している端末で写し、記録が可視化出来るので、日々の記録から利用者の生活像が更に理解が深まる様になっている。施設内の ICT 化の礎（Wi-Fi 整備）も少しずつ進んでおり、マンパワー不足を補完する役割としての機器導入、検討に積極的に取り組んだ。「科学的介護の推進」の目玉であった「LIFE」の加算算定も既に開始、個々の機器のポテンシャルに加えて“連携”強化で更なる効率化を図る。

## 5) 栄養課

### 1. 給食管理について

- ①特養で生活されるご利用者の食事は、栄養を摂取して健康を維持し、食べる楽べる楽しみ（QOL）を味わうことにあります。各種の栄養素をバランスよく摂取できる食品構成にして、これを充足できる献立を作成した。そして、個々人に合わせた食事量、食事形態、嗜好に配慮した提供を行った。
- ②衛生管理面では、HACCP の概念に基づき、食材の搬入～検収～保管～調理～配膳～提供迄の一連の衛生管理を行い安全な食事提供を行った。
- ③楽しみのある食事提供については、毎月の誕生会食（各フロアで会食）、誕生日当日の個別提供食、四季の行事食、11月の寿司バイキング（各フロアでサーブ形式）、12月の餅つき（ついた後、各フロア）、どんど焼き（焼いた後、各フロア）を実施した。コロナ禍で行事が縮小する中、食行事は密集を回避して行うことができた。
- ④栄養課会議については、毎月誕生会食終了後 40 分程度開催。調理技術向上の勉強や業務改善の検討を行い、食事の品質及びサービス向上に繋がられるようにした。

### 2. 栄養管理について

- ①入所者全員に、栄養ケア・マネジメントを実施した。栄養ケア・マネジメントを実施することで、低栄養の予防や改善を通じて利用者の生活機能の維持・改善に寄与することを目的としている。

栄養スクリーニングによると、令和 3 年度末現在、低栄養状態のリスクレベルは低リスク 11 名、中リスク 36 名、高リスク 3 名であった。高リスク者は全体の 6%を占めている。栄養ケア・マネジメントは各課との連携が最重要であり、令和 3 年度も都度カンファレンスを実施して、栄養ケアを進めることが出来た。

- ②給食委員会は、栄養管理に関する課題を検討する会議として毎月第一木曜日に開催し問題の解決と栄養ケアプランに繋がった。
- ③療養食については、糖尿病食 3 名、貧血食 4 名、減塩 6g 未満食 2 名、慢性腎不全食 1 名 計 10 名（令和 3 年度平均）が加算しており、それぞれ療養食献立に基づいた食事提供を行った。その結果、糖尿病は 3 名安定、貧血は 2 名改善と維持、2 名未改善、減塩 6g 未満は維持、慢性腎不全は腎機能低下で未改善となっている。
- ④胃ろうは、3 名に実施している。

### 3. 栄養士実習生受け入れについて

横浜栄養専門学校 2年生 1名 令和3年8月17日(火)～8月27日(金)  
上記内容で受け入れを実施した。

## 6) 医務課

### 1. 医務課人員体制について

令和3年度の看護職員は常勤2名、非常勤2名でスタートを切りました。「看護体制加算Ⅰ」(正看護師の常勤1名配置で算定可)の要件を満たし、更に「同加算Ⅱ」や「看取り介護加算」等の算定も目指し、体制強化を図ってきました。年度内に最大常勤3名、非常勤3名までの増員を図ることができましたが、その後、相次ぐ退職希望があり、年度末時点では常勤、非常勤各1名、最低配置基準を下回る厳しい状況。退職事由は、いずれも「一身上の都合」であり回避困難ではありましたが、改めて体制整備の課題が浮き彫りになっている現状。特養の機能を理解した看護師を早期に探していく。

### 2. 利用者及び職員の健康管理について

利用者の健康管理が看護師の中心的業務であり、服薬管理、処置、嚥下力低下の方に対する食事介助等、介護課と連携、分担して対応してきた。死亡退所の方は1名を除いてカトレアホームでの看取りにてご逝去。それぞれに困難な状況もあったが、医療、介護他の綿密な連携により対応することができた。それでも施設内で発生した事故(車いすからの転落)により退所に至ったケース(※療養型病院へ転院)があり、初動対応も含めて大きな反省課題となった。

### 3. 管理医、嘱託医、訪問往診医との連携

管理医、嘱託医との連携(報告、連絡、相談)は日々の利用者の健康管理に不可欠であり、状態の変化に伴い、適時、適切に回診の機会や電話等において密な連携を図ってきた。その他、各種往診医(歯科、精神科、皮膚科)には、各専門的見地から助言、指導をいただいた。早期受診の勧奨(施設内で対応が困難なケースについては、外部医療機関(総合病院等)とも連携)、「紹介状(診療情報提供書)」等の作成にもご協力いただき、速やかな受診対応に繋がった。医療的ニーズが高まる利用者を預かる施設において、この先もこうしたニーズは更に高まることが予想される。(「生活の場」を標榜する特別養護老人ホームの機能として「医療」への適応が求められる。)

### 4. 感染症対策におけるリーダーシップ

特に「新型コロナウイルス」については、未だ収束を迎えておらず、これからも徹底した感染予防対策を求められる。今までの経験から方法論を会得した部分については継続していくことになるが、この先必要になる対応については、医療職(看護職)のリーダーシップが必要となる。令和3年度中にはこの分野における研修などを実施し、講師としての役割を担った。未だ利用者において「感染者ゼロ」を継続できていることは、そうした地道な活動の成果である。

給食施設栄養管理報告書 (社会福祉・介護保険施設用)  
 (1特定給食施設 (2)規模特定給食施設)

令和4年 1月 25日

(宛先) 茅ヶ崎市保健所長

施設の名称	社会福祉法人慶寿会 特別養護老人ホーム カトレアホーム
所在地	茅ヶ崎市下寺尾字東方 1835-2
管理者	(職名) 施設長 (氏名) 青柳雅之

茅ヶ崎市給食施設における栄養管理に関する規則第4条により、次のとおり栄養管理状況を報告します。

施設種別	1社会福祉施設 (2)介護保険施設 (1老人保健 (2)老人福祉)	健康増進法第21条第1項による指定	1有 (2)無				
栄養管理部門の理念・方針・目標	(1)利用者の生活の質 (QOL) の向上を目指す (2)生活習慣病の予防を図る 3望ましい食生活を体験する 4その他 ( )						
組織 (栄養管理・給食部門の 位置付け)	部門	1栄養部 2診療部 3事務部 (4)その他 ( 栄養課 )					
	責任者	(職名) 管理栄養士 (氏名) 竹内菜祐					
		電話 0467-52-8711	FAX 0467-52-8712				
	組織図	(1)有 2無					
栄養管理等について検討する 会議	(1)有 2無	【実施回数】 ( 年12 ) 回 【構成】 (1)管理者 2給食担当者 (3)管理栄養士 4栄養士 (5)調理師又は調理員 6利用者 (7)介護担当者 (8)その他 (生活相談員・ケアマネ) 合計 6人 【目的】 (1)給食及び栄養管理に関する課題及び問題の検討 (2)管理者、他部門等との情報交換及び連携の場 3苦情の処理 4献立の検討 5その他 ( )					
運営方式	(1)直営 2委託	名称					
		所在地	〒				
	委託先	代表者氏名	(職名) (氏名)				
		施設担当責任者氏名	(職名) (氏名)				
		電 話	( ) 内線				
		【委託内容】 1献立作成 2材料購入 3調理 4配膳 5下膳 6食器洗浄 7施設外調理 8栄養指導 9その他 ( )					
従事者 (管理栄養士がいる施設にあつては管理栄養士、 栄養士のみがいる施設にあつては栄養士1名の氏名及び登録 番号を記入してください。)	従事者数 (人)						
管理栄養士又は 栄養士の氏名	免許の種類 及び番号	勤務形態	管理栄養士 栄養士 調理師 調理員 給食事務 その他 合計				
竹内菜祐	(1)管理栄養士 (第 206461 号) 2 栄養士 (第 号)	(1)専任 2兼任	施設側 常勤 1 非常勤 常勤 非常勤				
従事者の研修会	(1)有 2無	【実施回数】 ( 2 ) 回 (該当年の総数)	主な研修内容: (・最後まで美味しく召し上がっていただくために ・給食施設における災害時の危機管理)				
食 数 (1日当たり平均食数) (食)	定員	朝食	昼食	夕食	その他 (夜食・精食)	合計	備考
入所者	50	48	48	48	10	154	
短期入所者	2	2	2	2		6	
デイサービス 配食サービス							
そ の 他		2	1	2		5	
合 計	52	52	51	52	10	165	
対象者 (利用者) の把握 (令和3年12月現在)	低い	性別	55~69歳(人)	70~79歳(人)	80~89歳(人)	90~99歳(人)	合計
		男	2	3	1	2	8
	女	2	5	16	19	42	
	普通	男					
		女					
	高い	男					
女							
その他	男						
女							
合計			4人	8人	17人	21人	50人



# 令和3年度 年間利用状況

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用人数 (床)														
本入所	1493	1540	1456	1434	1436	1432	1507	1449	1538	1532	1387	1545	17749	1479
シヨートステイ	64	58	74	76	90	83	94	73	61	64	66	67	870	73
合計	1557	1598	1530	1510	1526	1515	1601	1522	1599	1596	1453	1612	18619	1552
総ベッド数	1560	1612	1560	1612	1612	1560	1612	1560	1612	1612	1456	1612	18980	1582
稼働率 (%)														
本入所	99.5	99.4	97.1	92.5	92.6	95.5	97.2	96.6	99.2	98.8	99.1	99.7		97.3
シヨートステイ	106.7	93.5	123.3	122.6	145.2	138.3	151.6	121.7	98.4	103.2	117.9	108.1		119.2
全体	99.8	99.1	98.1	93.7	94.7	97.1	99.3	97.6	99.2	99.0	99.8	100.0		98.1

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
利用人数 (床)														
本入所	1489	1550	1500	1550	1550	1500	1532	1465	1512	1541	1392	1517	18098	1508
シヨートステイ	70	62	60	62	62	60	65	60	68	56	41	55	721	60
合計	1559	1612	1560	1612	1612	1560	1597	1525	1580	1597	1433	1572	18819	1568
総ベッド数	1560	1612	1560	1612	1612	1560	1612	1560	1612	1612	1456	1612	18980	1582
稼働率 (%)														
本入所	99.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.8	97.7	97.5	99.4	99.4	97.9		99.2
シヨートステイ	116.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	104.8	100.0	109.7	90.3	73.2	88.7		98.6
全体	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.1	97.8	98.0	99.1	98.4	97.5		99.1

死亡者数・死亡原因

令和3年度(R3.4.1~R4.3.31)

死因と退所原因(本入所名)

	日付	死因・退所原因	性別	年齢	場所
1	R3.6.2	老衰	男性	84歳	カトレアホーム
2	R3.6.24	肺炎	女性	87歳	カトレアホーム
3	R3.7.2	老衰	女性	99歳	カトレアホーム
4	R3.7.7	老衰	女性	91歳	カトレアホーム
5	R3.7.21	老衰	男性	90歳	カトレアホーム
6	R3.8.7	老衰	男性	92歳	カトレアホーム
7	R3.8.15	老衰	女性	91歳	カトレアホーム
8	R3.9.25	老衰	女性	90歳	カトレアホーム
9	R3.12.8	老衰	女性	97歳	カトレアホーム
10	R4.1.16	心肺停止	女性	96歳	茅ヶ崎徳洲会病院
11	R4.1.30	老衰	女性	98歳	カトレアホーム
12	R4.3.30	誤嚥性肺炎	男性	92歳	カトレアホーム

入所利用者の動向（統計）（令和4年3月31日現在）

1. 保険者

保険者	男性	女性	合計(人)
茅ヶ崎市	5	33	38
寒川町	0	5	5
藤沢市	1	1	2
大和市	1	0	1
座間市	0	1	1
横浜市(旭区)	0	1	1
静岡県(藤枝市)	0	1	1
合計	7	42	49

2. 年齢

	男性	女性	合計(人)
65歳以下	1	2	3
65歳～69歳	1	0	1
70歳～79歳	2	5	7
80歳～84歳	1	6	7
85歳～89歳	1	10	11
90歳～94歳	1	7	8
95歳～99歳	0	12	12
100歳以上	0	0	0
合計(平均)	7	42	49(86.5)

最高年齢：男性 93歳 女性 99歳 最低年齢：男性 64歳 女性 58歳

3. 要介護度

	男性	女性	合計(人)
要介護度1	0	0	0
要介護度2	1	0	1
要介護度3	2	5	7
要介護度4	2	21	23
要介護度5	3	15	18
合計(平均)	8	41	49(4.22)

4. 在籍日数

	平均在籍日数	最長在籍日数	全体平均
男性	1825日(5年)	4562日(12.5年)	1825日(5年)
女性	1825日(5年)	4453日(12.2年)	

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	回数	7	4	8	9	8	9	9	7	9	6	4	9
	人数	398	450	405	460	365	414	403	335	427	446	198	441
精神科	回数	1	1	1	0	2	2	2	2	2	1	1	2
	人数	9	8	9	0	18	18	18	18	7	9	8	26
皮膚科	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1
	人数	8	9	8	4	7	9	6	6	9	0	9	5
訪問菌科	回数	9	7	9	8	8	8	9	8	8	8	7	9
	人数	138	115	127	106	112	108	112	101	121	113	11	116
合計	回数	18	13	19	19	18	16	18	17	16	16	18	18
	人数	553	582	549	570	502	549	539	460	564	568	226	588
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
酸素吸入	人数	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
吸引	人数	1	4	1	2	7	0	2	2	1	0	0	7
経管栄養(胃瘻)	人数	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3
皮下点滴	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
静脈点滴	人数	0	39	136	114	47	26	3	35	7	0	3	0
筋肉注射	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
褥創処置	人数	69	59	75	32	0	0	0	0	0	0	0	0
ハルンカチーテル	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
下剤投与	人数	34	26	24	17	29	23	16	34	29	29	30	31
摘便	人数	7	17	7	2	5	8	3	9	5	17	15	9
血糖測定	人数	5	5	3	4	4	5	1	1	5	1	0	0
採血	人数	4	53	3	10	16	7	3	28	5	7	12	3

特養待機者調査（令和4年3月31日現在）

（男性）

保険者	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計（人）
茅ヶ崎市	1	2	11	10	8	32
寒川町	0	1	2	5	0	8
藤沢市	0	0	3	1	2	6
平塚市	0	0	1	0	1	2
県外	0	0	1	0	1	2
合計	1	3	18	16	12	50

（女性）

保険者	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計（人）
茅ヶ崎市	0	0	20	16	6	42
寒川町	0	0	0	1	2	3
藤沢市	0	0	1	1	1	3
平塚市	0	0	0	1	1	2
横浜市	0	0	1	0	0	1
川崎市	0	0	0	0	1	1
県外	0	0	1	1	2	4
合計	0	0	23	20	13	56

県外：岐阜県1名、静岡県2名、大阪府1名、東京都2名

特養待機者の傾向と分析

☆待機（申込）者を見ると昨年に比べて増加している。待機者に関する追跡調査を県報告時（2回／年）及び随時実施しているが、現状把握に齟齬がないように注意を払って、常に実数（実態）を正確に把握するよう努める必要がある。最近の傾向として「医療的処置」が必要な待機者が挙げられるが、経管栄養やインシュリン注射等の対応を要する待機（申込）者は、事実上受け入れ可能性が低い。上記の要因を加味すると、実数は減少する。更に男性の入所申し込みが女性に比べ多い現状がある。これは男性の入居者の欠員が相対的に少ない上、入所者の全体割合に比して少ない為、今後も待機者、待機期間の伸びが予想される。「要介護度3」以上入所が原則になったことで、逆に早期の施設入所を判断されるケースも目立っている。

☆入所相談者への対応に関しては「新型コロナウイルス」の影響で外部からの出入りを最小限に制限せざるを得ない状況がある。原則的に“施設内見学”は中止しており、談話室

や電話対応での相談に留め、郵送での申し込みをお願いしている。入所を希望される理由として「利用料金」（低所得者の受け皿となることへの期待）を挙げられる声が多くある。入居する本人の年金のみで終身のサービス提供を受けられることは、家族としては大きな安心材料となっている。

令和3年度 ボランティア活動（受け入れ状況）

内容	来園延べ人数	活動日	実施回数	備考
香川教会レク	0	第1金曜日	0	歌、体操
尺八笛なかまえぼし	0	第4金曜日奇数月	0	尺八演奏
ピアノボランティア	0	不定期（1回/月）	0	ピアノ演奏
介護サービス相談員	0	不定期（2回/月）	0	傾聴
第三者委員	0	不定期	0	傾聴
散髪	12	不定期（1回/月）	12	散髪
ヒューマンファミリー	0	1月以外の奇数月	0	清掃
鶴嶺高校PTA	10	7月、11月	1	屋外清掃
香川婦人会	0	8月	0	盆踊り
あゆみの会	0	12月	0	X'mas会
ショッピング	0	第2金曜日	0	社協ボラ
湘南赤羽根アンソナル	0	敬老の日	0	音楽演奏
フォークソング	0	12月	0	音楽演奏
福祉体験学習	0	7月、10月	0	円蔵中学校
福祉慰問（茶道・合唱・JRC）	0	8月	0	鶴嶺高校

行事実施状況（月間）

4月	花まつり（甘茶）、家族会（中止）
5月	菖蒲湯、端午の節句（柏餅）
6月	衣類販売会（中止）
7月	湘南平塚七夕ドライブ（中止）、かながわ高齢者研究発表（web）
8月	追善盆供養、迎え火・送り火 納涼祭・盆踊り・下寺尾神輿（中止）
9月	流し素麺（中止）、敬老祝賀会
10月	秋の遠足（中止）
11月	シューケンズコンサート（中止）、寒川花火大会鑑賞（中止）
12月	クリスマス会中止（香川レク、あゆみの会、職員）、ゆず湯、餅つき
1月	新年賀詞交歓会、七草粥、どんど焼き（団子作り）、梯子乗り（中止）
2月	節分（豆まき）、衣類販売会（中止）
3月	ひな祭り

（毎月実施）

香川レク（第1金曜日）、誕生会、ショッピング（第2金曜日）、散髪、睦会給食連絡会、ピアノボランティア

※「新型コロナウイルス感染症」対策として当面の間、外部VO受入中止、自粛行事あり

学校名	取得資格	区分	介	H	他	実習期間	日数	受入人数	備考
神奈川社会福祉専門学校	介護福祉士	Ⅱ	2			5/6~6/5	23	0	受け入れなし
神奈川社会福祉専門学校	介護福祉士	Ⅲ	2			8/30~10/1	23	1	川名 天翔
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/25	1	19	
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/26	1		
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/28	1		
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/29	1		
合計			4	0	0			20	

令和3年度 カトレアホーム 施設内研修

日時	研修テーマ	講師（担当職員）
4月11日（木）	非常時のライフライン確保	施設長 青柳 雅之
5月13日（木）	まず行動する為の情報収集と共有方法～安心して利用者を守る為には～	相談課主任 細川 清人
6月10日（木）	私たちの専門性と志	副施設長 石川 絵理
7月8日（木）	かながわ高齢者福祉研究発表大会 発表動画視聴	施設長 青柳 雅之
8月8日（木）	高齢者虐待に関する一斉チェック点検の実施	施設長 青柳 雅之
9月9日（木）	高齢者虐待防止一斉チェック実施結果・分析 身体拘束防止のための研修	施設長 青柳 雅之
10月8日（木）	かながわ高齢協動画 事故防止研修	CM 中村 聡子
11月14日（木）	転倒事故の振り返り	施設長 青柳 雅之
12月12日（木）	かながわ高齢協動画 感染症対策研修	施設長 青柳 雅之
12月13日（木）	かながわ高齢協動画 高齢者虐待禁止・身体拘束禁止	施設長 青柳 雅之
2月13日（木）	事故予測・見守りと気づきのアンテナ（KYT訓練）	施設長 青柳 雅之
3月11日（木）	特養での看取りの対応～生活施設のターミナルケア～	施設長 青柳 雅之

令和3年度 カトレアホーム 施設外研修

日時	研修テーマ	主催	参加職員
4月6日(火) 7日(水) 13・20日(火)	CM更新研修	合同会社介護の未来	施設CM 中村 聡子
4月13日(火)	介護おむつを学ぼう Web	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	介護課職員 鶴田 輝
4月21日(水)	福祉現場における接遇 Web	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	介護課職員 城田 悠佑
5月13日(木)	特定給食施設講習会～食中毒編～Web	茅ヶ崎保健所	栄養課長・栄養士平井 光代 栄養課職員 大八木憲太郎
5月18日(火)	コロナ対応とBCP策定 Web	あいおいニッセイ 同和損保	副施設長 石川 絵理
5月19日(水)	人事労務担当者研修 Web	かながわ福祉人材 研修センター	副施設長 石川 絵理
5月25日(火)	第19回かながわ研究発表実演	神奈川県社会福祉 協議会	介護課職員 大谷 弘文 介護課職員 城田 悠佑 介護課職員 矢部 梓
6月2日(水)	特定給食施設講習会免疫力アップと 栄養について Web	茅ヶ崎市保健所	栄養課長・栄養士平井 光代
6月3日(木)	社会福法人主任/係長講座 web	全国社会福祉協議会	副施設長 石川 絵理
6月7(月) 10日(水)29日	リスクマネジメント研修 web		副施設長 石川 絵理
6月17日(木)	排泄ケア・排尿障害 Web 中止	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	介護課職員 大谷 弘文
6月24日(木)	脱水症・熱中症について Web	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	介護課職員 栗原 裕司
7月24日(土)	ハンドセラピスト		医務課 中村 直子
8月3日(火)	社会福祉主任係長講座		副施設長 石川 絵理
8月20日(金)	アクティビティを使ってコミュニケーション研修(Web)	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	介護課 大谷 弘文
9月15日(水)	大腸がんの基礎知識(Web研修)	神奈川県在宅医療 トレーニングセンター	医務課 中村 直子
10月21日(木)	高齢者や障がい者と成年後見人制度 (Web研修)		施設長 青柳 雅之
11月11日(木)	介護の日Dケアセミナー(Web研修)	白十字	施設長 青柳 雅之 介護課 杉崎 希
12月21日(火)	中長期計画策定セミナー (Web研修)		施設長 青柳 雅之
1月28日(金)	県高齢協茅ヶ崎・寒川シンポジウム	神奈川県高齢協茅	施設長 青柳 雅之

	(Web 研修)	ヶ崎・寒川地区		
2月21日(月)	身体拘束廃止推進研修(Web 研修)	神奈川県高齢者福祉施設協議会	施設長 相談員 介護職員	青柳 雅之 中村 聡子 入沢 賢一

サービス担当者会議の件数

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス担当者会議	10	12	9	9	12	10	14	11	11	8	12	7	125
(内、家族・本人参加)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	12	9	9	12	10	14	11	11	8	12	7	125

認定調査件数

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	6

認知症高齢者の日常生活自立度（令和4年3月31日現在）

自立	0	
I	2	何らかの認知症を有するが、家庭内・社会的にはほぼ自立
II a	3	誰かが注意していれば自立。道に迷う・買物・事務・金銭管理等のミスが目立つ
II b	9	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対話等一人で留守番ができない等
III a	23	日中を中心に着替え、食事、排便、排尿が上手に出来ずに時間が掛かる。異食、収集、徘徊、失禁、大声、奇声、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	2	夜間を中心にIII aの症状が見られる
IV	9	日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
M	1	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
	49	

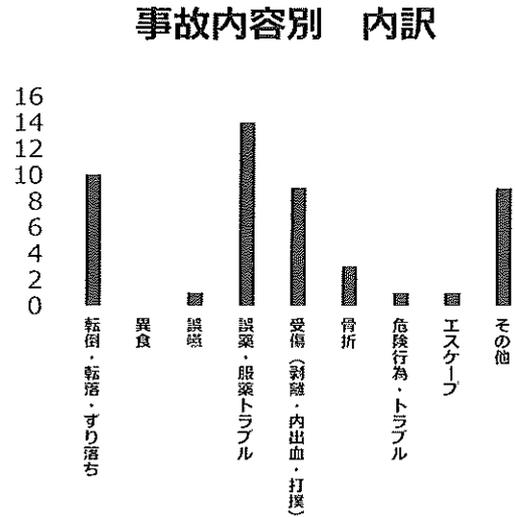
# 令和3年度 リスクマネジメント総括

◎対象期間 : 令和3年4月1日～令和4年3月31日

◎事故ヒヤリハット報告総件数 : 45件 (提出及び報告件数)

◎内訳

	R03年度	R02年度
転倒・転落・ずり落ち(※1)	10	13
異食	0	3
誤嚥	1	0
誤薬・服薬トラブル(※2)	14	15
受傷(剥離・内出血・打撲)	9	8
骨折	3	1
危険行為・トラブル	1	1
エスケープ	1	0
その他(※3)	6	9
<b>合計</b>	<b>45</b>	<b>50</b>



※1 一部未遂も含む

※2 誤薬・服薬トラブルに関しては落薬、配薬ミス、点滴漏れなどの事象も含む

※3 その他の内容

食事の配膳違い(3件)、利用者の私物の破損、義歯の紛失未遂 等・・・

◎総括

令和3年度の事故件数は上記45件であった。転倒・転落・ずり落ちの報告は前年度に比べて3件減少、異食の報告は今年度0件、受傷(剥離・内出血・打撲)の報告及び誤薬・服薬トラブル(落薬・配薬ミス)はそれぞれ前年度より1件増加であった。また、受傷の報告においては9件挙がっているが、内1件は転倒により頭部打撲、一時的に安静するなど様子観察するも更なる急変により救急搬送から入院加療、一命は取り留めたものの後遺症によって施設での生活が困難の判断となり、結果的には退所(療養型病院に転院)を余儀なくされる事例があった。

一方、骨折等の大きな事例は3件であり、内2件は転倒により受診後骨折が判明(更に内1件はOPEに至った)、一方の残り1件は受傷部位の異変からしばらく様子を見たが状態が改善されず受診した所から骨折の診断を受けたものであった。

こちらには記載していないが、日中の時間帯(9時～18時台)の報告が31件、夜勤帯(18時～9時台)の報告が14件、概ね日中の利用者が概ね活動される時間帯に集中していた。

この一年を振り返り、件数は前年度に比べ5件減少したが、今回は結果的に非常に重大なケース(結果的に障害が残って施設での生活が難しくなり退所を余儀なくされた事例)があったので、まずは職員間の報告・連絡・相談はもちろんの事、一つの事故が大きな事態を招く事の重大さ等、施設(事業所)としての大きな課題を残す事となり、この事例を通し、改めて事故ヒヤリの重要性を考えるきっかけとなった。

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
居宅介護支援センター松林  
松林ケアセンター

## 目 次

### I. 事業報告

- 1 居宅介護支援事業
- 2 通所介護・指定第一号通所事業
- 3 訪問介護・指定第一号訪問事業
- 4 茅ヶ崎市委託事業
  - ① 茅ヶ崎市松林ケアセンターの管理運営
  - ② 高齢者住宅援助員派遣事業
  - ③ 転倒予防教室
  - ④ 市営松林住宅管理運営業務
- 5 実習生受け入れ
- 6 ボランティア活動
- 7 松林ケアセンター室内の清掃営繕業務委託事業

### II. 組織運営

- 1 会議
- 2 職員研修
- 3 地域交流活動
- 4 広報
- 5 施設設備の改善補修整備

## I・事業報告

### 1.【居宅介護支援事業】居宅介護支援事業・介護予防ケアマネジメント事業

令和3年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

#### 【重点報告】

- ・コロナ禍で、様々なコロナにかかわる対応に追われた1年であった。居宅介護支援事業所職員で新型コロナウイルス感染者を出すことなく運営できた。
- ・3密を回避するなどの国、県の新しい働き方にあわせ、市内でも早い段階からテレワークや分散勤務、オンライン会議の導入などに取り組めた。
- ・新たに主任介護支援専門員の増員と、引き続き社会福祉士などの資格を有した職員で活動し、人員要件などの算定要件を維持し、特定事業所として活動した。
- ・法人内ケアマネ研修や毎朝のミーティングなどにオンライン会議システムを導入し、各員が操作などに習得する機会を設けられた。
- ・利用者の状況にあっては、長期入院、施設入所、逝去など支援終了となるケースが多くあった。
- ・新規依頼の相談は、日に何度か地域包括支援センターなどからある状態が続いたが、職員の負担と業務能力などを勘案し、担当件数を事業所内で設定した件数としたため、単純に件数増加には至らなかった。
- ・日本介護支援専門員協会 南関東ブロック研修及び、神奈川県介護支援専門員協会研究大会において開催の運営主体として、また、演題発表の機会を捉え発表した。

#### 【報告】

- ・特定事業所加算算定を行い、加算取得などを着実に実施した。
- ・役職付き職員と他職員との担当件数の差異を明確にし、事業所内で分担し過度に負担が偏らないようにした。
- ・外部には事業所管理者が、(一社)茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 介護支援専門員部会 部会長として下記活動も実施。活動を通じ当事業所、当法人の存在意義を地域で高め、行政各課をはじめ、医師会・歯科医師会・薬剤師会・多関係団体等と深く交流できた。
- ・管理者が、神奈川県介護支援専門員協会地域連絡団体会長会議出席、茅ヶ崎市在宅医療介護連携推進事業委員として在宅ケア相談窓口検討委員会出席、多職種連携研修委員会出席、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第一層協議体委員、茅ヶ崎市寒川町高齢者虐待防止ネットワーク連絡協議会委員として活動した。
- ・所内ではケアマネジメント力の向上に関して、事業所内事例検討会を開催し主任介護支援専門員を交えスーパーヴァイズや新たな気づきが得られるよう取り組んだ。
- ・年度を通じ、様々な内容で開催された研修、オンラインセミナーに参加し研鑽した。

居宅介護支援計画作成状況

要介護者の人数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3年度	114	126	119	123	118	120	116	118	117	111	112	113	1407
2年度	92	93	89	99	99	99	103	108	112	0	216	109	1219

\*令和3年1月は請求操作ミスのため2月に合算請求

要支援者の人数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3年度	24	23	23	22	21	22	22	23	23	22	23	22	241
2年度	8	11	14	17	19	18	21	20	19	21	22	23	213

居宅介護支援 要介護度別 延べ人数

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
3年度	95	174	687	364	231	138	165	1854
2年度	106	107	472	335	135	108	169	1432

2. 【通所介護・指定第一号通所事業】

令和3年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

【重点報告】

- ・優良介護事業所かながわ認証をいただいた。\*市内デイサービスでは2例目。
- ・中重度ケア体制加算及び認知症加算の取得に対しては年間を通じて高い水準（40～50%）で上回り安定的であった。
- ・入浴用車いすの接触事故により、利用者の入院、手術、損害賠償対応に至る事故が発生した。約100万円の総額となった。年度末までに示談している。
- ・コロナの影響か、軽度者が要介護認定に重度化する傾向があった。
- ・年度通じ、新型コロナウイルスに伴う3密の緩和を含む感染予防対策を講じたが、年度末に陽性者（職員、利用者）が数名生じ、クラスターとなるなど、計4日を休業した。
- ・「栄養スクリーニング加算」の数字が根拠となり、栄養スクリーニングで高リスクや中リスクとなった方を「栄養改善加算」に繋げることができ、改善に導くことができた。
- ・栄養改善加算と栄養スクリーニング加算の過去のデータを収集し、かながわ高齢者福祉研究大会にて発表することができた。
- ・呼吸ケア誤嚥ケア学会内「嚥下食アワード」にて、最優秀賞を受賞し、連覇した。
- ・シルバー産業新聞 令和4年1月、2月、3月号に取り組みを掲載頂けた。
- ・月間ケアマネジメント2021年7月号に取り組みを掲載頂けた。
- ・年度前半に管理者の退職に伴い、交代。所長が兼務した。

通所介護 延べ人数													単位：人
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
3年度	579	606	590	619	595	566	602	587	520	442	517	514	6764
2年度	489	457	521	539	568	563	590	565	549	514	499	585	6430

介護予防通所介護 延べ人数													単位：人
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
3年度	114	108	111	110	98	109	85	81	73	58	54	61	1062
2年度	68	48	76	93	107	112	117	110	107	104	103	118	1163

平均利用者数													単位：人
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
3年度	26.6	27.4	26.9	27.0	26.6	25.9	26.4	25.6	24.7	23.8	23.7	24.0	25.7
2年度	21.4	19.4	22.6	23.4	25.9	25.9	26.1	27.0	27.3	25.7	25.1	26.0	24.6

利用者介護度別延べ人数									単位：人
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
3年度	201	861	2602	865	1561	837	899	7862	
2年度	266	897	2355	1081	1070	1038	886	7593	

### 3. 【訪問介護・指定第一号訪問介護事業】

令和3年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

#### 【重点報告】

- ・新型コロナウイルス感染者が市内でも激増し、非常事態宣言が出されるなど利用者、職員共に生活が大きく揺さぶられる1年の中、事業規模を縮小することなく展開できた。
- ・年度途中でサービス提供責任者を採用し、3名体制とすることができた。
- ・ターミナルケアにかかわる身体介護の支援を提供でき、一時的にサービス量が多くできたが、ご逝去後などは一気にサービス量減になるなどがあった。

#### 【報告】

- ・ケアマネジャーとの連携を密にし、利用者の状態の報告、充実したサービスの提供に努め、利用者が住み慣れた場所で安定した生活を送られるよう支援した。
- ・従業員としてサービス提供責任者(非常勤)の増員と、登録ヘルパー3名増員した。
- ・サービスAの利用者はいなかった。

訪問介護・介護予防日常生活支援総合事業訪

単位：時間 単位：人

問介護年間実績表

		身体介護	身体生活	生活援助	合計	予防 訪問介護	訪問介護 合計	訪問介護 員数
3年度	時間	1735 : 00	2161 : 75	1019 : 75	4916 : 25	970 : 75	5887 : 00	20
	延べ人数						5707	
2年度	時間	1810 : 15	1413 : 45	276 : 00	3500 : 00	928 : 15	4428 : 15	20
	延べ人数	3902				1152	5054	

訪問介護自費サービス

	人数	延べ回数	合計時間
3年度	8	65	95 : 00
2年度	4	4	5 : 00

4. 【茅ヶ崎市委託事業】

①茅ヶ崎市松林ケアセンターの管理運営

介護を必要とする在宅の高齢者及びその家族の福祉の増進を図ることを目的に利用者に対する入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練、介護方法の指導、生活等に関する相談及び助言その他の便宜の供与に関する業務、ケアセンターの施設及び付属設備の維持管理に関する業務を行った。

②高齢者住宅援助員派遣事業

前年度に引き続き茅ヶ崎市より委託を受け、月曜から金曜日（国民の祝日、1月1日～3日・12月29日～31日を除く）毎朝安否確認を中心に、入居している高齢者が快適に暮らせるよう、支援体制を整えた。また、茅ヶ崎市高齢福祉介護課・建築課や居宅介護支援事業所とも連携を密にし、適切な助言・相談が行えるよう連絡調整を行った。

	3年度	2年度	
生活指導・相談	40	77	隣人関係・体調不良・日常生活等
安否確認	2378	2554	外出、通院、入院で留守が多いお宅があった
一時的家事援助	12	5	家電の調整、電球交換等
緊急時の対応 (時間外)	8	8	夜間緊急通報（転倒）があり ALSOK 対応
(時間内)	8	3	体調不良で病院、救急搬送・緊急連絡先に報告
関係機関との調整	5	5	介護保険関係・地域包括支援センター・ボランティアセンター・建築課、高齢福祉介護課等

**31**

その他日常生活上必要な援助	4	1	家事確認等
15世帯中 入居	15名（うち男性 2名 女性 13名）令和4年3月現在		
入居	入居	0件	退去1件
年齢	最年長9歳 最年少72歳		
介護保険	要支援1（1名）要介護1（1名）要介護2（1名）要介護4（1名）		
研修	*令和3年度は新型コロナウイルスの影響により LSA にかかわる研修はなかった。		
<p>認知機能悪化など身体状態の変化により要介護認定を受け支援が必要な入居者が増えた。          年度途中で持病の悪化を理由に退去された方がおられた。          新型コロナウイルスの影響により「住民会議」などの懇親の場もなかった。          高齢者世帯の為、住民同士の交流や意見の取次など日々の支援が必要な状況であった。</p>			

### ③転倒予防教室

令和3年度はコロナの影響により開催できた月と中止した月があった。入場参加可能者数の上限設定の導入による抽選方式の導入や、教室の運動プログラムの調整を実施。

コロナ禍でフレイルになっている高齢者が増えた印象が強かった。

### ④自主事業

#### ・日曜介護相談

市役所や地域包括支援センターが休業の日曜日に、主任介護支援専門員、社会福祉士が介護相談等に対応できるよう毎月第一、第三、第五日曜日の開館日に実施。開館はコロナ禍でも市の方針により継続した。来館者は4名であった。

#### ・松林 FUN クラブ

認知症や様々な持病や特徴を持つ当事者とその家族、支援者らが気軽に集い交流できる場としてのいわゆる「認知症カフェ」のような場として、毎月第一日曜日に設定していた。

こちらも令和3年度はコロナ感染対策を実施しつつ、コンサートや茶話会、卓球などの交流活動を行えた。中止した月もあったが、再開への期待の声が多くあった。

#### ・松林祭

地域住民との交流や異世代交流、社会福祉法人の地域貢献活動の一環として模擬店販売やボランティア団体の演舞などの場として開催、企画していたが新型コロナウイルス感染症拡大を受け、人が集う機会を提供することを避けるために開催せず。松林ケアセンター開館20周年記念式典なども企画したが、同理由により実施できず。

### ④市営松林住宅管理運営業務

内容	業者		
消防設備保守点検	藤沢総合設備	機器点検 7月	総合点検 1月
自動火災報知設備点検		非常用放送設備点検	
放火防排煙設備点検		誘導用及び誘導標識点検	
消火器維持点検		屋内消火栓設備点検	

電気保守点検	日本テクノ	毎月点検	定期点検 10 月
自家用電気工作物 (最大 105KW 受電電圧 6, 600V)			
非常通報設備保守点検	岩切通信工業	保守点検 3 月	
主装置保守点検・呼び出し、センサー、表示、解錠等機能動作点検 事務室内主監視盤・住戸用設備保守点検・外観点検、機能点検 住戸インターホン、玄関子機・水道センサー・天井マイク、スピーカー 押しボタン (トイレ、浴室) 握りボタン (居室) 復旧ボタン 火災感知器 (煙感知器)、ガス感知器			
昇降機保守点検	三菱ビル テクノサービス	リモート点検毎月	油圧点検 3 ヶ月毎
対象：三菱エレベーター			
自動ドア保守点検	神奈川ナブコ	定期点検 6 月・12 月	
対象：住宅玄関自動ドア			
受水槽保守点検	東海水源	清掃・水質検査 3 月	
対象：市営松林住宅受水槽			

## 5. 実習生受け入れ

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症対策として来館者の制限などを実施していたことから実習生受け入れ事業に関しても年度を通じ制限した。

## 6. ボランティア活動

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症対策として来館者の制限などを実施。その中、緊急事態宣言下ではない時期に松林ケアセンター友の会の食器洗いの協力を得られた。

## 7. 【松林ケアセンター室内の清掃営繕業務委託事業】

松林ケアセンターの一部、主にトイレ部分の清掃を社会復帰訓練の為、職場実習として業務を行う茅ヶ崎ワーキングハウスに委託し実施した。

業務内容	業務日	時間		人員
清掃業務	月～土	16 : 15～17 : 15	1 時間	1 名

## II・組織運営

### 1. 会議

1. 理事長に報告会	・月 1 回 第 2 土曜日 13:00～13 : 30
2. 法人業務改善会議	・月 1 回 第 4 月曜日 16 : 00～17 : 30
3. 職員会議	・月 1 回 第 2 土曜日 17 : 45～19 : 00

4. 各部署会議	・居宅介護支援	朝のミーティング(毎日)
	・通所介護	第3木曜日ds会議(月1回) その他、必要時開催した。
	・訪問介護	・訪問介護 第2土曜日ヘルパー会議(月1回) その他、必要時開催した。

## 2. 職員研修

### 1) 居宅介護支援 社会福祉法人慶寿会 ケアマネ研修会

毎月第2土曜日、松林ケアセンター2階教育室で小笹慶資理事長の指導のもとに基本的な医学知識を学ぶと共に、令和3年度はテーマを各事業所で考え研修会を実施した。

	内容	担当
4月	新型コロナと包括ケアの関連性 感染症を知って予防しよう	地域包括支援センターあさひ
5月	2021 介護報酬改定 人工呼吸器、療法	カトレアホーム
6月	認知症の事例	平和町介護センター
7月	睡眠障害、不眠症	地域包括支援センターくるみ
8月	コロナウイルス感染予防の為中止	
9月	コロナウイルス感染予防の為中止	
10月	倫理、法令遵守	カトレアホーム
11月	ケアマネから見た障害福祉	居宅介護支援センター松林
12月	带状疱疹とは。 横紋筋融解症	地域包括支援センターあさひ
R4年 1月	身元保証人	カトレアホーム
2月	コロナウイルス感染予防の為中止	
3月	コロナウイルス感染予防の為中止	

### 2) 居宅介護支援 内部研修

ケアマネジメントテクニックの向上のため {利用者事例紹介} {ミーティング様式の刷新} {オンライン会議システム操作方法} などの研修を開催した。

### 3) 外部研修・勉強会

・認知症の人の暮らしを良いものにしていくために、口腔ケアや食事にできること(オンライ

ン)・介護事業所リスクマネジメントトクライシスマネジメント(オンライン)・事業経営継続セミナー(オンライン)・ケアマネジャースキルアップ研修 事例検討会・茅ヶ崎市自立支援型地域ケア個別会議・認定調査員研修・ケアマネジャーのための新型コロナ講座(オンライン)・タクティールケア認知症緩和ケア理念と触れるということ(オンライン)・教えて薬剤師さん在宅医療。福祉で知っておきたい薬の基礎知識(オンライン)・認知症疾患医療センター 認知症研修(オンライン)・厚生労働省新型コロナ対策本部地域支援班ウェブセミナー(オンライン)・認知症サポート医フォローアップ研修(オンライン)・在宅医療推進のための多職種連携研修会(オンライン)、介護支援専門員更新研修専門Ⅰ、Ⅱ、主任介護支援専門員研修などに参加し知識と技術の向上を図った。

通所介護・指定第一号通所事業 現任研修

	内容	講師
4月	介護技術研修 歩行介助 立位介助など	井上
5月	ハラスメント対応・個人情報保護研修	井上
6月	認知症高齢者とのコミュニケーション技術の応用的展開	井上
7月	身体的拘束等の排除、虐待、不適切ケアに関する研修	井上
8月	感染症対応研修 新型コロナワクチンについて・介護技術研修 車椅子介助・歩行介助等	平本
9月	介護技術研修 車椅子、椅子からの立ち上がり等	IMS 遠藤様
10月	介護技術研修 車椅子についての理解を深める	IMS 遠藤様
11月	事故発生時の対処と再発防止 緊急時対応	IMS 遠藤様
12月	感染症対応研修 理解と対策 ノロウイルス対処方法	平本
1月	新型コロナウイルス感染防止のため参集せず 倫理と法令遵守	資料
2月	新型コロナウイルス感染防止のため参集せず 虐待防止研修 自己点検シート実施	動画
3月	新型コロナウイルス感染防止のため参集せず 介護予防	資料

訪問介護・指定第一号訪問事業 現任研修

	内容	講師
4月	『倫理及び法令遵守』『個人情報の保護』『プライバシー保護』	日向 康郎
5月	『接遇』	堀越 もと子
6月	『感染症・食中毒の予防及びまん延の防止』『感染症及び食中毒の発生事例検討』	堀越 もと子

7月	『熱中症について』	日向 康郎
8月	『事故の発生予防又は再発防止・事故の発生等の緊急時の対応』	新型コロナウイルス感染予防の為中止 レポート提出
9月	『摂食・嚥下と食支援』 『口腔ケア』	新型コロナウイルス感染予防の為中止 レポート提出
10月	『記録の書き方』	堀越 もと子
11月	『高齢者の薬&生活への影響』	日向 康郎
12月	『ホームヘルパーに求められる医療の知識』	堀越 もと子
1月	『虐待』	日向 康郎
2月	『訪問時の心得・ハラスメント対策』	新型コロナウイルス感染予防の為中止 レポート提出
3月	『認知症及び認知症のケア（認知症サポーター養成講座）』	地域包括支援センター くるみ

茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会の訪問部会研修会にサービス提供責任者が出席し、パート・登録ヘルパーに伝達した。

### 3. 地域交流活動

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策として来館者の制限などを実施していたことから地域交流活動に関しても年度を通じ制限した。

### 4. 広報

#### ① ホームページ

年度を通じ様々な事業、各種表彰や、施設利用の様子や事業運営の様子、食事やおやつなどの活動報告の場として活用した。また求人について、法人研修施設（curaの家）、企業主導型保育園（まるめろっじ）などの紹介も加えた。

#### ② SNS

- ・インスタグラムを活用し写真や動画を世界中に向けて発信。海外の認知症の介護者の集いや、国内の介護施設、社会福祉法人や、個人、企業など共通のトピックスを持つ方との交流（フォロー）を行え、情報交換の場ともなった。年度末時点で2200を超えるフォロワー数となった。
- ・ツイッターは松林 FUN クラブの開催案内や開館情報など、情報発信のツールとして活用した。

### 5. 施設設備の改善補修整備

- ・植栽剪定は造園業者に委託せず、営繕職員で対応し経費削減を図った。
- ・剪定枝をウッドチップ加工し防草対策に活用。景観向上につながる取り組みを行った。この取り組みを市の施設を管理する指定管理者を対象とした「茅ヶ崎市エコ管理賞」に応募し受賞。市の施

設で行っている職員の環境配慮行動や設備の運用管理等の取り組みで、環境負荷の低減や、業務効率化、経費の節減等の効果が認められ、他の組織の模範となる環境配慮活動を表彰された。

#### 保守・衛生・健康管理

- (1) 事務所清掃・デイサービスフロアワックス 年1回
- (2) 空調機器保守 年1回
- (3) 厨房その他殺虫消毒 年3回
- (4) 職員健診 年1回
- (5) 厨房検便 毎月1回
- (6) インフルエンザ予防接種 希望者とその家族
- (7) 新型コロナワクチン接種の推進と、副反応などに備えた勤務体制を敷いた。

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
平和町介護サービスセンター

## 目 次

### 事業報告

#### (1) 居宅介護支援事業

#### (2) 訪問介護・日常生活支援総合事業

#### (3) 組織運営

- 1) ホームページ
- 2) 会議・定例会
- 3) 職員研修

#### (4) その他

- 1) 災害対策

## (1)【居宅介護支援事業】

1. 平成24年度より特定事業所として、主任ケアマネジャーを筆頭に、算定要件である、24時間連絡体制確保、困難ケースを積極的に対応、年度を通じ各ケアマネジャーの実践力向上のための研修計画の立案・実施、毎週事業所内で「利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関わる伝達等を目的とした会議」の開催、毎月特定事業所加算に係る基準の順守状況報告書の作成を行っている。
2. 在宅福祉の地域拠点となるべく、茅ヶ崎市高齢福祉介護課、地域包括支援センターなどとも連携、さらには地域医療機関、他の社会福祉資源と連携しつつ地域福祉の向上を図ると共に、地域との交流を深め、地域包括ケアシステムに向けた事業所としての特色と今後の社会福祉、医療情勢を見据え、要となるよう在宅介護力向上、中でも独居者の支援や認知症ケア・緩和ケア・看取りケアに対し積極的に支援を行い、支援力を身に着けるため各研修への参加やケアマネジメントや介護保険制度の理解 ～法の読み解き方・法令順守～ を主眼に、介護保険法と権限移譲に伴い神奈川県条例とを読み込み適切なケアマネジメントや、他事業種への理解も深めることで、公正で、法の理解に基づく‘エビデンスベースの’真に力のあるケアマネジメント事業所として研鑽したことによって個々のケアマネジャースタッフが、他者依存的思考ではなく、しっかりと現場に自ら足を運び、基本への立ち返りや、条例文などを見て法令順守に積極的になること、新たな情報を自ら取りに行く力、得た知識の実践力、情報発信力などを着実に身に着けることができた。  
また、茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会幹事会や神奈川県介護支援専門員協会地域連携部会に管理者が参加し、市内及び県内の、介護支援専門員の活動をサポートやネットワークを構築し、茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会会員への情報提供のほか、会員相互間の情報交換のための活動を行った。
3. さらには医療的な知識の向上にも力を入れ、近医や訪問看護ステーション保健師や看護師、リハビリテーションの専門家である理学療法士などとも協働することで、医療職から見て、「任せて安心」なケアマネジャー事業所としての評価をいただくなど、現状維持ではなく日々向上を図った結果、社会福祉法人 慶寿会のケアマネジャーの評判を対外的にアピールすることができた。

\*平成27年度より男性1名、女性3名の常勤4名体制で事業を継続してきたが、年度内に1名の退職、1名の入職と職員が入れ替わり、新たに男性2名、女性2名の体制となった。標準担当件数を常勤換算数から151件を目標に活動。積極的に地域包括支援センターと連携を取り、特定事業所加算Ⅲ算定による逡減制適用運営基準減算にならない為に、令和3年度も地域包括支援センターからの急な依頼やターミナル期の利用者、中重度の利用者、困難事例へ対応するため、事業所内で担当調整を行い迅速に対応してきた。数件相談が重なり対応が出来ないこともあったが、新規相談は継続しており、ケアマネジャー指名での相談件数も多くなっている。

令和3年1月の緊急事態宣言発令後より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、居宅介護支援事業所職員の交代勤務を実施し、出勤人数の調整を行い在宅ワークの導入を実施した。電話連絡やzoom会議での情報交換を行うことで在宅ワーク導入後も変わらず新規相談にも可能な限り調整を行い迅速な対応を実施した。

令和2年度 月別担当件数

年 月	件数			請求額
	男	女	計	
R2/4	39	89	125	1,992,573
R2/5	33	95	128	2,019,736
R2/6	30	95	125	1,982,943
R2/7	31	96	127	2,008,599
R2/8	34	95	129	2,038,707
R2/9	35	94	129	2,037,981
R2/10	36	94	130	2,058,920
R2/11	35	90	125	1,970,103
R2/12	39	93	132	2,088,646
R3/1	36	88	124	1,958,450
R3/2	29	95	124	1,964,698
R3/3	33	91	124	1,958,450

計 1522 件 計画費請求金額 24,079,806 円

令和3年度月 別担当件数

年 月	件数			請求額
	男	女	計	
R3/4	33	93	126	2,048,117
R3/5	33	93	126	2,039,420
R3/6	33	97	130	2,102,185
R3/7	35	98	133	2,150,120
R3/8	34	93	127	2,051,510
R3/9	32	96	128	2,072,995
R3/10	34	91	125	2,028,601
R3/11	28	87	115	1,876,978
R3/12	29	79	108	1,754,078
R4/1	29	75	104	1,681,716
R4/2	33	77	110	1,802,600
R4/3	36	75	111	1,827,754

計 1443 件 計画費請求金額 23,587,697 円

令和2年度 要介護度別件数

要介護度	件数		
	男	女	計
要介護1	178	431	609
要介護2	117	272	39
要介護3	33	217	250
要介護4	61	159	220
要介護5	18	36	54
合計	407	1115	1522

令和3年度 要介護度別件数

要介護度	件数		
	男	女	計
要介護1	167	401	568
要介護2	98	247	345
要介護3	55	204	259
要介護4	43	169	212
要介護5	26	33	59
合計	389	1054	1443

原案作成委託料内訳

	R3.4月	R3.5月	R3.6月	R3.7月	R3.8月	R3.9月	R3.10月	R3.11月	R3.12月	R4.1月	R4.2月	R4.3月	年度合計
件数	27	25	25	26	25	25	25	25	25	25	24	24	301
市内	27	25	24	26	25	25	25	25	25	25	23	24	289
R4.017×件数	¥108,999	¥100,925	¥96,888	¥104,962	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥92,851	¥94,464	¥1,204,639
経費R5722			1								1		2
	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥13,428
市外(県外市)													0
	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
(県外市以外)													0
	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	0
合計	¥108,999	¥100,925	¥103,610	¥104,962	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥99,573	¥94,464	¥1,218,083

	R2.4月	R2.5月	R2.6月	R2.7月	R2.8月	R2.9月	R2.10月	R2.11月	R2.12月	R3.1月	R3.2月	R3.3月	年度合計
件数	28	29	29	28	28	28	30	29	29	29	27	27	342
市内	27	29	28	28	28	28	29	29	29	29	27	27	338
R4.017×件数	¥108,999	¥117,073	¥113,036	¥113,036	¥113,036	¥113,036	¥117,073	¥117,073	¥117,073	¥117,073	¥108,999	¥108,999	¥1,364,606
経費R5722	1		1			1	1			1			5
	¥6,722	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥6,722	¥6,722	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥33,620
市外(県外市)													0
	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
(県外市以外)													0
	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	0
合計	¥115,721	¥117,073	¥119,758	¥113,036	¥113,036	¥119,758	¥123,795	¥117,073	¥117,073	¥123,795	¥108,999	¥108,999	¥1,398,116

令和3年度は、年間を通して新規相談件数が多くあった。看取りケースの依頼も多く、短期間で終了となるケースが多かったが、医師、看護師など多職種協働で利用者、利用者家族を支え、最期まで自宅で過ごしたいという希望を叶えることができた。近隣の地域包括支援センターから困難ケースの依頼も多く、多問題家族への支援件数も年々多くなっている。

要支援・要介護1, 2程度の軽度認定ながら認知症周辺症状が悪化されている方が区分変更申請後、要介護と認定された後に自宅以外での生活を選択される方も多くいた。

主な活動地域内に地域包括支援センターが3か所設置されており、近隣センターからの相談件数も年々増加する中、多問題家族のケースや困難ケースの相談も多くなっている。他事業所で対応困難と断られたケースの相談にも可能な限り対応し、地域包括支援センターと日々の協力体制や連携により、迅速に対応している。今後も様々な内容の相談が増えることが予想される点などから、引き続き活動地域内地域包括支援センターとの密な協力、連携が必須であるとともに、利用者・家族への誠実な対応を心がけて行く必要がある。

### 介護保険認定調査

茅ヶ崎市より委託を受け、月平均6件さらに他市区町村からの認定調査依頼も積極的に受け、調査を行った。

### 紹介数

令和3年度各ケアプラン立案におけるサービス利用の際の紹介数

・訪問介護

法人名	利用者数		
	人数	% (延)	% (実)
社会福祉法人 慶寿会	248	39	46
茅ヶ崎ケアサービス	61	10	12
ニチイ学館	47	8	9
徳洲会	33	5	7
翔の会	30	5	6

看取り・困難ケースの相談も多くなる中、自事業所の訪問介護だけでは対応しきれず、近隣の訪問介護事業所との連携が多くなった。より綿密な連絡を取り合うことで、状態変化の大きい看取りケースにも素早く適切な手厚い支援を行えた。事業所内の情報交換も十分に行うことで、担当者不在中でも支援が滞りなく行える、迅速かつ誠実な対応ができる事業所として近隣包括や関係サービス事業所と関係づくりが行え、地域の中核的存在事業所として頼られる立ち位置となっている。

・通所介護

法人名	利用者数		
	人数	% (延)	% (実)
株式会社リフシア	162	17	19
湘南望青会	116	12	13
レッツ倶楽部	108	11	13
まつなみ	94	10	11
ぶらっと東海岸	61	7	7

事業所近隣の事業所への紹介が多くなっており、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定期的に足を運び利用者の利用中の様子を確認することが難しくなっているが、各事業所と情報交換を密に行うことで認知症や寝たきりの高齢者の急変時にも迅速な対応が出来るよう連携の構築が出来た。

(2) 【訪問介護・訪問型サービス（ホームヘルプサービス）】

平成 29 年 4 月より茅ヶ崎市日常生活支援総合事業が開始となり、事業経営に大きく影響が出ないよう、サービス提供時間を利用者ごとに適切に見直しを行い、特に認知症ケア・緩和ケア・看取りケアに注力し、中重度の要介護状態ではあっても、利用者が安心して快適な生活を送ることができるよう、ヘルパーの育成、介護技術向上、法令の理解と業務内容の確認等の徹底を行った。令和 3 年 3 月 31 日現在、常勤 1 名、パート 1 名、登録ヘルパー 21 名 合計 23 名で活動し、利用者の自立支援につながるサービスを行った。昨年度に引き続き、利用者・家族のニーズにこたえられるよう、日曜日の支援、早朝や夕方の支援も併せて行い、保険外サービスで対応など相談件数は増えているが、一方でヘルパーの調整が難しく対応できないケースも多くなってしまった。近隣の訪問介護事業所が閉鎖する等、他事業所同様に当事業所も人材確保が難しい状況が続き本年度の入職は 1 名となった。今後高齢者の増加が予想されるなか、介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るようにするため人材確保が最重要課題であるとともに、入職当初から、法人の理念や方針、事業所の方針などを周知することで、離職率が低く、介護福祉士の増員なども図ることができるような取り組みが必要となっている。

R 3 年度介護度別国保請求金額内訳

	R 3/ 4	R 3/ 5	R 3/ 6	R 3/ 7	R 3/ 8	R 3/ 9	R 3/10	R 3/11	R 3/12	R 4/ 1	R 4/ 2	R 4/ 3
要支援 1	377,745	385,287	380,037	359,275	385,621	393,818	357,055	296,840	311,053	295,492	295,492	320,995
要支援 2	422,008	569,246	493,275	437,066	443,139	423,006	427,420	420,410	409,107	369,462	364,803	319,993
要介護 1	581,297	558,006	528,662	505,104	423,634	614,108	508,192	461,953	311,676	284,230	343,358	374,540
要介護 2	553,412	630,697	532,716	487,879	401,466	359,592	272,948	316,521	360,943	305,547	495,683	551,895
要介護 3	218,538	287,343	232,407	255,538	230,383	234,900	326,555	414,072	261,410	194,743	321,617	270,415
要介護 4	227,889	165,853	168,674	378,653	271,636	364,012	361,678	377,093	532,532	718,551	515,918	437,039
要介護 5	107,368	107,684	110,841	112,681	107,684	132,159	167,519	165,208	173,511	198,153	199,174	278,841
その他												
合計	2,488,267	2,704,116	2,446,612	2,536,196	2,263,683	2,521,636	2,421,367	2,452,097	2,360,232	2,368,178	2,636,046	2,663,718

月別ヘルパー稼働時間

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
3 年度	679	649	664	659	640	608	638	677	595	552	582	668	7611
2 年度	676	683	699	719	674	701	672	625	583	562	574	631	7799

サービス提供時間として 2 年度のサービス時間数 7799 時間から

3 年度 7611 時間 と 188 時間減と稼働時間減少となった。

R3 度【要介護度別述べ利用者数】

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	男	3	4	3	3	3	3	1	1	2	2	2	1	28
	女	18	18	18	18	16	16	15	16	16	16	16	16	199
	合計	21	22	21	21	19	19	16	17	18	18	18	17	227
要支援 2	男	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	44
	女	13	13	15	14	13	12	12	13	13	12	11	11	152
	合計	17	17	19	18	17	16	16	17	16	15	14	14	196
要介護 1	男	3	3	3	3	3	3	3	3	1	2	2	2	31
	女	13	12	12	12	10	10	9	9	10	10	10	9	126
	合計	16	15	15	15	13	13	12	12	11	12	12	11	157
要介護 2	男	2	2	2	4	3	2	2	2	4	4	4	4	35
	女	6	6	4	5	5	4	4	5	4	4	6	7	60
	合計	8	8	6	9	8	6	6	7	8	8	10	11	95
要介護 3	男	1	1	1	1	1		9	8	7	6	5	5	5
	女	4	4	4	5	5	7	9	8	7	6	5	5	69
	合計	5	5	5	6	6	7	9	8	7	6	5	5	74
要介護 4	男	1	1	2	2	2	3	2	2	2	2	1	2	22
	女	5	5	5	5	6	7	7	8	8	8	8	7	79
	合計	6	6	7	7	8	10	9	10	10	10	9	9	101
要介護 5	男	1												1
	女	1	1	1	1	2	1	1	2	2	2	2	2	18
	合計	2	1	1	1	2	1	1	2	2	2	2	2	19
総合計(人)	男	15	15	15	17	16	15	12	12	12	13	12	12	166
	女	60	59	59	60	57	57	57	61	60	58	58	57	703
	合計	75	74	74	77	73	72	69	73	72	71	70	69	869

年間要介護者利用者数を要介護度別に見てみると、要支援 1・2、が半数を占めている。一方で要介護 4・5 認定利用者は数は年々減少をしている。要支援利用者数が年間を通して相談が多い。これは事業実施地域内に多くの独居、高齢世帯の軽度認定者が過ごされ、生活支援を必要とされている方が多い実情もある。その方々への支援を行い、日々の生活を支えている現れである。ヘルパーの支援により住み慣れた我が家での生活が続けられるなど、長い期間当事業所で全面的にご支援させていただいているケースも少なくはないが、比較的早い段階で施設入所をされる方も年々増加している実情もある。

重介護の状況においても在宅介護を選択（希望）される利用者からの相談も複数あったが、ヘルパーの調整が難航し、迅速に支援できないことがあり、課題が残る形となった。

同様なケースが、地域包括支援センターを含む他居宅介護支援事業所からの新規相談においてもあり、支援の機会ロスに繋がった。地域から期待される支援の実現のために、自事業所、他居宅介護支援事業所からの受託件数増、それに伴う安定したサービス量を確保し、迅速な対応が出来るような対策が不可欠である。具体的には、ヘルパーの確保（量）、サービスの質（技術向上）が挙げられる。

既に長年活躍しているヘルパーの年齢も高くなっており、身体介護を担えるヘルパーも不足する一方で、身体介護・困難ケース・多問題家族支援ケースの相談も増えているという“ミスマッチ”が生じている。在籍にヘルパーへの教育、指導と共に、若いヘルパーに魅力ある職場（仕事）であることをアピールし、戦力になっていただけるよう、法人本部と一体となって取り組んでいく。

\*営業日

基本的に月曜日から土曜日までとしているが、必要性や利用者希望に応じ日曜日、大型連休、年末年始にも積極的に対応をした。

\*営業時間 基本的に 8:30~17:30 に対応。必要性や利用者希望に応じ、日曜日や早朝 7:15~ や、緊急な依頼等のサービスも対応した。

### (3) 【組織運営】

1

#### 1) ホームページ

令和3年度1年間で閲覧者にとって目を引くコンテンツや、記事の更新に苦勞した点が反省材料。事業所の日常の様子を記事として掲示するなどこまめに更新をすることで自事業所のアピールのみならず、「ここで働きたい」と人員確保に繋がるような記事や、閲覧者が今求めている内容や今後の国の動向や、新たな情報なども随時更新し掲載していくことで、有用なホームページとしての認知度向上を目指していく。今年度からは自主的運営になっているので、本部と連携し、内容の充実を図っていく。

#### 2) 会議

##### ・職員会議

職員会議で扱う議題・内容を職員皆で話し合った結果、個々の事業別の稼働率や課題、経営状況、法人内他事業所の動静などを話し合い、職員一人一人が、経営意識と、法人内職員であるとの帰属意識の向上を図った。毎月第3金曜日 17時30分～18時30分に職員会議を行い、日々の業務見直しなどを行えている。

##### ・居宅介護支援

毎朝8時30分から9時まで、事業所内情報交換、ケース特記事項などについて会議を行った。また、特定事業所として、利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関わる伝達等を目的とした会議を毎週金曜日、朝8時30分～9時まで開催し、テレワーク導入後からはWEBミーティングで開催をすることで情報・意見交換を行ってきた。

- a 現に抱える処遇困難ケースについての具体的な処遇方針
- b 過去に取り扱ったケースについての問題点及び改善方策
- c 地域における事業者や活用できる社会資源の状況
- d 保健医療及び福祉に関する諸制度
- e ケアマネジメントに関する技術
- f 利用者から苦情があった場合は、その内容及び改善方針
- g その他必要な事項について検討した。

各担当者の抱える問題に対し、事業所全体の問題としてとらえ情報を共有し、主任介護支援専門員により、ケアマネジャーへのスーパーバイズや、管理者による情報提供や個々に得た知識や参加した研修報告、各職種の専門性をより高められるような会議を年度通じ日々行った。(これは1, 2名程度の他居宅介護支援事業所ではできない平和町居宅の“強み”である) コロナ禍で研修機会が限られているが、可能な限り zoom で参加できる研修や事務所内での情報共有により、コロナ前と変わらぬ知識の習得につとめた。

##### ・訪問介護

2人のサービス提供責任者と管理者を合わせたミーティングを開催し、利用者の支援に関する事項、新たなサービスとケアプランについて、また事故を未然に防ぐ点などを検討した。

さらに、毎月第3土曜日10時から11時30分各利用者への対応等を目的としたヘルパー全員参加型の検討会議を地区コミュニティセンターなどで行ってきたが、コロナ禍で参集が難しく個人ワークを導入し、個別課題解決とヘルパーのスキルアップを行った。

### 3) 研修

・居宅介護支援、訪問介護とも定期的に内部、外部研修へ参加し研鑽した。  
・居宅介護支援は、ケアマネジャー勉強会を松林ケアセンターにて毎月第2土曜日開催、参加し、法人内でテーマに沿った内容で専門的な医学知識等を学ぶ事が出来たと同時にプレゼンターを務めることで「対外発信力」を身に付けることが出来た

特定事業所として、各ケアマネジャーの実践力向上のための研修計画に基づき、「地域医療連携の推進」「地域包括ケアの取り組み」「認知症高齢者・精神疾患についての理解」「権利擁護成年後見制度についての知識を深める」という点を目標に、ケアプラン勉強会、地域医療福祉連携懇談会、虐待対応勉強会等へ参加した。知識や技術のみならず、他事業種、他事業所とのつながりなどケアマネジメントにとって最も大切なネットワークづくりの一端を担い、介護支援専門員部会・主任介護支援専門員の集まり「ミーナの会」に参加することで、平和町介護サービスセンターの認知度向上に寄与したとともに、職員の士気とケアマネジメント力の向上を図ることが出来たことは大変大きな成果であった。また、週1回ケアマネジャーミーティングをzoom会議では行うことで、オンライン研修への参加できる操作知識の習得につとめた。

・訪問介護は、制度に合わせた適切な対応への研修や今後の地域医療・福祉情勢を見据えた研修、法令順守、新たな社会資源、サービス等の理解ができるよう法人内外の専門職を講師に招き、毎月適切なテーマを考え研鑽し、事業所全体として、また個々のヘルパーの質の向上を図ってきた。コロナウィルス流行の状況に応じ各自で動画や書面での自己学習を実施し知識向上と感染拡大防止に努めた。

#### ヘルパー現任研修

4月	自己学習（介護福祉士試験問題抜粋）、自己評価
5月	「訪問介護、感染対策」動画視聴
6月	ヘルパーのための生活支援の基礎知識（資料配布）
7月	介護保険申請から利用までの流れ
8月	接遇の心得
9月	利用者様の安全のためにすべきこと
10月	ヒヤリハットとは。ハインリッヒの法則
11月	感染症予防、発生事例について
12月	高齢者と薬について（資料配布）
1月	食べやすくする工夫（資料配布）
2月	介護と保険のガイドブックを読んで（資料配布）
3月	記録の書き方・報告について（資料配布）

#### (4) 【 その他】

##### 1) 災害対策

地域の社会資源や防災ハザードマップ、一時避難場所再確認としてのマンションの確認（茅ヶ崎市ホームページ まっぷ de ちがさき等）、茅ヶ崎メール配信サービスを各職員貸与の携帯電話へ登録など行い、いち早く情報を得られるようにした。また長期保存水、長期保存食品などを少しずつだが、備蓄と使用期限再確認、また事務所の大型ガラスウィンドーにガラス飛散防止フィルムの施工と書庫の転倒防止対策を継続して実施。利用者へは特に独居高齢者宅へ、ちがさき安心カプセルの配布や利用者基本情報（フェイスシート）を最新の状態にし続けることなど継続して行った。また、記録ソフト「ほのぼの」の利用者基本情報の登録時に「独居」「歩行困難」など緊急度を記載することで災害時、事務所全体で利用者対応ができるよう情報の整備を行なった。

## 2) 労基対策

去る平成 25 年 8 月に藤沢労働基準監督署の監督官が来所にて実地調査があった。その中で、指摘のあった 3 点の是正事項について以下のように継続実施。

- ① 労基法第 15 条第 1 項 労働契約の締結に際し、労働者に対し、賃金、労働時間等の法定事項について登録ヘルパーも含む全職員に周知できるよう事務所内掲示板に掲示。
- ② 労基法第 106 条第 1 項 時間外労働に関する協定書を常時各作業場の見やすい場所に掲示し、または備え付けるなどの方法により労働者に周知していないこと。→36 協定書面の写しを事務所内に掲示して対応。
- ③ 安衛法第 12 条の 2 常時 10 人以上の労働者を使用しているため衛生推進者を選任が必要。  
→登録ヘルパーも含み、10 人以上 50 人未満の事業所のため、  
管理者が安全衛生推進者を兼任することで対応した。

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
デイサービスふる里

## 目 次

### 1. 指定第1号通所事業及び地域密着型通所介護事業

- (1) 要介護度別年間請求分析
- (2) 月別ご利用人数および稼働率
- (3) 令和3年度の総括

### 2. 組織運営

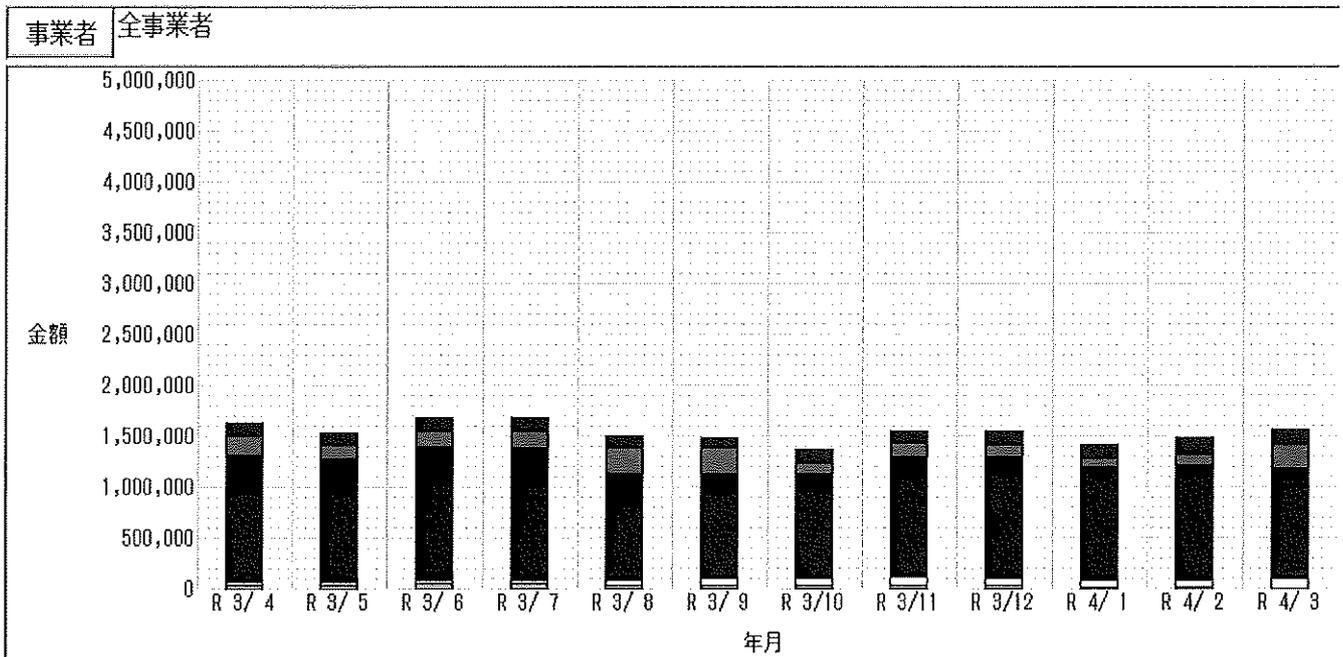
- (1) 会議・定例会
- (2) 職員研修

### 3. その他

- (1) 運営推進会議の開催
- (2) ボランティアの受け入れ状況

1. 指定第1号通所事業及び地域密着型通所事業

(1) 令和3年度 要介護度別年間請求分析



	R 3/ 4	R 3/ 5	R 3/ 6	R 3/ 7	R 3/ 8	R 3/ 9	R 3/10	R 3/11	R 3/12	R 4/ 1	R 4/ 2	R 4/ 3
非該当												
事業対象者												
要支援1	33,868	33,868	50,502	50,502	33,668	33,668	33,630	33,630	33,630	16,815	16,815	
要支援2	34,488	34,488	34,488	34,488	50,391	68,976	68,918	68,918	68,918	68,918	68,918	103,377

	R 3/ 4	R 3/ 5	R 3/ 6	R 3/ 7	R 3/ 8	R 3/ 9	R 3/10	R 3/11	R 3/12	R 4/ 1	R 4/ 2	R 4/ 3
要介護1	877,553	865,425	930,367	920,250	729,976	842,395	845,487	989,850	1,015,570	1,047,661	1,021,076	962,526
要介護2	378,548	333,507	387,473	378,548	324,976	193,487	184,797	212,345	176,117	55,111	109,831	128,866
要介護3	179,088	157,994	147,244	167,539	250,708	250,303	103,360	134,359	124,023	103,360	113,687	226,828
要介護4	109,417	97,256	109,012	109,417	97,256	85,095	109,304	97,162	109,304	109,304	143,595	130,428
要介護5												

令和2年度 要介護度別年間請求分析

	R 2/ 4	R 2/ 5	R 2/ 6	R 2/ 7	R 2/ 8	R 2/ 9	R 2/10	R 2/11	R 2/12	R 3/ 1	R 3/ 2	R 3/ 3
非該当												
事業対象者												
要支援1	16,646		16,646	16,646	16,646	16,646	16,646	16,646	16,646	16,646	26,962	33,292
要支援2							34,111	34,111	34,111	34,111	34,111	38,042

	R 2/ 4	R 2/ 5	R 2/ 6	R 2/ 7	R 2/ 8	R 2/ 9	R 2/10	R 2/11	R 2/12	R 3/ 1	R 3/ 2	R 3/ 3
要介護1	688,254	688,803	806,220	796,506	677,971	719,407	617,672	716,855	653,271	619,175	541,199	847,311
要介護2	265,821	274,107	368,354	388,150	409,517	427,595	278,066	335,465	328,193	274,172	291,722	328,939
要介護3	155,771	230,510	233,720	126,619	84,907	115,935	142,372	160,466	84,907	126,111	126,111	199,657
要介護4	108,580	108,580	124,549	149,651	99,448	111,505	241,707	146,698	99,448	99,448	99,448	111,505

## (2) 月別ご利用人数および稼働率

令和 2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延人数 (人)	145	153	180	173	151	163	157	168	149	142	135	194	159
稼働率 (%)	66	73	82	75	72	74	71	80	71	71	68	84	74

令和 3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延人数 (人)	200	190	212	209	194	200	183	210	210	190	195	230	202
稼働率 (%)	91	90	96	95	88	91	87	95	100	95	98	100	94

## (3) 令和3年度の総括

ふる里では長引くコロナ禍の中、感染対策の消毒やアクリル板の設置、不織布マスクの使用、換気等の徹底は勿論のこと、下記について皆様にご協力いただくことで感染を防ぎ、稼働率上昇に繋がる。

ご利用者様に対し、コロナ及びインフルエンザワクチン接種のお願いを周知し、その後接種確認を行うと共に、ご利用日には必ず自宅で検温の上、不調がないことを確認の上ご利用いただく。

職員に対し、コロナワクチン接種を管理者が一括し早期予約することで、速やかに3回の接種を終え、その上で日本財団の協力により毎週月曜PCR検査を実施し、安心して仕事に取り組むことができた。

ラインワークスの導入により、職員の非常災害時の安否確認だけでなく、急な体調不良やシフト変更、業務連絡の周知がスムーズとなり、またワンドライブ導入により、本部や他部署との情報共有や遠隔操作等で事務の効率化に役立っている。

ボランティアの受け入れは残念ながら中止し、地域との関わりや運営推進会議の開催もできない状況であったが、職員が力を合わせ特技であるフラメンコや太極拳、お点前、楽器演奏、写真撮影、お菓子作り等ご利用者様に楽しんでいただいた結果、お休みされる方も少なく、増回希望や新規お申し込みも増えた。

今年度のご利用アンケート調査の結果、「楽しみにしている行事や活動はありますか？」の問いに対し1割の方より「いいえ」の回答あり。

この回答結果を元に職員間で検討したところ、ふる里で行われているレクリエーション内容をご家族宛に今後発信していく予定。

職員の定着化も進み、長年慶寿会で勤務されている山本圭子職員が今年度「認知症介護実践者研修」に参加。三年前介護福祉士取得され、その影響から昨年は関口徹也職員、今年は沖永美由紀職員が相次ぎ取得。来年は五十嵐珠美職員が受験予定。

現在半数以上の職員が介護福祉士資格保持者となる為、2022年度よりサービス提供体制加算Ⅱを申請。

ご利用者様に選ばれ職員が自信を持って働ける事業所となる為に、「かながわ認証」を今年度も申請し3回目の挑戦にて受賞。

サービスの更なる質の向上について、これからも日々皆で学び合い、意見を出し合い、協力し合うことで、3年後の「かながわ認証」の継続受賞（更新）を目指す。

## 2. 組織運営

### (1) 会議・定例会

1. 法人業務改善会議	月1回 最終月曜日 16:00～
2. ふる里デイ会議	月1回 第1金曜日 17:30～
3. 朝・夕のミーティング	毎朝 8:30～/毎夕17:10～

### (2) 職員研修

#### 現任研修（職員による勉強会）

職員が講師を務め、出席者は報告書を提出する事で振り返り更に知識を深める

#### 令和3年度の現任研修内容

3年 4月	身体拘束排除の取り組みについて
6月	倫理及び法令順守について
7月	緊急時の対応について
8月	介護予防及び要介護度の進行予防について
9月	事故発生とその再発防止について
10月	接遇について

11月	プライバシー保護の取り組みについて
12月	感染症・食中毒の予防と蔓延防止について
4年 1月	認知症及び認知症のケアについて
2月	非常災害時の対応について (「まん延防止等重点措置」発令により延期)
3月	来期の研修計画について

### 3. その他

#### (1) 運営推進会議の開催

年2回行事と共に行っていた運営推進会議だが、コロナ感染拡大防止の為書面会議とする。

自治会長、民生委員、高齢介護福祉課、地域包括支援センター、近隣代表、ボランティア代表、ご家族様等、皆様よりご意見やご様子を賜り書面にて実施。

#### (2) ボランティアの受け入れ状況

現在50名の方のご登録あり。

コロナウイルス感染拡大により現在もボランティアの受け入れを中止しているが、包括さざなみ平國ケアマネより、歌集作りのボランティアをご紹介いただく。

松浪にお住まいのご夫妻で、ふる里の為に奥様が筆ペンで丁寧に1枚1枚心を込め歌詞を書いて下さり、そこにご主人様が歌詞に合った挿絵を描かれ、1冊の童謡の歌集として寄付して下さる。

コロナウイルス感染拡大が収束した際には、音楽ボランティアとして来所希望。

以上

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
浜須賀地区地域包括支援センター  
あさひ

## 目 次

1. 運営事業実施状況報告
2. 指定介護予防支援事業報告
3. 居宅介護支援事業所紹介（令和3年4月～令和4年3月）
4. 初期相談報告
  - （1）受付形態、相談者、対象者町名別
  - （2）受付分類、対応方法
5. 看護師業務報告
  - （1）介護予防に関する事業
  - （2）地域団体（サロン等自主グループ）活動支援（あさひ独自事業）
  - （3）保健師部会
6. 社会福祉士業務報告
  - （1）権利擁護業務
  - （2）社会福祉士部会
7. 主任介護支援専門員業務報告
  - （1）包括的・継続的ケアマネジメント
  - （2）主任介護支援専門員部会
8. 地域行事参加報告
9. 会議報告
10. 研修報告
11. 福祉相談室事業報告

## 1. 運営事業実施状況報告

令和3年度における相談者人数は昨年度に比べ1割ほど増加した。医療機関や行政からの相談が増加した（昨年度は減少した）。令和4年度より市役所に総合相談窓口が設置されることに伴う、事前の情報共有やケース対応など連携の現れが推察される。

令和3年度は直営ケアプラン数が増加した。特に指定介護予防支援の件数増加が顕著となっている。

### 1 相談者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
本人	20	12	3	4	4	7	6	54	11	11	5	17	154
家族	21	24	25	18	30	29	29	21	26	17	18	22	280
民生委員	1	1	1	3	1	1	4	1	3	4	0	0	20
介護支援専門員	5	1	4	3	1	2	4	1	1	3	2	8	35
介護事業所	1	0	1	1	1	0	1	0	1	2	2	2	12
医療機関	4	3	5	5	1	6	4	3	2	7	2	8	50
行政機関	0	4	0	3	2	0	3	2	2	2	1	5	24
友人	0	0	0	0	0	1	2	0	0	2	0	1	6
近隣住民	0	2	4	6	1	1	0	3	3	1	1	1	23
その他	1	1	2	0	0	1	1	8	0	2	0	3	19
計	53	48	45	43	41	48	54	93	49	51	31	67	623

### 2 相談内容

#### ①総合相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
介護保険関係	27	28	24	23	30	41	44	36	31	25	18	38	365
認定申請代行	10	5	6	6	12	13	9	15	14	8	11	18	127
保健・医療	0	7	1	0	3	5	3	3	9	10	2	2	45
認知症関係	0	4	0	0	1	1	2	3	5	7	2	2	27
介護予防事業	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0	1	0	6
地域の社会資源	3	2	0	0	1	0	3	2	2	5	2	2	22
生活支援・家族介護支援サービス	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	6
その他	23	19	12	17	6	8	15	61	13	16	9	15	214
計	53	58	37	42	40	56	65	103	56	57	32	59	812

#### ②権利擁護業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
高齢者虐待	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	9
成年後見制度	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	1	7
消費生活相談	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	2	0	4	3	0	0	0	0	0	0	8	17
高齢者虐待実件数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	9
成年後見制度実件数	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	1	7
消費生活相談実件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

#### ③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	5	0	3	2	5	0	2	0	0	5	4	7	33
計	5	0	3	2	5	0	2	0	0	5	4	7	33

### 3 当該月の連携有無

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護支援専門員と連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
介護保険事業所と連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医療機関と連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自治会と連携	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×

民生委員と連携	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
市社協と連携	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×
地区社協と連携	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×
地区ボランティアセンターと連携	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○
成年後見支援センターと連携	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○
市担当課と連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
保健福祉事務所と連携	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×
他包括との連携	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
その他	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○

#### 4 担当者会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
あさひ	10	16	9	11	15	8	10	18	19	10	15	13	154
委託	1	4	1	1	2	2	1	1	3	3	1	12	32
困難事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	11	20	10	12	17	10	11	19	22	13	16	26	187

#### 5 新予防給付

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
予防マネジメント(来所)	0	3	3	5	2	1	0	4	0	0	4	0	22
予防マネジメント(訪問)	59	44	58	36	29	49	45	37	57	50	39	50	553
予防マネジメント(電話)	67	81	79	80	57	66	64	65	64	63	51	56	793

#### 6 国保連請求数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
国保請求数	134	134	132	128	131	131	134	130	135	136	132	131	1588

#### 7 直営ケアプラン数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
指定介護予防支援業務	87	87	86	83	85	84	87	84	86	90	89	88	1036
第1号介護予防支援事業	47	47	46	45	46	47	47	46	49	46	43	43	552

## 2. 指定介護予防支援事業報告

令和元年度以降、委託件数が減少の一途を辿っている。原因として、居宅介護支援事業所から要支援者の受託を拒まれることが挙げられる。このことが直営件数増加の一因となっている。令和3年度の直営実績は、昨年増加した件数（130件）のまま推移した。

令和3年度浜須賀地区地域包括支援センターあさひ 指定介護予防支援実績件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
あさひ（直営）合計	134	134	132	128	131	131	134	130	135	136	132	131	1588	132
委託合計	48	47	45	43	43	45	47	44	44	44	43	45	538	45
総合計	182	181	177	171	174	176	181	174	179	180	175	176	2126	177

指定介護予防支援件数推移

	H 2 6		H 2 7		H 2 8		H 2 9		H 3 0		H 3 1 (R1)		R 2	
	合計	平均	合計	平均	合計	平均								
あさひ合計	1342	112	1333	111	1177	98	1229	102	1325	110	1306	109	1325	110
委託合計	632	53	789	66	946	79	862	72	739	62	672	56	620	52
総合計	1974	165	2122	177	2123	177	2091	174	2064	172	1978	165	1945	162

## 3. 居宅介護支援事業所紹介

居宅介護支援事業所に紹介するケースは以下を参照

- ・要介護認定を受けている方からの相談（紹介）
- ・介護保険の代行申請をして要介護の認定を受けた際（紹介）
- ・要介護の認定が予想される際（紹介）

令和3年度居宅介護支援事業所紹介一覧表

居宅介護支援センター 松林	3
翔の会小和田ケアセンター居宅介護支援	1
特別養護老人ホーム湘南ベルサイド	5
社会福祉法人 麗寿会 ケアセンター茅ヶ崎元町	5
居宅介護支援事業所 友	1
生活リハビリクラブ茅ヶ崎	2
ニッショウケアサービス	7
社会福祉法人 麗寿会 平和町介護サービスセンター	7
セントケア茅ヶ崎	3
湘南シニアサービス	1
合同会社 在宅介護 りぼん	1
居宅介護支援センター 富士見	5
居宅介護支援事業所ハピネス茅ヶ崎	1
本町ケアセンター	3
ケアプランリフシア浜之郷	1
居宅介護支援センター 湘南茅ヶ崎	7
MIKOMA湘南	1
相談センターまつなみ	1
介護相談室 一歩	1
訪問介護かえで 茅ヶ崎サービスセンター	3
まつぼっくり	1
医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会介護センター	11
株式会社 やさしい手らいと	10
平塚栗原ホーム	1
ケアサポート湘南	1
湘南ホームフレンド居宅介護支援事業所	2
合 計	85

#### 4. 初期相談報告

地域包括支援センターが初期相談として受けた合計件数。

受付形態は電話が7割5分と昨年度より増えている。相談者は本人・家族が全体の6割弱と昨年度と大きな変わりはない。町名別では人口の多い松が丘が相対的に最も多い。昨年度と比較して、市役所や地域住民からの相談が増え、全体的には6パーセント増加した。

医療機関の問い合わせは、平成30年度に急増し、令和3年度も増えたままとなっている。

##### (1) 受付形態、相談者、対象者町名別

受付形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件数
メール													0
外出先				1									1
電話	14	6	16	11	11	17	16	15	15	16	8	18	163
訪問							1	1					2
来所	8	3	3		2	1	5	8	5	5	7	3	50
合計	22	9	19	12	13	18	22	24	20	21	15	21	216

相談者の区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件数
民生委員			1				1	1		2			5
医療機関	1	1	4	2		6	1	3	2			4	24
市役所	2	1	1	2	1	3	3	1	1	1	1	1	18
地域住民	1		2			2	1	3	1	1	1	1	13
CM		1	2		1					2	1	1	8
ボラセン									1			1	2
知人						1	2	1	1	1		1	7
包括	1	1					1			1		1	5
専門機関			1	1		1	1	1			1		6
本人	7	2	1		1	1	2	2	5	5	5	4	35
家族・親族	10	3	7	7	10	4	10	10	9	8	6	7	91
関係委員								2					2
合計	22	9	19	12	13	18	22	24	20	21	15	21	216

##### 対象者町名別

平和町	21
松が丘	66
旭が丘	29
ひばりが丘	8
浜須賀	33
白浜町	7
菱沼海岸	13
市内・他地区	19
県内	4
県外	8
不明	8
合計	216

初期相談件数推移 平成25年 163件 平成26年 231件 平成27年 153件  
 平成28年 184件 平成29年 161件 平成30年 181件  
 令和元年 221件 令和2年 203件

(2) 受付分類・対応方法

受付分類（内容）としては介護保険の相談が多いが、昨年度と比べて若干増加している。相談総数はほぼ横ばいとなった。

「行政機関からの情報提供」や「センターで関わりの有無について」の問い合わせが昨年度より増加した結果となった。

受付分類（複数選択）

内容	件数
社会資源(サロン等含む)	6
介護保険外制度について(障がい等)	4
ケアマネ・他包括からの情報提供	7
入所施設の情報提供	4
介護事業所からの情報提供	3
関係機関・住民からの情報提供	20
生活上の困りごとについて	36
行政機関からの情報提供	13
財産管理・遺産・遺言など	2
精神障がい・疾患	13
介護保険関係	85
介護保険申請代行	72
ケアマネ紹介	3
介護保険外	7
成年後見制度の活用	2
センターで関わりの有無について	13
虐待	1
困難事例	1
消費者被害	1
その他	23
合計	316

対応方法については、昨年度同様介護保険関連が最も多かった。

相談総数は1割ほど増加した。

介護保険関連の申請代行が20件以上減った一方、実態把握の件数が倍増しており、訪問対応が求められることがうかがえる。

対応方法（複数選択）

内容	件数
実態把握	55
ケアマネへ連携	14
ボランティアセンターと連携	3
傾聴	34
市へ連携	19
民生委員へ連携	5
介護保険各サービス情報提供	12
他地区包括・相談室と連携	9
担当包括・相談室の紹介	11
老人福祉施設情報提供	4
サロン関係情報提供	4
成年後見制度説明	1
医療機関との連携	13
社会資源の紹介	7
福祉相談室と連携	6
障がいサービス情報提供	3
介護保険制度説明	63
介護保険申請代行	67
ケアマネ紹介	6
介護保険外(自費)サービス情報提供	7
その他	27
合計	370

## 5. 看護師業務報告

### 1) 介護予防に関する事業

#### ① 認知症総合支援事業

- ・ 認知症サポーター養成講座の啓発・開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず。

- ・ 認知症初期集中支援業務

市と連携し、認知症初期集中支援チームの一員として参加した。

また、ケースを1件提出した。

令和3年 4/15 5/27 6/24 7/29 8/26 9/30 10/28

令和4年 1/27 2/24 3/24

会議の後はセンター内で他のケースを含め共有し、対応力向上にも役立てた。

- ・ 認知症カフェ開催に向けての準備

11月4日、みやさきクリニック認知症カフェ見学。

11月22日、湘南地区地域包括支援センターすみれ主催「すみれカフェ」見学。

11月29日、社会福祉法人翔の会「ちがさきの木魂」にプレゼンテーション実施。

(令和4年3月実施で話がまとまったが、新型コロナウイルス感染症まん延のため、延期となる。)

#### ② 市委託事業の家族介護教室

実施日	令和3年7月3日
時間	14:00～16:00
会場	浜須賀会館 第1集会室・第2集会室
テーマ	おいしく熱中症予防
講師	あさひ保健師：芳賀、松林ケアセンター管理栄養士：清水氏
参加者	16名
内容	<p>保健師による座学（熱中症の病態について基本的な知識、情報提供）にて熱中症予防の知識を深めてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養士による座学（食生活・介護食）</li> <li>・ 栄養士による実習</li> <li>・ 熱中症による知識を深め、食生活を見直す事が発症予防につながる為、日常生活に活かしていくことを提案した。</li> <li>・ レシピを参考に旬の食材、栄養バランス、彩などを考え、より美しい介護食を取り入れてみる事を提案した。</li> <li>・ 質疑応答</li> </ul>

<アンケートより（抜粋）>

- ・季節を意識した介護食がとても美味しそうで、是非食べてみたいと思いました。
- ・水分の摂り方の間違いや「まだ大丈夫だろう」と過信していた事に気づけた。
- ・ちょっとした油断が熱中症になる事、夏の食事（バランス）の大切さを改めて感じた。
- ・時季にあった内容で良かった。
- ・レシピが良かった。もっと知りたい。

③ 指定介護予防支援

- ・地域の支え合いの体制づくりの推進。
- ・要支援者などに対する効率的・効果的な支援を目的とする事業の下、適切なケアマネジメント業務の実施。  
→随時ケアマネジメント業務の実施をした。

2) あさひ独自事業

① 地域団体（サロン等自主グループ）活動支援

- ・地域団体の活動に参加し、介護・医療・福祉に関する情報提供や講話を通じて支援を行う。また、継続的な活動につながるようリーダーと連携を図る  
毎月第4水曜日10時～自治会老人会「平和会」に参加し、介護予防通信などを配布し、介護予防の普及啓発を行った。  
7/4 三が丘自治会老人会「すこやか茶話会」にて熱中症予防の講話『熱中症を知って予防しよう』を実施。19名参加。  
11/7 三が丘自治会老人会「すこやか茶話会」にて軽体操の実施（講師：ニッショウスマイルステーション辻堂高橋氏）。19名参加。

3) 地域包括支援センター保健師部会の計画に沿って事業を実施

① 認知症対策活動報告

- ・DVD作成  
認知症サポーター養成講座やオレンジDayで活用するDVD作成を行った。認知症予防班のメンバーで役を演じ、認知症の方への対応方法、「良い例」「悪い例」を分かり易く構成した。
- ・茅ヶ崎オレンジDayへの協力（R3年12月25日）
- ・11月11日、民生委員児童委員協議会認知症サポーター養成講座にて地域包括支援センターの業務説明を行う。

## 6. 社会福祉士業務報告

### 1) 権利擁護業務

- ① 居宅介護支援事業所、地域住民などからの成年後見制度に関する相談、支援、関係機関との連携  
→随時、日常の相談業務として実施した。
- ② 行政、高齢者虐待対応関係機関との連携強化、高齢者虐待相談対応フローチャートの使用に即した支援  
→随時、行政などと連携を図りつつ実施した。
- ③ 地域住民へ消費者被害防止の情報提供及び啓発活動  
→サロンなどで消費生活センターからの啓発チラシなどを用いて情報提供を行った。

### 2) 令和3年度社会福祉士部会報告

- 令和3年度も「高齢者虐待担当班」に所属して部会内勉強会や居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象にした研修会を企画・実施した。
- ① 令和3年8月24日、部会内で模擬事例検討会を実施。
  - ② 令和3年11月19日、市内の居宅介護支援事業所を対象にオンラインにて研修会を実施。『高齢者虐待の相談窓口や関係機関の役割を学ぼう！』51名参加。
  - ③ 令和4年3月22日、部会内でセルフネグレクトの勉強会を実施。  
その他、令和3年度茅ヶ崎市・寒川町高齢者虐待防止ネットワーク連絡協議会の委員として、書面にて意見具申を行った。
- 他の班主催による勉強会に参加。
- ① 令和3年11月16日、令和3年度消費者被害防止勉強会に参加。
  - ② 令和3年12月21日『身元保証について』の勉強会に参加。

## 7. 主任介護支援専門員業務報告

### 1) 包括的・継続的ケアマネジメント

- ① 民生委員、地区社会福祉協議会、地区ボランティアセンター等との意見交換会、医療機関との連携。  
→コロナウィルスの影響により、活動なし。ただし、ボランティアセンター等の意見交換会は、定期的に参加した。
- ② 介護支援専門員同士のネットワーク構築支援  
→包括さざなみと合同（ケアマネ座談会）  
第1回→R3. 4. 27 「介護保険報酬改正のポイント」  
Zoom 開催  
第2回→「事例検討会」 会場：松浪コミュニティーセンター  
参加者 18名  
第3回→「最新補聴器事情」  
講師：認定補聴器技能者 補聴器専門店ミラックス店長 中野潤一郎氏  
参加者 11名 会場：松浪自治会館2階

### 2) 令和3年度主任介護支援専門員部会報告

- ① 一般社団法人茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会、介護支援専門員部会との連携（ミーナの会との連携、地区ブロック会への参加）  
→コロナウィルスの影響により、ミーナの会・地区ブロック会への参加なし。
- ② 介護支援専門員同士のネットワーク構築支援（同親睦会）  
→コロナウィルスの影響により、親睦会中止。
- ③ 主任介護支援専門員同士のネットワーク構築支援（同研修開催）  
→コロナウィルスの影響により、主マネ向け研修開催なし。
- ④ 介護支援専門員向け研修の開催、協力  
事例検討会（主任介護支援専門員・介護支援専門員向け）  
→R4. 2. 9 「ケアマネジャーに地域づくりは出来る！」  
～地域共生社会の実現に向けて～  
講師：国際医療福祉大学 大学院教授 石山麗子氏  
対象：地域包括支援センター職員・介護支援専門員・市職員

8. 地域行事参加報告

センターが企画した催しを記載。また、担当地域の老人会、サロン、自治会、地区社会福祉協議会などからの参加要請があった場合は積極的に参加し対応した。

月	日にち	行事内容	対象者
4	14	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	25	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	28	平和会	平和会自治会会員
5	6	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	12	カフェ庵	地区住民
	20	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	26	平和会	平和会自治会会員
	30	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
6	2	カフェ庵	地区住民
	10	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	24	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	27	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	30	平和会	平和会自治会会員
7	4	すこやか茶話会	地区住民
	7	カフェ庵	地区住民
	8	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	24	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー
	25	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	28	平和会	平和会自治会会員
8	7	家族介護教室	地区住民
	11	うみの会	地区住民
	12	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
9	9	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	21	お茶の間サトウ	地区住民
10	5	民生委員児童委員協議会役員会	民生委員児童委員 役員
	7	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	19	お茶の間サトウ	地区住民
	26	子ども食堂	地区住民
	27	平和会	平和会自治会会員
	31	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
11	7	すこやか茶話会	三が丘自治会会員
	10	カフェ庵	地区住民
	11	民児協認知症サポーター養成講座公演	地区住民
	12	サロン浜須賀	地区住民
	20	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー
	22	すみれカフェ (見学)	地区住民
	28	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	2.16.30	子ども食堂	地区住民
12	2	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	8	カフェ庵	地区住民
	22	平和会	平和町自治会会員
	25	オレンジデイ	地区住民
	25	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	7.14.21	子ども食堂	地区住民
	1	8	浜須賀地区社会福祉協議会役員会
8		新年のつどい	地区住民
12		カフェ庵	地区住民
2	9	カフェ庵	地区住民
	10	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	27	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	1.8.15.24	子ども食堂	地区住民
3	1	民生委員児童委員協議会役員会	民生委員児童委員 役員
	14.21	かんさんち (見学)	地区住民
	19	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー
	23	平和会	平和町自治会会員
	27	サポート定例会	サポートはますかメンバー
	1.8.15.24	子ども食堂	地区住民

## 9. 会議報告

職員会議、保健師部会、社会福祉士部会、主任介護支援専門員部会、福祉相談室連絡会、福祉相談室支援員部会、コーディネーター配置事業地区支援ネットワーク会議、事業運営業務改善会議など、担当職員が参加した。

(コロナウィルス感染症の影響により定例開催されなかった会議あり)

会議名	回数
コーディネーター配置事業ネットワーク会議	10
職員会議	12
事業運営業務改善会議	12
管理責任者会議（書面含む）	2
保健師部会	12
社会福祉士部会	11
主任介護支援専門員部会	12
包括間会議	3
相談室連絡会	7
ケアマネ座談会	3
地域ケア会議	2
居場所カフェ打ち合わせ	1
地域ケア個別会議	3
民生委員との意見交換会	1
認知症初期集中チーム員会議	11
合計	102

## 10. 研修報告

保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員・福祉相談支援員が各々関連する研修に参加した。地域包括支援センターあさひで独自に行っている勉強会はその時に話題や課題になっているものを取り上げ開催し、資質向上を目指している。

	研修名	回数
法人内	あさひ勉強会	3
	ケアマネ研修会	7
	合計	10
法人外	日本ソーシャルワーク協会研修	1
	地域診断研修	1
	ふれあい医学講座 老いへの対応	1
	苦情対応に求められる基本的視点 研修	1
	人材育成研修	6
	高次機能障害研修	1
	事例検討会	1
	さざなみ家族介護教室	1
	家族介護者の仕事と介護の両立支援	1
	介護給付適正化研修	1
	対人援助職のためのアンガーマネジメント研修	1
	みやさきCL認知症カフェ	1
	若年性認知症研修	2
	社会福祉部会研修（虐待）	1
	エアマツ勉強会	1
	地域包括支援センター現任者研修	1
	地域包括支援センター職員養成研修	2
	地域共生社会研修	1
	新型コロナウイルス感染症対策研修	1
	多職種連携研修	1
適正化研修	1	
コグニサイズ地域ミーティング	1	
対人援助技術研修	1	
合計	30	

令和3年度福祉相談室事業報告

令和3年度の相談件数は昨年度に比し半減。「対象者」の年齢は高齢者が多く、次いで60、50代と昨年度とほぼ同様の傾向になった。相談内容については、家族関係やお金、住まいの相談が高止まりしている。疾病や精神障害、介護保険等に関する相談は昨年同様、日常的に対応している。

①対応顧客数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケース件数	6	6	8	7	6	7	9	9	7	8	8	15	96
新規（ケース開始を含む）	1	2	3	2	1	2	4	4	0	1	2	4	26
再開（ケース再開と新規を含む）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(件)

②相談の対象者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
18歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19歳～29歳	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5
30代	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
40代	1	0	0	0	2	0	0	0	1	2	1	2	9
50代	2	1	2	3	1	1	2	3	2	2	1	2	22
60代	1	3	1	3	2	3	2	1	1	1	0	2	20
70代以上	2	0	3	1	1	3	5	5	3	2	4	8	37
計	6	6	8	7	6	7	9	9	7	8	7	14	*94

\*2件不明のため合計が94件となっている。

(件)

③世帯構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
独居	2	3	4	2	3	4	5	2	3	2	5	6	41
高齢世帯（独居以外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族同居	4	2	4	5	3	2	3	5	2	5	3	7	45
ひとり暮らし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	6
不明	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
計	6	6	8	7	6	7	9	9	7	8	8	15	96

(件)

④相談内容（複数計上）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
疾病	1	0	2	0	0	0	1	1	2	2	1	3	13
身体障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神障害	1	0	0	0	1	2	2	3	2	2	2	4	19
発達障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
認知症	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	5
後見関連	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4
介護保険	1	1	0	2	0	0	2	3	4	1	0	4	18
DV・虐待	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	2	7
アルコール・薬物等依存	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	2	7
家族関係	3	1	1	1	1	3	3	4	1	4	4	6	32
ひきこもり、不登校	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住まい	0	0	0	0	1	2	2	2	3	0	1	4	15
地域との関係	0	2	0	1	0	1	0	0	1	1	1	1	8
仕事（ボランティア含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	1	9
お金	1	0	1	1	2	0	1	2	2	2	1	1	14
日常生活全般	1	0	3	1	1	0	1	0	1	1	1	2	12
外国人の生活	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
消費者被害	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
わからない	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
安否確認	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	5
その他	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	2	4	11
計	12	9	10	8	8	9	16	17	22	19	19	40	189

(件)

⑤対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
情報提供・申請の支援		2	1	1	2	2	0	2	4	5	3	4	6	32
地域支援体制構築	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	0	6
畜産検問への同行支援	2	0	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	7
表態記簿	3	1	1	1	0	1	1	1	1	2	2	3	5	21
曹丹・匠への対応	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
緊急対応	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	4
寄り添い、模範	3	3	6	3	4	5	4	5	5	3	7	6	10	59
関係機関等への情報提供や連携	4	5	7	6	5	6	8	7	7	5	4	7	10	74
計	16	10	15	14	14	13	18	17	17	17	21	21	33	205

(件)

⑥生活困窮（生活保護受給者含まない）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活困窮	2	0	0	0	0	1	1	2	3	5	5	3	22

(件)

⑦相談室主体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
相談室主体のケース	4	3	4	3	3	3	3	3	1	2	2	3	4	35

(件)

⑧ケース会議開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
主催	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(件)

⑨閉止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
閉止	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3

(件)

⑩その他（会議・協議会等参加）

福祉相談室連絡会 月1回  
 福祉相談室勉強会 月2回  
 コーディネーター配置事業ネットワーク会議 月1回

令和3年度  
事業報告

社会福祉法人 慶寿会  
松林地区地域包括支援センター  
くるみ

## 目 次

1. 運営事業実施状況報告
2. 介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告
3. 初期相談報告書
  - (1) 受付分類
  - (2) 対応方法
4. 看護師業務報告
  - (1) 包括保健師部会事業計画活動報告
  - (2) 医療、介護の相談及び啓蒙活動
  - (3) 家族介護教室実施報告
  - (4) すこやか支援プログラム事業報告
  - (5) 認知症初期集中支援事業
  - (6) 認知症サポーター養成講座
5. 社会福祉士業務報告
  - (1) 高齢者虐待予防委員会
  - (2) 成年後見制度の活用促進
  - (3) 勉強会
  - (4) 消費者被害防止・地域住民・福祉関係職員に対する啓発活動及びネットワークの構築
  - (5) 権利擁護関連：相談対応状況
6. 主任介護支援専門員業務報告
  - (1) 主任介護支援専門員部会
  - (2) 介護支援専門員に対する後方支援 ネットワーク構築
  - (3) 介護予防支援及び介護予防マネジメント
7. 地域行事参加・活動報告
8. 会議報告
9. 研修報告
10. 福祉相談室事業報告

1. 運営事業実施状況報告

介護保険関係の相談内容が約半分を占めている。相談者人数は前年度と比較し111件増加。相談者は本人・家族が中心。相談者としては民生委員が増加。連携先は市担当課が大きく増加し、高齢福祉課にとどまらず、生活支援課や建築課（市営住宅等）障がい福祉課等、多課との連携があった。

令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 運営事業実施状況報告(リピーター含む)

1 基本チェックリストの現地状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
65～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75歳以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

2 相談者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
本人	71	62	59	106	105	68	53	62	46	36	38	63	769
家族	65	82	51	70	61	72	110	77	68	67	75	60	858
民生委員	4	3	5	2	4	6	9	4	5	3	5	1	51
ケアマネ	6	10	5	0	11	9	7	5	11	4	2	9	79
サービス事業所	4	2	0	0	1	2	4	0	2	1	5	1	22
医療機関	18	5	14	12	9	7	10	13	8	4	8	4	112
行政機関	5	6	10	5	11	1	1	6	2	1	2	2	52
友人	0	0	2	0	1	2	0	1	3	0	0	0	9
近隣住民	0	2	2	1	3	1	1	1	4	2	1	4	22
その他	5	11	22	2	7	2	3	0	1	3	2	1	59
計	178	183	170	198	213	170	198	169	150	121	138	145	2,033

3 相談内容

①総合相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
介護保険関係	91	95	70	84	99	98	142	100	86	71	92	100	1,128
うち認定申請代行	27	9	30	22	20	23	39	24	13	20	36	22	285
保健・医療	29	25	27	30	37	33	20	33	26	24	21	22	327
うち認知症関係	8	6	19	10	19	9	16	19	13	15	11	7	152
介護予防事業	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	13
地域の社会資源	6	7	6	10	6	7	7	1	9	2	3	6	70
生活支援・家族介護支援サービス	2	0	2	1	5	4	1	0	2	1	0	2	20
その他	43	48	54	75	77	52	28	37	20	22	17	17	490
計	177	178	160	201	224	194	198	171	143	120	135	147	2,048

②権利擁護業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
高齢者虐待	0	3	2	2	0	1	2	1	0	2	1	0	14
成年後見制度	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	5
消費者相談	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	8
計	2	4	2	3	0	1	2	1	0	4	3	5	27
高齢者虐待実件数	0	1	2	2	0	1	1	1	0	1	1	0	(実ケース数)
成年後見制度実件数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	(実ケース数)
消費者相談実件数	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	(実ケース数)

③包括的・継続的ケアマネジメント支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (計)
医療機関からの入退院時支援等連携に係る相談	0	5	3	14	19	14	11	7	3	7	5	2	90

4 連携（連絡・調整等）件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
介護支援専門員と連携	59	73	40	47	50	66	54	43	46	38	36	36	588
介護保険事業所と連携	86	101	55	35	72	78	79	68	80	98	61	107	920

医療機関と連携	56	28	32	31	32	24	25	42	22	21	11	25	349
自治会と連携	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4
民生委員と連携	10	8	6	6	4	7	12	11	15	6	8	5	98
市社協と連携	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
地区社協と連携	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
地区ボランティアセンターと連携	3	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	7
成年後見支援センターと連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市担当課と連携	36	22	35	10	39	16	24	25	25	12	22	22	288
保健福祉事務所と連携	3	3	10	0	7	2	1	5	1	0	1	0	33
他包括と連携	7	3	0	1	6	0	2	2	6	2	1	0	30
その他	2	2	5	5	8	1	2	0	1	1	4	4	35
計	264	241	184	136	221	195	200	196	197	180	144	199	2,357

#### 5 地域包括支援センターによる支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)	
事例検討会、相談会での指導・助言	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
ケアプランを通じた研修会での指導・助言	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケアマネジャーからの ケアプランに対する相談対応	0	0	0	1	1	2	4	0	0	0	0	1	9	
センター職員からの ケアプランに対する個別指導・助言	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	
ケアプランの現状把握のための ケアマネジャーとの同行訪問	3	0	0	2	4	2	4	4	2	5	4	1	31	
その他	1	2	1	2	1	2	0	0	0	1	0	0	10	
計	4	2	1	7	7	7	8	4	2	6	5	2	55	

#### 6 介護支援専門員に対する指導助言内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
ターミナルケア	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
リハビリテーション	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
認知症	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
入退院時の医療連携	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
家族支援	2	2	1	1	3	3	2	0	0	0	0	0	14
関係機関との連携	0	0	1	1	7	4	0	0	0	0	0	0	13
多様なサービスの活用	0	1	0	0	1	2	1	3	0	1	0	0	9
その他	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	5
計	7	3	2	7	15	9	3	3	1	1	0	0	51

#### 7 担当者会議

担当者会議	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
くるみ	9	8	6	9	7	7	6	16	15	17	14	7	121
委託	10	4	9	6	2	4	7	8	5	2	1	4	62
困難事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	19	12	15	15	9	11	13	24	20	19	16	11	184

#### 8 介護予防支援および介護予防マネジメント関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
来 所	4	2	3	8	0	7	1	2	1	3	2	2	35
訪 問	95	69	95	86	52	82	79	109	103	97	82	100	1,049
電 話	119	140	139	125	143	135	133	137	143	153	160	143	1,670
契約 (くるみ)	6	2	4	11	1	2	5	9	5	11	7	4	67
委託 (市内)	1	0	1	1	0	1	3	3	1	1	1	2	15
委託 (市外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

#### 9 国保連請求数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
国保連請求数	258	253	255	254	254	252	254	267	273	275	271	277	3,143

#### 10 委託依頼数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
委託依頼数	11	10	11	5	8	9	10	9	6	10	10	8	107

## 2. 介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告

居宅介護支援事業所で委託対応してもらえず、直営担当件数は増加。委託件数は減少となっている。要支援から要介護になるケースが生じる一方で、新規ケースが増加するため、月に5～10ケースの入れ替わりはある。今後も直営件数は増加していく見込み。

介護予防支援および介護予防マネジメント 件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
直営 要支援1	54	53	55	56	57	54	58	65	70	70	67	72	731	61
直営 要支援2	50	51	52	54	56	55	56	59	59	63	67	66	688	57
委託 要支援1	60	58	57	56	56	57	57	58	60	57	57	61	694	58
委託 要支援2	94	91	91	88	85	86	83	85	84	85	80	78	1,030	86
直営合計	104	104	107	110	113	109	114	124	129	133	134	138	1,419	118
委託合計	154	149	148	144	141	143	140	143	144	142	137	139	1,724	144
総合計	258	253	255	254	254	252	254	267	273	275	271	277	3,143	262

前年度からの推移

	R2		R3	
	合計	平均	合計	平均
直営 要支援1	532	44	731	61
直営 要支援2	481	40	688	57
委託 要支援1	820	68	694	58
委託 要支援2	1,172	98	1,030	86
直営合計	1,013	84	1,419	118
委託合計	1,992	166	1,724	144
総合計	3,005	250	3,143	262

### 3. 初期相談報告

初期相談合計件数（新規）になる。

対応方法は、電話、来所が多く、相談者に関しては家族・親族が多い。

次いで本人となっている。

相談件数は前年度より90件増加。市役所からの相談が微増している。

対象者町名別では、高齢者数が多い高田、赤羽根が高い数値を示す。

#### 令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 初期相談報告書 受付形態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
電話	31	20	35	34	39	38	47	36	26	37	33	31	407
訪問	1	7			2	3	3	2		3		1	22
来所	5		7	6	7	10	12	6	7	11	11	11	93
メール													0
市役所にて							1						1
合計	37	27	42	40	48	51	63	44	33	51	44	43	523

#### 相談者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
ケアマネ	4	3	5	1	2	1	5	4	2	3	3	7	40
民生委員	2		1	1	3	3	6	1	2	1	3	1	24
ボラセン													0
知人		1			2	3	1		3	2	1		13
市役所	4	6	5	3	2	1	2	7	2			2	34
医療機関	4	3	7	8	5	7	4	4	2	6	3	2	55
包括		2		2	1	3	3	2	1	5	3		22
匿名										1			1
その他	2		1		2		4	1	2	1	1	2	16
本人	3	3	4	11	7	9	7	6	6	10	4	6	76
家族・親族	17	9	18	14	23	24	30	18	11	22	24	22	232
関係委員※	1		1		1		1	1	2		2	1	10
合計	37	27	42	40	48	51	63	44	33	51	44	43	523

※サービス事業所・市社協等

#### 対象者性別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
男性	14	9	18	17	21	26	19	17	13	19	20	13	206
女性	24	18	26	24	26	26	42	29	21	29	22	31	318
不明					1		2	1		4	2	1	11
合計	38	27	44	41	48	52	63	47	34	52	44	45	535

#### 対象者町名別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
赤羽根	7	5	12	12	9	14	17	12	4	8	8	9	117
甘沼	3	1	2		2		1	3		2		3	17
小桜町												1	1
小和田				2	1	2	1	1	1	1			9
松林	6	3	5	6	10	5	8	7	3	6	2	4	65
高田	10	6	10	11	7	12	15	11	15	10	15	10	132
菱沼	2	9	7	4	9	4	5	4	2	6	9	5	66
本村	2	1			1	1					1		6
室田	4	1	4	1	5	6	4	4	6	9	5	6	55
市内	1	1		2	2	3	5			3	1	2	20
県内				1			2			1		3	7
県外	2		2	1	2	3	3		2	5	1		21
不明						1	2	2			2		7
合計	37	27	42	40	48	51	63	44	33	51	44	43	523

令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 初期相談 受付分類・対応方法

介護保険制度に関わる内容が全体の約7割を占める。必然的に、ケアの内容に関わる事項や介護保険代行申請へ繋がっている。

相談者から介護保険申請に至った後のケアマネジャー紹介やそれに伴う制度の説明が多くなっている。

成年後見制度に関わる、新規相談はないが、こちらから必要性を判断し、制度活用へ繋げることが多い。

(1)受付分類（複数選択）

内容	前期	後期	計
状況把握	62	73	135
地域の社会資源	8	13	21
相続・遺言名等	0	3	3
介護保険外制度について（障がい等）	8	11	19
介護保険関係	151	177	328
介護保険代行申請（更新申請含む）	108	134	242
ケアマネ紹介	18	19	37
介護保険外サービス	6	6	12
成年後見制度	0	0	0
他包括からケース引き継ぎ	5	3	8
虐待関連	2	3	5
困難事例	8	9	17
消費者被害	2	1	3
生活困窮	4	3	7
認知症関係	15	23	38
その他（注1）	35	26	61
合計	432	504	936

（注1）家族間トラブル ゴミ屋敷 近所トラブル等

介護保険制度説明、代行申請、実態把握が上位を占めている。

介護認定が出ている方の相談や、要支援認定が出たケースは委託でケアマネジメントを依頼する上で、ケアマネとの関わりが多くなっている。

相談はあるが認定申請に至らないこともあり。

代行申請は前年度より79件増

(2)対応方法（複数選択）

内容	前期	後期	計
実態把握	80	93	173
介護保険代行申請（更新申請含む）	108	134	242
介護保険制度説明	115	127	242
ケアマネ紹介	18	19	37
認知症関係情報提供	2	4	6
老人福祉施設情報提供	1	4	5
成年後見制度説明	0	0	0
ケアマネへ連携	17	30	47
市へ連携	9	12	21
民生委員へ連携	4	8	12
デイサービス情報提供	8	7	15
福祉用具事業者情報提供	5	12	17
サロン関係情報提供	1	0	1
担当包括の紹介	5	5	10
傾聴	10	9	19
介護保険外（自費）サービス情報提供	14	8	22
医療機関へ連携	12	12	24
その他（注2）	39	28	67
合計	448	512	960

（注2）カンファレンス参加、認知症対応方法

他包括との情報共有（連携）など

制度の狭間のケースでは、受診同行、市役所手続き付添い  
家族関係の背景でくるみが介入せざるを得ないケースあり。

#### 4. 看護師業務報告

##### (1) 包括保健師部会事業計画活動報告

###### 1) 認知症対策活動報告

###### ・DVD作成

認知症サポーター養成講座やオレンジDayで活用するDVD作成を行った。認知症予防班のメンバーで役を演じ、認知症の方への対応方法、「良い例」「悪い例」を分かり易く構成した。

###### ・茅ヶ崎オレンジDayへの協力(R3年12月26日)

##### (2) 医療、介護の相談及び啓蒙活動

###### 1) 松林地区(長寿会)昼食会

コロナウィルスの影響で中止

###### 2) 各サロンへの参加についても、コロナウィルスの影響で開催サロンが少なく参加はできなかった。代表の方へのくるみ通信の配布は数か所行った。

###### 3) 月2回松林公民館と合同開催「松林赤とんぼクラブ」についても、コロナウィルスの影響で実施できなかった。

###### 4) フレイル予防を目的とした「くるみクラブ」(ポールウォーキング)を公民館で前期・後期と全8回実施。4回は、コロナウィルス「まん延防止等重点措置」発令の為に中止とした。

###### 5) 精神疾患の疑いがある方へ、家族および本人に対して保健所と一緒に面接、相談に対応した。

##### (3) 家族介護教室実施報告

コロナウィルス感染拡大防止の観点から計画せず実施しなかった。

##### (4) すこやか支援プログラム事業報告

第1教室・第2教室それぞれ2名の実績(お出かけ機能アップ教室)あり。

##### (5) 認知症初期集中支援事業

「認知症初期集中支援チーム員会議」への出席および、2事例提出  
認知症独居の方への就労支援や消費者被害、成年後見制度の活用などの視点で事例提出を行い支援方針検討し、対応した。

##### (6) 認知症サポーター養成講座

R3年12月21日(火) 松林サポートセンター ボランティア対象

R4年3月12日(土) 松林ケアセンター登録ヘルパー対象 全2回実施

## 5. 社会福祉士業務報告

### \*社会福祉士部会での主な活動

月に1回、全地域包括センター社会福祉士による会議を開催し、  
下記(1)～(4)の4つの委員会に分かれ、専門的な活動を通して専門性の向上を図る  
ことや各包括の取り組み等を共有する場としている。  
地域包括支援センターくるみは「勉強会班」担当であった。

- (1) 高齢者虐待予防委員会
- (2) 成年後見制度の活用促進
- (3) 勉強会
- (4) 消費者被害防止・地域住民・福祉関係職員に対する啓発活動及びネットワークの構築

### 実施内容

R3年12月21日 「身元保証について」の勉強会を開催

講師 一般社団法人エンライフ協会 對比地 寿夫氏・柴山 格氏

### (5) くるみ権利擁護関連：相談対応状況（福祉相談室との連携）

\*件数は、「運営事業実施状況報告」参照

#### 1) 高齢者虐待

- ・被虐待者が認知症症状あり、息子から母親への心理的虐待の疑いケースは2件あった。いずれも近所の方からの通報により介入となった。  
市ケースワーカーと連携をとり、訪問により状況確認を行い、抑止・悪化防止に繋げていく対応を継続。

#### 2) 成年後見制度

- ・市町村申し立てからの制度活用へ繋ぐケースは2件あった。  
認知症症状により、金銭管理ができていないこと、病識もない為  
健康管理の点からも支援者の介入が必要となった。  
市ケースワーカーと連携し、申し立てとなる見込み（R4年度に申し立て）

#### 3) 消費者被害

- ・訪問営業による、床下の消毒や、網戸の交換について、契約書内容不備等でそれぞれ「クーリングオフ」手続きの支援を行った。
- ・上記、成年後見制度活用の同ケースでは、自宅売却を伴う大きな消費者トラブルにあり、市役所、弁護士、ケアマネジャーと連携し対応を行った。

## 6. 主任介護支援専門員業務報告

### (1) 主任介護支援専門員部会

- 毎月1回、第2～第4木曜日に、市役所会議室若しくは医療センターにて開催された。但し6月と令和4年2月に関しては、ZOOMでの開催となった。感染症予防対策の他に、ZOOMでの研修会議に慣れる目的もあった。
- 各包括支援センターの活動報告、情報共有、研修報告等行なった。

### (2) 介護支援専門員に対する後方支援 ネットワーク構築

#### ○事例検討会

- ・7/29(木) 14時～15時半 包括青空と共催  
ぽぶり茅ヶ崎デイサービスフロアを借り、参集で行なった。  
事例提出者2名、主催2名を含め 合計17名参加

#### ○自立支援型地域ケア個別会議及び事例検討会

- ・12/15(水) 14時～16時 市役所本庁舎4階会議室1  
全3回の3回目へ出席

##### 1) 個別会議検討テーマ(司会を担当)

「現役世代の利用者が望む暮らしに向けてどう支援していくか」

##### 2) 事例検討会テーマ

「障がいを抱えた人がその人らしく社会参加していくために必要な支援について」  
両検討テーマに沿い、リハビリテーション、就労支援、臨床心理士、  
市障がい福祉課等、各専門家が助言者として参加

#### ○主任介護支援専門員部会 地域共生社会研修チーム主催研修

- ・R4/2/9(水) 18時～20時 参加方法＝ZOOM  
タイトル：「ケアマネージャーに地域づくりは出来る！」  
講師：国際医療福祉大学大学院 石山麗子 先生  
参加者は講師、主催を含め、合計47名

#### ○ケアマネージャーからの相談件数・内容

- ・「運営事業実施状況報告」を参照

### (3) 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

#### ○介護予防支援及び介護予防マネジメント件数

- ・2「介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告」参照

7. 地域行事参加・活動報告

サロンは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多くは開催できていない。  
 くるみクラブ（ポールウォーキング）を新規事業として実施した。  
 認知症サポーター養成講座は2回実施。

令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 行事参加・活動報告

月	日にち	行事内容	対象者	参加人数
4	26	室田はなそう会	室田在住高齢者等	15名
5	13	高田ミニサロン・ゆうの会	高田自治会高齢者等	5名
	31	室田はなそう会	室田在住高齢者等	10名
10	2	家族介護教室	地域住民（家族介護教室出席者）	12名
	13	くるみクラブ	地域住民	10名
	27	くるみクラブ	地域住民	10名
11	10	くるみクラブ	地域住民	10名
	23	くるみクラブ	地域住民	10名
	25	あじの会	高田ニュータウン在住高齢者等	10名
12	8	くるみクラブ	地域住民	10名
	15	あかしあなごみ会	菱沼在住高齢者等	10名
	21	認知症サポーター養成講座	松林サポートセンター	3名
	22	くるみクラブ	地域住民	10名
	26	オレンジデイ	市内地域住民	多数
1	6	くるみクラブ	地域住民	10名
	19	くるみクラブ	地域住民	10名
3	12	認知症サポーター養成講座	松林ケアセンター	8名

8. 会議報告

職員会議は全てWEB開催とした。  
 法人業務改善会議は法人定例会議であり管理者が参加している。  
 運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面会議として実施箇所あり。  
 地域ケア会議は年1回開催し、市人材育成で取り組んだ地域診断「孤立化防止」をテーマとした。

令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 会議報告集計

会議名	前期	後期	計（回数）
職員会議	6	6	12
保健師部会	6	6	12
社会福祉士部会	5	6	11
社会福祉士部会勉強会		1	1
主任ケアマネ部会	6	6	12
主任ケアマネzoom研修	1		1
福祉相談室部会			0
福祉相談室連絡会	3	5	8
福祉相談室班打ち合わせ			0
福祉相談室勉強会	3	2	5
福祉相談室班プラン検討			0
いこいの郷運営推進会議			0
くすの木はる運営推進会議			0
リフシア松林運営推進会議			0
ミント高田運営推進会議			0
ウルトラリハ運営推進会議			0
レコードブック運営推進会議			0
成年後見支援ネットワーク勉強会		1	1
地域ネットワーク会議（パインナッツ）		1	1
民児協定例会	3	4	7
第1ブロックケアマネ会議			0
認知症初期集中支援チーム員会議	4	5	9
事業計画ヒアリング		1	1
運営評価ヒアリング	1		1
都市政策課ヒアリング			0
地域ケア会議		1	1
地域ケア会議推進会議		1	1
自立支援型地域ケア個別会議		3	3
管理責任者会議	1	2	3
法人業務改善会議	6	5	11
若年性認知症のつどい うみの会	2		2
まちぢから協議会 福祉部会		2	2

赤とんぼクラブ（くるみ独自事業）打ち合わせ	1	1	2
包括事業会議	2		2
地域包括連携会議		1	1
認知症対策検討会	1		1
ケアマネ事例検討会	1		1
合計	52	60	112

## 9. 研修報告

法人内ケアマネ研修会はコロナウイルス感染拡大防止の観点から4回は中止となった。WEB開催が主流となり、可能な範囲で出席した。

### 令和3年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 研修報告集計

法人内外	研修名	前期	後期	計（回数）
法人内	ケアマネ勉強会	4	4	8
	くるみ勉強会	1	3	4
	合計	5	7	12
法人外	人材育成研修	4	5	9
	多職種連携研修会	1	1	2
	成年後見ネットワーク勉強会	1		1
	地域包括ケア時代の在宅医療・多職種連携WEBセミナー	1		1
	認知症キャラバンメイト研修	1	1	2
	ケアマネ更新研修	5		5
	ハラスメント対策研修	1		1
	包括支援センター初任者研修		2	2
	包括支援センター管理者研修		1	1
	給付適正化研修		2	2
	民見協 高齢福祉部会 研修会		1	1
	若年性認知症研修会		1	1
	虐待防止研修		1	1
	認知症初期集中支援チーム員会議研修		1	1
	社会福祉士実習主導者講習		2	2
	地域共生社会研修		1	1
	ベネッセオンライン勉強会		2	2
	合計	14	21	35

10. 令和3年度福祉相談室事業報告

令和3年度の相談件数は昨年より50件増加。「対象者」は高齢者が半数。今年度は直接的に児童に関わるケースはなかったが、小さな子どもを抱える本人の関わりもあり、家庭児童相談室や医療機関等の他機関とのカンファレンスを複数回開催した。「相談内容」は高齢者の相談が多かったため介護保険に関わる内容が多かったが、次いでお金に関する相談が多かった。生活困窮ケースが昨年度より30件増加しており、生活保護やフードバンクに繋げる等、より迅速な対応が求められる場面も多かった。

①対応顧客数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケース件数	20	23	22	20	26	20	18	24	20	19	14	14	240
新規(ケース件数を含む)	5	7	3	3	3	3	5	6	4	2	0	0	41
再掲(ケース件数と新規を含む)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(件)

②相談の対象者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
18歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19歳～29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
30代	0	2	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	8
40代	4	5	4	4	4	2	2	4	3	5	4	3	44
50代	3	1	3	4	3	5	4	3	1	1	1	1	30
60代	2	4	4	1	4	1	0	1	1	1	0	1	20
70代以上	10	10	10	10	12	11	9	14	13	11	8	8	126
計	20	23	22	20	26	20	18	24	20	19	14	14	240

(件)

③世帯構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
独居	2	2	3	2	3	3	3	8	5	3	3	2	39
高齢者世帯 (独居以外)	4	6	4	4	6	2	4	6	6	5	2	5	54
家族同居	13	15	14	13	17	14	11	8	8	10	6	6	135
ひとり親世帯	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
施設	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	3	1	10
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	20	23	22	20	26	20	18	24	20	19	14	14	240

(件)

④相談内容(複数計上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
疾病	3	3	4	2	2	3	3	9	4	4	3	3	43
身体障害	2	0	2	2	4	3	2	2	2	2	2	2	25
知的障害	1	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	7
精神障害	7	7	6	6	8	3	5	8	6	6	3	2	67
発達障害	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	15
認知症	1	4	2	2	1	0	3	4	3	4	3	1	28
後見関連	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
介護保険	5	8	5	7	8	6	5	11	10	10	7	5	87
DV・虐待	0	2	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	7
アルコール・薬物等依存	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族関係	5	6	5	9	6	5	3	7	8	3	3	4	64
ひきこもり、不登校	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	6
学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て	1	2	1	0	1	2	1	0	1	1	0	1	11
住まい	3	2	6	4	9	3	3	3	1	2	2	1	39
地域との関係	0	2	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	7
仕事(ボランティア含む)	1	2	1	1	0	1	2	1	2	2	1	2	16
お金	5	4	5	3	9	6	5	4	4	5	2	4	56
日常生活全般	3	1	1	2	0	3	2	1	2	0	1	2	18
外国人の生活	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
消費者被害	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
数値不明	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
安否確認	0	2	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	7
その他	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
計	43	52	46	44	53	38	39	55	45	41	29	31	516

(件)

⑤対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
情報提供・申請の支援	7	7	11	4	10	10	9	15	12	8	3	6	162
地域支援体制構築	0	4	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7
言葉検閲への同行支援	3	8	6	1	1	4	1	7	4	4	5	2	46
実態把握	9	13	9	9	12	7	10	5	11	4	7	6	102
虐待・DVへの対応	0	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	6
緊急対応	1	1	1	0	0	0	2	3	1	2	0	0	11
寄り添い、傾聴	9	6	11	10	10	7	7	12	8	9	5	7	101
関係機関等への情報提供や連携	9	8	9	13	15	17	9	11	8	13	9	9	130
計	38	49	48	38	50	45	38	55	44	41	29	30	505

(件)

⑥生活困窮（生活保護受給者含まない）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活困窮	3	7	11	13	10	8	11	7	7	8	6	2	93

(件)

⑦相談室主体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談室主体のケース	10	9	12	7	12	13	10	16	12	8	9	3	121

(件)

⑧ケース会議開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
主催	0	3	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	7
出席	2	2	1	2	3	0	0	2	0	1	0	0	13
計	2	5	1	3	3	1	0	2	0	3	0	0	20

(件)

⑨閉止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
閉止	1	1	2	3	7	7	2	2	1	2	1	0	29

(件)

⑩その他（会議・協議会等参加）

福祉相談室連絡会  
 福祉相談室勉強会  
 地域活動支援センターパインナッツネットワーク会議  
 コーディネーター配置事業ネットワーク会議

月1回（コロナ禍で一部中止あり）  
 月2回（コロナ禍で一部中止あり）  
 奇数月1回（コロナ禍の為、対面開催は1度のみ、その他は書面にて参加）  
 月1回（まん延防止等重点措置中は中止）